

---

---

# 復旧・復興に関する市民アンケート調査

---

---

報 告 書（その2）  
（その他回答、自由記述意見等）

平成31年2月

宇和島市

# 目次

I 「その他」などのテキスト回答	1
1 回答者について	1
2 当日(7月7日)の様子について	2
3 すまいと暮らしの再建について	15
4 安全な地域づくりについて	34
5 産業・経済復興について	39
6 防災関係 (自主防災組織代表者・自治会長・消防団等)の方	45
7 自由意見	63
II 自由記入欄	69
1 アイデア・提案	69
2 意見・要望	92
III 調査票	116

## I 「その他」などのテキスト回答

### 1 回答者について

(1) あなたの世帯構成について教えてください。〈単数回答〉(問3)

○その他の記載 (回答数: 160件)

- ・親子 (50件)
- ・単身と子ども (4件)
- ・母子家庭 (2件)
- ・母と本人 (2件)
- ・介護施設に入所しています。
- ・一人暮らし
- ・子どもと2人
- ・嫁
- ・夫婦と弟
- ・母親と同居
- ・本人と子供1人
- ・身体障がい者の息子と
- ・夫婦と子供、親、祖母
- ・両親と姉と自分
- ・姉(本人)と弟
- ・夫婦、子、両親
- ・2世帯住宅
- ・同じ家に別世帯で叔父が同居
- ・祖父と孫
- ・自分と娘
- ・本人と子ども
- ・娘孫世帯本人(母) 息子は入院中
- ・父子家庭と親(母)
- ・本人と1人
- ・自分と息子夫婦
- ・夫婦、親、子供 (4人)
- ・単身 65歳以上と娘
- ・自分と子ども
- ・親1人 86歳、子1人 55歳
- ・単身 (65歳以上) と息子夫婦
- ・夫婦、親(母)、妹
- ・単身と親 (9件)
- ・本人と母親 (2件)
- ・親 (2件)
- ・80歳以上の母と長男
- ・単身です。
- ・夫婦と子どもと親
- ・妹と同居
- ・孫
- ・同居(嫁)
- ・本人と母
- ・私と子供のみ
- ・他の修行者3名
- ・姉と同居
- ・子供夫婦と
- ・母親と長男
- ・母、長女
- ・老親夫婦と本人
- ・母、娘、孫
- ・両親と本人
- ・夫婦と子供夫婦
- ・親と姉妹
- ・高齢の片親と子
- ・子供夫婦と私
- ・長女
- ・実母、私
- ・夫婦と義理の姉
- ・夫と子ども
- ・嫁と夫の親
- ・単身、子供、親
- ・兄弟夫婦と親
- ・子ども (5件)
- ・母と子 (2件)
- ・母親 (2件)
- ・夫婦と長男夫婦
- ・未亡人
- ・父と長男2人
- ・本人と娘1人
- ・本人と子供
- ・私と子ども夫婦
- ・本人と母親
- ・母親と二人
- ・母と子供
- ・親と夫婦と子
- ・親と自分
- ・姉妹
- ・本人、親
- ・本人と父
- ・本人と親1人
- ・夫婦と長男夫婦同居
- ・本人(80歳)と義母
- ・夫婦と子どもと親
- ・犬、猫
- ・夫婦と親と子ども
- ・本人と娘
- ・息子夫婦と私
- ・妹、妹の娘
- ・母親と娘
- ・父、母、本人
- ・夫婦と兄弟
- ・実母と娘

## 2 当日(7月7日)の様子について

(4) 避難を始めた理由は何ですか。(あなたとご家族で異なる場合は、一番初めに避難した人について教えてください。<複数回答> (問8)

### ※避難した方

○その他の記載 (回答数：44件)

- ・ 自宅の裏が山だから。
- ・ 避難しなくても大丈夫。
- ・ パトカーのマイクの呼びかけ。
- ・ 以前に何度か土砂崩れのあったみかん山を注視していて、水の色が変わった為。
- ・ 道に土砂が多くて出られず警察の助けを借りた。
- ・ 避難をしない方が良いと思った。できなかった。
- ・ 消防団にいて出動中の為。
- ・ 消防団員に助けを求めた。
- ・ 自宅の2階へ。
- ・ 障がい者の避難を助けてくださる人が来たから。
- ・ 古の土砂災害のトラウマから。
- ・ 裏山が崩れだした。
- ・ 家族からの電話。
- ・ 1階にある大切なもの(家具家電含む)を守るため。
- ・ 消防団員に避難を勧められた。
- ・ 停電になったから。
- ・ 裏山が崩れたため。
- ・ 明るくなったから。
- ・ 娘から避難を勧める電話があったから。
- ・ 水が出ないため。
- ・ 当日は浸水により家より外に出ることが困難だったので2階に避難した。
- ・ 田や川の水量が増して、自宅前の県道が川になり上流から木材等流れ出したから。
- ・ 山崩れがおこり、ぶつかって、傾いたため。
- ・ 子どもから避難を勧められたから。
- ・ 消防団員で消防活動をしていた。
- ・ ①過去に新居浜での水害に遭遇していた経験もあったから。今回は危なそうと思い避難しました。②今まで裏山の見たことのない場所から水が出ていたので。
- ・ 家の前の道が川になった。
- ・ 自分で安全確認したから。
- ・ ゴロゴロという異様な音。

- ・ Line で上流地域の被害状況を知ったから。
- ・ 大雨警報が出たから。
- ・ 車の避難の途中、水位が高くなり、自宅に帰れなくなったので公民館に入った。
- ・ 自宅横の山が土砂崩れして身の危険を感じたから。
- ・ 川が氾濫して自宅に水が押し寄せていたから。
- ・ 家から出ることができなかった。
- ・ 1Fが浸水した（床上115cm）から。
- ・ たまたま仕事で家を出た為。
- ・ 5:00頃玄関の敷居から泥水が入り始めたから。
- ・ 子からの連絡（家に来た）→消防団。
- ・ 主人のみ早朝出勤のため被災せず、妻と子が避難した。
- ・ 外に出ることはできないので、2階へ。
- ・ 家の北側、東側、西側が土石流で身動きが出来なかった。
- ・ 自治会長に勧められ、誘導してもらう。

（5）避難したときの主な交通手段は何ですか。＜複数回答＞（問9）

※避難した方

○その他の記載（回答数：87件）

- ・ 2階に上がっていた（36件）
- ・ 近所の車（8件）
- ・ 消防団の人の車で（7件）
- ・ 自宅から出ていない（6件）
- ・ 親戚に同乗（3件）
- ・ タクシー（3件）
- ・ パトカー（2件）
- ・ 親戚に来てもらった（2件）
- ・ 知人の車（2件）
- ・ 徒歩。
- ・ 徒歩と消防団の車。
- ・ 車で迎えに来てもらった。
- ・ 避難しなくても大丈夫。
- ・ 建物の中での移動。
- ・ シーボ車。
- ・ 役員の人。
- ・ 消防団の誘導。
- ・ トラック。

- ・長男に背負ってもらう。
- ・消防団員。
- ・消防団の方のトラック。
- ・おじさん家の娘、迎え来る。
- ・介護タクシー。
- ・孫の運転。
- ・消防団の方におんぶしてもらいました。そして軽トラにのせてもらいました。
- ・消防隊員におんぶされて避難。
- ・おぶってもらって、要介護で自力では無理だった。子供は徒歩。

(6) 避難しなかった理由は何ですか。〈複数回答〉(問10)

※避難しなかった方

○その他の記載(回答数:152件)

- ・道路が土砂や石で避難できなかった。
- ・想定外の雨量で川が氾濫したから、気づいたら外出できない水位だった。
- ・消防団の活動をしていたから。
- ・仕事で出かけていたから。
- ・消防団の活動で別の場所の災害対策をしていたため。
- ・気づいた時にはすでに床まで浸水していた。
- ・自宅が冠水しそうになったから。
- ・自治会長。
- ・裏山に砂防ができているから。
- ・職場にいたため。
- ・どこかで大丈夫と思っていた。
- ・台所に水位が上がり、それ以上水位が上がらなかった。
- ・⑤で降雨が30~40分継続していたら避難した可能性大。
- ・雨が降っていたのはわかっていたが、結果的に状況が分からなかった。
- ・家の前が駐車場で水没していて出られないので。
- ・須賀川沿いなので、水位をずっと見ていた。
- ・予想以上の雨量で外に出ても危険だった。
- ・家にいなかったから。家に帰ることができなかったから。
- ・自宅周辺の川が少し氾濫し、道路まで土砂など流れ出る。
- ・市からの避難勧告(放送、呼びかけ)は全くなかった。
- ・4時40分から、いつもと違う川の水位を見て、テレビで情報を確認していた。広島、岡山の情報を見、出るのを待っていた。画面情報は紫色であったが、出なかった。
- ・家の周り、水でひざ以上だった。

- ・ 今までの経験で大したことはないと思っただが、すごかった。
- ・ 早朝、状況が分からなかった。
- ・ 油断していた。大したことないと思っていた。
- ・ 床下浸水だけで、家にいられたので。
- ・ 浸水し始めたから家の中で2階に物を移動していたから。水がすごく早く家を取り囲んだから。
- ・ 避難する場所がない。道路が土砂、水流で通行できないから。
- ・ 仕事をしていた。
- ・ 急ぎの仕事が入ったから。
- ・ あっという間に床上まで浸水して何もできなかった。
- ・ 状況がわからず2階の自室で寝ていた。
- ・ 消防団と作業していたから。
- ・ 土砂崩れと、家の周りが川のようになったので、とても避難できる状況ではなかった。
- ・ すでに浸水して動くことができなかった。
- ・ 災害被害の状況の見回りのため。
- ・ 水が家に入ってきたし、外にも水がたくさんで、外に出られる状況になかった。(扉があかなかった)
- ・ 水の勢いが早く、出られなかった。
- ・ 浸水から大事なものを守る行動をした。
- ・ 避難する道路がなかった。
- ・ 裏の山が崩れ、木、竹、ミカンの木等と共に土砂や泥水が山から大量に流れ落ちてきました。道も膝まで泥水があり、外に出られなかった。2階の海側の部屋で過ごしました。
- ・ 東京に行っていたから。
- ・ 避難しなくても大丈夫と判断したから。
- ・ 早朝だったので外が危険な状態だったのに気がつかず、気づいた時には浸水があって動けなかった。
- ・ 仕事で家にいなかった。
- ・ 消防団活動。
- ・ 2階にいた。外に出られない状況(川の氾濫)であった。
- ・ 自宅内への漏れを防止(土のう積など)
- ・ 今まで浸水したことがないのに床下に水が入り始めたのでバケツで水出しをした。
- ・ 水が一気に入ってきたが家財道具などを運んでいた。40分ぐらいでひいていった。
- ・ 自宅より公民館の方が浸水する場所にあるため。
- ・ AM8:00 すぎごろから雨はだんだん止む方向になるようだった。
- ・ そんな暇がない。
- ・ 仕事に行っていた。
- ・ 近所の応援のため。

- ・ 自宅前の道路が冠水していたので溝の土砂をのけていた。
- ・ 仕事だった。
- ・ 川の水位が上がって、道が通れなかったため。
- ・ 今まで浸水したこともなく、水が来る 10 分前には何の兆候もなかった。
- ・ 消防団員なので活動していたため。
- ・ 朝 6 時 30 分ごろ、起きて気づいた時にはもう浸水していて、脱出不能だった。
- ・ 気づいた時には家の周りは 20 cm～30 cmの水位になっていた。
- ・ 仕事だったため、避難していない。
- ・ 工作中。
- ・ 流れてくる土砂が家に入らないように土砂除去をしていた。
- ・ 自主防災活動。
- ・ 地区見回りで家に連絡のため。消防待機（家族全員役員）
- ・ 自宅周辺が既に浸水し、気付いた時には遅かった。1 時間ぐらいで水も引いたため。
- ・ 2 階に逃げた。
- ・ 水の流れが速く、道と川の境がわからなくて。
- ・ 今まで被害にあったことがなく大丈夫だと思っていた。
- ・ 避難場所がない。
- ・ 考えている間に、川の水位が上がり、自宅から出られなくなった。
- ・ 浸水していたから。
- ・ 避難勧告が出なかったため。
- ・ 避難しようと準備を始めたとき、土砂に巻き込まれた。
- ・ 施設に入所中。
- ・ 安全だと思ったから。
- ・ 嫁の実家の浸水手助けのため。
- ・ 辰野川の水位の状態を見ていた。水の高さが道路より 30cm ほどになった、それ以上になったらどうしようかと考えていた。
- ・ 道が浸水していて行くことができなかった。
- ・ 仕事だったから。
- ・ 消防団の活動中だった。
- ・ 水位の上り方が急すぎて、動きが取れなかったため。
- ・ 車で付近の橋の上に独立していた。前後ともに身動きが取れない状態。独立であり(洪水)避難できないので、橋が落ちるのを待っている状態だった。(7 時間)(前後 2mの水)避難とは言えないと思うが。
- ・ 家の裏の溝を水が流れていたが泥が入っておらず、きれいだったため、池や川の方が危険でこれに取りかかり、雨もやみ安全と思い、鶏に餌をやっていると、落雷かと思うと土砂が来ていた。
- ・ 途中で消防の方が来て、親だけ、息子方に避難する。
- ・ 自分は助かると思ったから。

- ・気がついた時には避難できる状況ではなかった。
- ・家の周囲まで浸水し、自動車も浸かり、途方に暮れて身動きが取れなかった。
- ・避難場所が浸水する場所だった（立間公民館）
- ・一部浸水したが、生活に異常はない。自己で対処できると判断した。
- ・床上浸水で水がひいたから。
- ・避難勧告は出たが、水位、水量の様子を見ていた。
- ・水位が増えるのが早かったため、自宅から出ることができなかった。
- ・道路が浸水し逃げられる状態でなかった。
- ・未明のため周囲の状態がよくわからなかった。
- ・大型犬、猫がいるから。
- ・浸水時に避難勧告が出ていたため、それまでは呼びかけはなかった。
- ・寝ていた。目が覚めたのが朝8時。
- ・家の前の道路が川のようになり、家の中に水が入り、ゴミが流れてきたので、排水溝にたまったゴミを掃除していたため。
- ・勤務地の災害情報収集のため。
- ・大丈夫だと思ったから。
- ・避難情報が届かなかった。潮止水門が開いていたと思っていたが現実には閉じていた。
- ・川、山、ダム等が離れているから大丈夫だと思った。
- ・家が安全だから。
- ・追手で心配がないから。
- ・指示が出ていない。
- ・床下浸水したが、避難するほどではなかったから。
- ・平屋で浸水しましたが、避難のしようがなかった。
- ・早朝、目が覚めて外を見ると両方の道路が川のように激流になっていたため、家が少し高いところにあるので、家の方が安全だと思った。
- ・浸水するのが早くて、2階に避難するのがやっとだった。
- ・仕事。
- ・水が表と裏から入ってきたので、荷物の処理に追われた。
- ・避難所が遠く、自宅の周辺は土石流で、老人一人では動けない。
- ・店舗があるため。
- ・家の周りが浸水していて危険を感じたのと2階があったから。
- ・近所に90歳前後の夫婦がおり、声掛けをしていたら急に増水したので逃げ遅れた。
- ・床下浸水はしたが避難するほどではなかった。
- ・床下浸水したが水がひいたため。
- ・どのように避難していいか不安。何もなかった時に周りの人の後での風評被害。
- ・車で近くを見て回ったが避難しなくても大丈夫と判断。
- ・現在の現況と経験から。
- ・2階に住んでいるが7/7の朝5時30分は浸水なし。

- ・勤務中だった。
- ・町内に浸水の可能性のある家があるため、また、注意喚起のため。
- ・道路が川のように外に出られない状態でしたので。
- ・自宅は浸水しないと思い込んでいたが今回は川の流れや雨の降り方が違うなと思っていたら水位が上がった。
- ・避難した方が危ないし、場所もないから。
- ・家の前の道が氾濫して動けなかったから。
- ・川よりも高い所。安全な場所なのでよかった。
- ・浸水や土砂が家の中に入ってくるのを少しでも防ぎたかったから。
- ・仕事に行ったから。
- ・4階に行けばいいと。
- ・消防団員として活動していた。勤めに出ていた。
- ・土砂が流れてきたが、大丈夫だと思った。
- ・自営業のため、浸水して商品の移動をしていた。
- ・土砂崩れにより孤立集落になり、避難できなかった。
- ・避難場所も安全ではないから。
- ・農道からの雨量が自宅の方へ流れ込んできており、その対応をしていた。
- ・自主避難する前から自宅付近が浸水していた。
- ・潮位が干潮だったのと川の水位を考慮した。
- ・浸水被害をできるだけ食い止めたかったため。
- ・避難勧告を「避難をお勧め」ぐらいにしか思っていなかった。
- ・用水がふさがると浸水する家屋が近所にあったから。
- ・地区外にいた。
- ・土砂の流出で、排水溝が徐々にふさがり、床下浸水になり、一生懸命に土砂を掻き出していたが、人間1人や2人の力でも何もできないと言う無力さに打ちのめされた。
- ・私自身仕事をしていた。家族は家にいた。
- ・我が家に2階はありませんがお隣の2階の干場に（避難できる）。許可は得ています。外階段。ポンプアップしていただいているものと思って安心していましたが、今回はしていただいていた様です。30数年床上2回床下3回高齢、独居老人になりますと実に不安です。本管工事が無理であれば忘れずポンプアップをお願い致します。
- ・主人のみ早朝出勤のため被災せず、妻と子避難した。
- ・床下浸水に備え土のうの段取りのため。

(7) 災害に対して、あなたが日頃から知っているもの、準備しているものは何ですか。

<複数回答>(問11)

○その他の記載(回答数:28件)

- ・情報から聞き取り、自宅周辺の危機感を感じ取って、早めに行動すること。
- ・豪雨市街では避難場所の方が低くて危険。
- ・今回避難場所が土砂崩れを起こしていた。
- ・災害に遭うまでは何もしていなかったが、少し気にするようになった。持ち出し品も少々。
- ・私一人では障がい者をどうすることもできなかったのが、救助を待つ(救急に連絡してもダメだった)
- ・多くの非常食、非常持ち出し品を備えている。
- ・特に津波や地震の時の落ち合う場所を明確に決めている。
- ・山に保管。
- ・ある程度はしているが、十分とは言えない。
- ・不明。
- ・車にもいろいろ⑥(非常持ち出し品)を載せている。
- ・発電機を持っている。
- ・簡易トイレ。
- ・市のラジオのみ、OK。
- ・雨の降り方や川の水位状況を見ている。
- ・毎日の飲み薬。
- ・毎回台風になり、少し雨が降ったら自宅前の川が氾濫するので、市に話をしても何もしてくれないため、自分で土のうを準備したり防水板を作成している。今回の被害も県、市の責任だと思っています。
- ・地区の避難場所が山でしたが、土砂が流れているため避難場所がない。
- ・宇和地区に大雨警報が出たら必ず避難する。
- ・家の中で避難場所を決めている。ヘルメット、懐中電灯、笛など常備。
- ・指定避難場所とは別の場所への避難を考えている。
- ・妹、娘に連絡する。
- ・少しだけはしている。
- ・津波災害避難場所を知っている。
- ・その時の状況で準備を早めにして持って行くようにしている。
- ・缶に入っているお菓子。出入口に少しの持ち出し分だけ。
- ・土のうを用意している。
- ・家にいる時とは限らないので待合場所等日頃より話し合っ決めておこうと感じたのでこれから決めます。電話等通じないようになる可能性もある。

(9) その情報はどこ(何)から入手しましたか。〈複数回答〉(問13)

※問12で「1情報を入手し、参考にした」を選んだ方

---

○その他の記載(回答数:30件)

- ・周りの状況。
- ・市の緊急放送。
- ・以前に土石流の前兆はきれいな水が流れると聞いていた。その通りだったから3人で逃げた。
- ・そんなに降っている感じがしてなかった。
- ・消防団員。
- ・周りの状態を見て判断するので十分と思ったから。
- ・豪雨災害の心配のない地域に住んでいるから。
- ・消防団から川の水位を報告してもらっていた。
- ・消防団員。
- ・気が付いた時には大豪雨になっていた。
- ・他のホームページ。
- ・川の水位や自宅周辺の水位を見て。
- ・民間の気象情報、天気予報。
- ・パソコン。
- ・テレビのデータ放送(降水ナウキャスト・ネット接続)
- ・インターネット(パソコン)
- ・マイク放送、消防団の声掛け。
- ・消防団の方。
- ・消防団。
- ・他県の報道ばかりだった。ここでも同じようなことになるとは、その時まで想像できなかった。
- ・近所の状態、家の周り、川の水位。
- ・停電が直ってから。
- ・自分より他の人の救助をした。
- ・現場など見に行った。
- ・宇和島市の防災放送。
- ・近所の人。
- ・消防団員。
- ・現実ドカンと来た。
- ・ネットの雨、潮の状態。
- ・向かいの町内放送。

それはなぜですか。(情報を参考にしなかった理由) <テキスト回答> (問 13)

※問 12 で「3 参考にしようとは思わなかった」を選んだ方

○自由記述 (回答数: 137 件)

- ・ これまでに経験がなかったから。
- ・ 自分で判断せざるを得ない状況だったので。自分の目を見てヤバイと思った。
- ・ 自宅や川などの状況を確認して、その時はまだ自宅が安全だからと思ったため。
- ・ 入院中で自宅にいなかった。
- ・ 自宅の周りを見に出た。
- ・ 自己責任だと思うから。
- ・ 自己判断にて対処する。
- ・ 自分の目で雨量を見て判断した。
- ・ 職場にいたため。
- ・ ドアを開けたらすでに怪しい匂いがしていたから。
- ・ 一時的な雨だと思った。
- ・ 家にいなかった、帰ることができなかった。
- ・ 参考にするまでもなく、浸水した。
- ・ 自分で判断する。
- ・ 現状見て避難するのに必死だった。
- ・ 怖かったけど、大丈夫だと思ったから。
- ・ 大丈夫だと思った。
- ・ 気づいた時には浸水していたから。
- ・ 停電で情報等が不可のため。
- ・ 浸水し、水位が上がり始めたため、荷物を高いところにあげたり、情報を調べる時間はなかった。
- ・ 自分の目で見た状況で判断する。
- ・ 遅い。
- ・ テレビ、ラジオ、電話などすべてのものが泥水にのまれたので参考にできなかった。
- ・ 浸水はしていたが、身の危険は感じなかった。
- ・ 防災スピーカー役に立たず (聞こえない)
- ・ 既に道路も自宅も浸水し避難できない状況だったため。
- ・ 家から 5 メートル先が川です。50 年ぐらい住んでいていつも大雨の時は川の水位を見ていました。今年はすぐにいつもの年とは違うと思いきうちに避難しました (直感です)
- ・ 午後 3,4,5 時の降雨が異常なので外を見たら 6 時過ぎに急に増水した。
- ・ 自宅は安全と思っている。
- ・ 大丈夫だと思った。避難場所の方が不安だった。
- ・ 停電で何も分からなかった。
- ・ テレビなどがつかなかった。

- ・水の被害や、崩れが急だったので参考にしようがなかった。
- ・近所の人に声をかけてもらってすぐに避難したため。
- ・当時の朝、山からの雨水を畑や民家に流れないように作業していた。10時頃雨も落ち着き、近所周辺に変わりはないから。その時間帯に吉田、野村のことをはじめて知った。
- ・防災ラジオの音が聞こえにくいため。
- ・現実に見回しても、あの時は雨が降っているだけと思われたから。夜市もあったし。
- ・地震の訓練ばかりで、豪雨などの訓練をしていない。避難場所も同じところでの不安だった。避難場所も改めてほしい。
- ・すぐに避難すべき状況だったから。
- ・避難しなければならないほどの雨量だとは考えていなかったから。
- ・住宅まで浸水するとは思わなかった。
- ・停電の為。
- ・自分で判断した。
- ・介護を必要とする親がいたので安全が確認できてからでないと親を連れだせないのがわかっていて。
- ・周りの状況を見て決めました。
- ・自宅が流されるような水量でなかった。
- ・たいしたことがないと思っていた。
- ・近所での確認の方が早いため。
- ・避難できない状況になっていたから。
- ・停電でテレビ、インターネットが使用できなかった。(ケーブルテレビだから) 雨が止むまで情報が入らなかった。
- ・宇和島市内とはいえ、中心地の方の状況ばかりでうちのような奥地の情報はないため。
- ・大量の雨が降り続いたのはわかっていたが土砂崩れ土石流の発生が早朝すぎてテレビすらつけていなかった。
- ・消防団員活動をしており、指示で動いていたのでそういった時間がなかった。
- ・人ごとに思っていた。
- ・たいしたことないと思ったから。
- ・知らなかった。
- ・危機が迫っていてそのような時間がなかったから。
- ・災害が起こるとは思わなかった。
- ・安全なので。
- ・高齢なので判断できない。
- ・二名地区に関する情報はあまり適確ではない。
- ・とっさのことで、そんな余裕はなかった。
- ・立地条件と自己判断。

- ・その時はスマホの電池も少ないうえ、停電になったり、気象情報を確認できたのは、水が引いて落ち着いたころだった気がします。なんせパニックになり、大変でした。
- ・そんなに参考にするほどでもない。
- ・特別警報発令が出ていないため。
- ・広範囲な情報な為参考にならないと思った。
- ・情報を見たり、聞いていなかった。
- ・大きな災害が来るとは思わなかった。
- ・参考にしたかったが、どこに情報があるかわからなかった。その後、知人から付近の被害メールで状況がわかったが近所の水防、土のう運びで精いっぱいだった。河川等の氾濫では家屋が流されるとは夢にも思っていなかったから
- ・施設入所中。
- ・停電となっていた。
- ・家は安心と思っている。
- ・雨はすごかったが、家は大丈夫だと思ったから。
- ・現場の状況を見てから。
- ・場所によって違うから。
- ・自宅が急に浸水し、情報を得るための機器が使用できなくなった。
- ・それほど大雨になるとは思わなかった。
- ・高齢のため子どもからの連絡を待った。
- ・全く情報はなかった。しかし、目の前にいた消防団員(車2台、4名ほど)が慌てて逃げていったのを目にしたため。
- ・大雨でなかったから。
- ・家が山の下でないから。川もない。
- ・災害が来た時、何も情報はなかった。自分の目で現状を見てとっさに避難を考え家族に伝えみんな揃った時点で避難した。
- ・実際に水が上がって見えてくるまで、まさか床上まで浸水するとは思わなかった。そうなるとは全く考えなかった。
- ・過去に経験がない。
- ・自分で判断できる状態だと確信した。
- ・道路が通れず逃げ場がなかった。
- ・パートに出かけた。
- ・大災害になるとは思わなかった。
- ・他人を当てにしない。谷1つ離れた場所で、災害の程度が大きく違う。自分の考えが一番。
- ・考える暇もなく、突然のことで余裕もなかった。
- ・自分で判断する方が良策と思えたため。
- ・災害が発生したのが朝だったので、家の周りの状況を見るのが適切と思った。
- ・まさか自宅が浸水するとは思わなかった。

- ・気づいた時には浸水し始めていたから。
- ・あっという間に川が氾濫。自宅が浸水し始めたから。
- ・家の周りの水量の状況を見て。
- ・停電のため。
- ・大丈夫だと思っていた。
- ・テレビ情報だけではピンポイント情報の把握ができない。
- ・短時間での浸水で、時間的余裕がなかった。
- ・時間の余裕がなかったから。
- ・どこがどのような状況か情報が入らなかった。吉田の状況がよくわからなかった。
- ・避難の必要がないと思った。
- ・参考にするまでに大水になった。
- ・防災ラジオ受信できない。防災放送が聞き取れない。
- ・早めに避難することは常に考えている。
- ・目が覚めて外を見たときに既に浸水し始めていてテレビどころではなかった。
- ・現在の現況と経験から。
- ・情報はほとんどなかった。家の前に水が来るのを自分の目で見てまず2階に上がった。
- ・自宅はどの場所よりも安全。
- ・停電、市街への浸水、行政マイク故障と重なっていた。
- ・情報を入手するまでの時間がなかった（土砂が入ってきたのが早すぎた）
- ・浸水するのが早かった。
- ・常時家の窓等より雨の状況は把握し、いつでも対応できるようにしていた。
- ・雨量はすごかったが、特に浸水などもなく身の安全が安心できる状態だったので。
- ・防災ラジオは役に立たなかった。
- ・地域限定のピンポイントの情報ではないため。県・市町村単位だったため。
- ・仕事に行ったから。朝治まっていたので大丈夫と思った。
- ・自宅は安全だと信じていた。
- ・停電。携帯電話は電波障害。ラジオは入らない。
- ・近くに川もなく、海に近いので、大量の雨も海に流れる。
- ・携帯、インターネットの繋がりが悪く、参考にならなかった。
- ・夜間勤務だったので、寝ていた。
- ・今まで今回ほどの雨量がなかったから。
- ・市のマイク放送を頼りにしたいのですが、非常に聞こえにくく困ります。
- ・自宅近くの谷水の水量や水の色などで判断しているから。
- ・現実を見て判断した。あと10分降り続けていたら床上になっていたと思う。
- ・災害が起きるとは考えていなかったから。
- ・まったく安全な地区に住んでいるから。
- ・自宅近くを自分の目で確認する方が正確だと思った。
- ・そんな間なく雨が上がったから。

- ・避難する方が危険だと自分でわかっていたから。
- ・参考にする時間がなかった。参考にする間もなく浸水したため。
- ・防災ラジオはすぐ電池が切れる。壊れているかもしれないが、どこで直せばいいかわからない。

### 3 すまいと暮らしの再建について

(1) 災害発生時のお住まいの形態を教えてください。＜単数回答＞（問15）

---

○その他の記載（回答数：6件）

- ・持ち家の間借り。
- ・自宅。
- ・寺。
- ・家財道具一式が入った倉庫。
- ・兄の名義。
- ・娘の家。

(3) あなたの現在のお住まいを教えてください。＜単数回答＞（問17）

※災害発生時のお住まいと違う所にお住まいの方

---

○その他の記載（回答数：8件）

- ・介護施設（5件）
- ・子どもと同居。
- ・病院。
- ・現住所に住む。

(4) 豪雨災害からのお住まいの再建等について教えてください。＜単数回答＞（問18）

---

○その他の記載（回答数：78件）

- ・床下浸水なので問題なし（14件）
- ・修理完了した（8件）
- ・被害なし（2件）
- ・借家は全部壊した。自宅は半壊。
- ・解体。
- ・家のなかは大丈夫なので、特に何もしていない。

- ・購入した住居に移転。
- ・修理を考えていない。
- ・今のままで少しの修理で。
- ・再建できるか検討中。
- ・倉庫。
- ・年に数日帰宅するので、今後の家の様子によって考える。
- ・今の家で間に合う。
- ・今のままでいいと思うか。3階が空いていたので、3階に移動。
- ・一部建て替え。
- ・被害場所を直している。
- ・床下で水が捌けていてあまり心配なかった。
- ・修理はしたいと思うが・・・
- ・解体する。
- ・今のまま。
- ・水につかって使用不可となった機器は新しく取り替えました。
- ・お金がないです。市が出してください。
- ・自分で修理した。
- ・水路寄りに浸水防止用にブロックで嵩上げ工事をした。
- ・同じ土地に住む住宅があった。
- ・考えていない。
- ・売却。
- ・現状のまま。
- ・古い家と新しい家があり新しい方に住んでいる。
- ・市外に将来定住する家がある。
- ・庭や床下の土砂を取り除いている。
- ・問題があれば修理。
- ・取り壊しを検討中。
- ・場所に不安がある。
- ・再建は難しい。
- ・家の床下、両方から水が入り、それから戸床等がゆがみ出した。
- ・災害はなかった。
- ・単身92歳になり、この先のことは考えてもわかりません。
- ・借家に床下浸水。床等張り替え、ちょうど4月から空き家だったため、何もなしのこのとゆえ、り災証明もらっていません。
- ・半壊した所を直している。
- ・業者を待ってもいつになるかわからないので自分でした。
- ・近くにも家がある。
- ・何もしていない。

- ・職場の居住部を修理して移住。
- ・ボイラーなど電気製品を買い替え、室内の泥(室外も)を取り除き、生活している。
- ・子どもの家にいる。
- ・娘の家が修理中。
- ・そのまま。
- ・別の住居に住んでいる。
- ・考えていない。
- ・倉庫が大規模半壊だがもう修理は金があるのでしない（壁が水没の高さまでなくなっている）
- ・家財を取り換えて、建物は動かさず。
- ・再建するほどでもない。
- ・自宅周りに土砂が押し寄せ、重機を使ってボランティアさんに除去してもらって前の生活にもどっている。
- ・自分たちで掃除して、水を出した。
- ・自宅は無理。
- ・裏山が崩れているので、そこを直してからでないと家が建てられない。

(5) 雨災害を踏まえ、今後のお住まいをどうお考えですか。＜単数回答＞（問19）

○その他の記載（回答数：29件）

- ・移転済み。
- ・次に被災したら転居を考える。
- ・降雨時の水路の確認等、正確に知っておきたいと思った。数多くの車が水没したので近場に高台を設ける必要があると思う。
- ・県外に住んでいる。
- ・今のままでよい。
- ・市の住宅なので、市にお任せします。
- ・一部なので今のまま。
- ・床下浸水でそのまま住んでいる。
- ・転居した今の住所で住む。
- ・災害場所の復旧。
- ・災害後に入居した借家に住み続ける。
- ・川の氾濫に備えることを市にお願いしたい。
- ・水の来ない所に移りたいが資金的に断念する。
- ・資金の余裕さえあれば裏山を削って高台に家を建てたい。（特に南海地震、津波に対して）
- ・前回の家があるため。

- ・今のまま。
- ・市内の別の地区に転居した。
- ・安全な地域に行きたいが現実は無理である。
- ・り災前の住居を修理し住んでいるが不安である。
- ・災害を受けた持ち家の再建は難しい。
- ・考えはない。
- ・今さらどうしようもない。
- ・転居したいが、金がないので、仕方なく、住み続けています。
- ・借家として使っていて壊して更地にする。
- ・わからない。
- ・津波のリスクも高い土地なので住宅の改修は考えていない。現状維持の考えでいます。80歳代夫婦暮らしであきらめムード。
- ・泥を出し水に濡れたものを捨てたら後は良くなったので掃除をしてそのまま住み続けます。
- ・住み続ける以外ない。
- ・同地区の別のところにも住家があり、そこに住む。

(6) 同じ地区（コミュニティ）に戻る（残る）ために必要なこと、すまいの再建にあたってのご意見等についてご記入ください。＜テキスト回答＞（問 20）

○同じ地区（コミュニティ）に戻る（残る）ために必要なこと-自由記述（回答数：265件）

- ・水門ポンプ等の整備。
- ・公共施設等の早急な整備等。
- ・河川の土砂の撤去。
- ・今回は家があまり壊れていないので良かったが、今後また豪雨があった時に不安がある。
- ・裏山の整備。
- ・近所の協力。
- ・河川に災害時のゴミ（流木）等が全然片付けられてない。大雨が降れば心配。
- ・川底さらい、護岸工事など、常日頃からの防災対策を講じてもらいたい。
- ・床下浸水と床上浸水の差がありすぎる。
- ・今後、今回同等の災害が起こった時に耐えうるかどうか。家の裏山から土砂が流れてきた。
- ・浸水ならまだしも、土砂崩れのあった地区には戻りたくないのが本心では？
- ・避難場所の整備。
- ・安全な環境を作ってほしい。
- ・災害を受けた場所の安全対策。
- ・危険な所（崩れた所）を直してほしい。
- ・河川の整備が早急に必要である。整備をしないと雨が降る度に不安になるため。

- ・降雨だけでなく耐震化していないので必要性があるかも。
- ・近隣の方とおつき合いを大切にする。体調がすぐれず、福祉関係の充実が必要。
- ・自治会が話になりません。水対策をしっかりしてもらうこと。
- ・土砂災害が起きにくいように、擁壁を作っていただけるとありがたいです。
- ・何度も繰り返す土砂崩れを防ぐことはできないのか。崩壊している川岸の修理等、安心、安全な環境を望む。
- ・人との交流、話し合い。
- ・近隣の人間関係づくり、助け合い精神の涵養。
- ・公共物（水路や道路）の整備。安全な避難所の確保。
- ・資金の都合によりわからない。
- ・被害がないところが近くにあれば、助け合って住んだり（避難させてもらったり）したい。
- ・竹林、樹木（道路にせり出している）の処分、側溝等逃水路の整備。
- ・河川の安全対策。
- ・水門の手入れを良くしていただく。
- ・豪雨災害の避難の仕方と、地震による避難の仕方が異なる事を認識する必要があると思います。
- ・河川工事。
- ・治水。
- ・災害に対する安全性が確保できること。
- ・河川の整備、自宅近くの安全性の確保。
- ・後々みってくれる者がいない。
- ・河川の堀下げ、および堆積土砂の撤去。
- ・二度と災害に合わないために最善を尽くしてほしい。
- ・砂防ダムの必要性、河川整備。
- ・大変な大雨のため、土地の高いところから土地の低いところへ泥水が流れ集まってきた。地域全体の排水を考えるべきだと思う。
- ・住まいの条件、生活の条件の見直し。
- ・道路を広くしてほしい。
- ・補助金が多く出るメリットがあればよいが。
- ・床下浸水でそのまま住んでいる。
- ・台所、トイレ、ふろ、洗濯機、エアコン、車等すべての修理や購入。
- ・半壊した建物を修理する復旧工事。
- ・今回の原因をきちっと精査して行政が対策をして今後の災害等への不安を無くして欲しい。
- ・支所の強化（本庁との強いパイプ）
- ・予防施設を作る。
- ・自然災害に対処なし。
- ・土砂崩れ対策。



- うにすること。
- ・川の土砂の整備をしてほしい。
  - ・買物、病院、バス、自動車等交通の便利なこと。今は不便です。
  - ・水害にあわないために川や海周囲の安全確保
  - ・床下浸水とはいえ、強化工事をするには多額な仕事になるのに、見積もりを立てさせその何割かを負担する等、もう少し手厚い補助をするべきだ。
  - ・まずは食？
  - ・道路等の早期復旧、砂防等の安全確保。
  - ・川の堤防の嵩を上げる。
  - ・河川、道路等の再建。
  - ・宅地の嵩上げ等や排水溝の整備が必要。
  - ・バスの運行を増やしてほしい。ローソン、セブンイレブン等コンビニがほしい（24時間）
  - ・お金。
  - ・防災対策を早くしてもらいたい（山崩れ）。
  - ・現在住居している公営団地の入居者は高齢者が増加し、避難する行動をとるということも困難であるとの話をうかがいました。自己保全が第一の状況になるので、高齢地区の課題では思います。
  - ・増水したときの水の管理。
  - ・河川の整備、土砂がたまっている溝の清掃、土砂崩れの防止措置。
  - ・床下浸水だけなので、再建等は必要なし。
  - ・川等の整備、清掃。
  - ・被害が大規模なので大工さんが間に合わない。
  - ・土地を高くする必要がある。
  - ・青水路の整備、土砂の撤去を管理者に（国、県、市）
  - ・大浦大雨排水ポンプ場の緊急時のポンプ動作を実施する。電気系統が漏電しないよう高所に設置すること。
  - ・住んでいる。
  - ・道路の整備。
  - ・近所の人達とのふれあい。同じ災害を受けた者たちの励まし合い。
  - ・早急な砂防ダムの建設。未だに自宅上の他人の所有地が土砂崩れ放置されているので対策工事を。
  - ・地区が谷になっているため、どうにもならないのではないかとと思っている。
  - ・各人の状況によって選択は変わってくると思われる。行政の支援等が必要かと思う。（特に経済的なこと）
  - ・大雨の度に避難が必要な状況なので、砂防ダム等の対策を早く行ってほしい。
  - ・家の前が川です。上流から石がたくさん流れてきて川が浅くなっています。整備をしてほしいです。
  - ・避難訓練等。

- ・土砂崩れに対する安全対策を市に率先してほしい。
- ・家を直す予算。
- ・水の道をもっと考えてほしい。
- ・復旧するには義援金ではとても間に合わない。
- ・安全確保。
- ・普段から会話。
- ・土砂災害対策を早急に。
- ・安全が確認できること。
- ・災害対策と地区住民とのコミュニケーション。
- ・土砂除去、敷地の確保。
- ・崩れた山を治してもらいたい。雨が降ったら怖いので。
- ・現在崩れている所の復旧。山肌がおきだして、またいつ崩れてくるかわからない。
- ・自治体の協力体制の強化。自分から発信すること。助け合うことの大切さ。
- ・銭がない。修理して住むしかない。
- ・合併前の吉田町は各公民館に主事、保健師、管理人がいて地域の声が届く仕組みがあったが、今はなかなか情報も届かず、ニーズも伝わりにくいので、ニーズが届く仕組みを作ってほしい。
- ・河川の危険度を少なくする。
- ・逃げるためのルートの見直し。
- ・今回、以前にもたびたび浸水がひどい地区なので、やはり排水対策を万全にすること。
- ・水害を防ぐ対策をとっていただくこと。これがないと不安な為希望も持てない。
- ・安全性。
- ・土砂崩れの修復。
- ・川とか池の改修。
- ・河川、市道、農道の復興。砂防ダムの1日も早い完成・・・(当地区は7ヶ計画されている)
- ・急傾斜地並びに崩落地の修復と水路の保全を市に積極的に補助していただきたい。
- ・砂防ダムや護岸等の整備。
- ・全壊した家屋の取り壊しを早急にしていただくこと。独居老人なので、災害に対して不安が大きく、ケアの充実。
- ・同じ地区でも安全な所は市の補助金があればと思う。
- ・畑に土砂流入、まだ片付いていない。
- ・今回の水の検証結果を知りたい。今まで通り住めるのか不安がある。
- ・少ない数で近所をグループ他にわけ、声をかけあうことが大切だと思った。災害後も。
- ・ライフラインの復旧。
- ・山や川の整備。
- ・災害前の状態に戻すこと(川の決壊)以上に、原因(川幅など)をはっきりさせ、同じ災害が起こらないようにすることが必要だと思います。

- ・砂防ダムの建設等安全な居住環境の確保。
- ・地区の災害（自然）に対する危険性を理解し、地域の方との日頃からコミュニケーションをしていくこと。
- ・各戸で被災の度合いが違う。「同じ」コミュニティに戻る必要はないし、戻れない。
- ・二次被害に不安がある。
- ・川の流れを確保する。
- ・河川、山腹の土砂崩れが二次災害の恐れがあるので、早急に整備をお願いしたいです。
- ・同じ災害に合わないよう、吉田の水害の原因を良く調査して、ハード対策もしっかりしていただきたい。
- ・土砂崩れ箇所を早急に改善。
- ・土地の嵩上げ等。
- ・安全な環境整備や、地域での支え合い。
- ・今回のような災害が起きた時に地上げしなければいけない。砂防もしなければいけないが、お金がないので、お金と安全性の両立が必要だと思う。
- ・河川整備を徹底。
- ・今まで何度も水害にあっているの、河川の拡幅など早急に整備をしてほしい。
- ・危険な場所、被害場所の整備、同じ災害がおこらないための対策の強化。
- ・砂防ダム設置をお願いします。
- ・土砂崩れ対策。
- ・川のコンクリート堰をのけてほしい。
- ・危険を感じたら、自分の判断で早めに避難する。個人の努力で無理な箇所に対しては土木工事してもらおう。
- ・環境が良くて住みやすい。
- ・また大雨で同じ土砂災害の恐れがあるので心配、行政は土砂を取り除いただけ。
- ・裏山の土砂崩れをなんとかしてほしい。
- ・市でできることはない。
- ・毎回氾濫するのがわかっている河川をどうにかしてほしい。
- ・防災の連絡組織。
- ・これを機会に、身辺整理をし、身軽でいること。ご近所との付き合いをよくする。
- ・インフラ整備（河川改良、砂防ダム）
- ・治水がしっかりできる事。過疎でインフラが取り残されているので、再建は今のところ考えていない。
- ・自宅の裏がすぐ山なので、擁壁等の安全対策を市で進めてほしい。
- ・災害発生の原因を確認し、次の災害を発生させないようにする。
- ・川の上に不当建築物があり、川が詰まり道路上に流れ出たので、浸水しました。取り締まる必要があると思います。
- ・地区が安全な環境である事。
- ・断水の期間が長かった。今回はやむを得ないが復旧時間をできる限り短時間に願いたい。

- ・金があれば、吉田以外に住みたいが、仕方がない。地区の人々が以前よりそっけなくなった。
- ・強力なリーダーを求む。
- ・年寄りと言っても仕方がないと思っている
- ・あらゆる災害に対応可能な避難場所、施設の整備。
- ・自然災害に対する安全性の確保。
- ・住んでいるすぐ家の三か所崩れたところを早く直していただきたい。
- ・ポリスのような安全な都市を作る事。
- ・修理して住んでいる(お金がかかった)
- ・地区の安全確保を確認する。
- ・住む家の安全性の確保。周辺の人たちの理解、水害の経験の有無など知った上での家探し。
- ・避難場所まで少し距離があり、時間がかかるため、もう少し細かく避難場所を設置した方が良い。
- ・被害状況(大規模半壊と半壊)によるコミュニティの分断。査定基準が現代にあっていない。
- ・大雨警報が発令したら直ちに避難する。
- ・家の修理、道路、川の整備(砂ほこり、廃材の撤去など)
- ・増水しないように整備する。
- ・自宅の災害に対する危険性を理解しておくことが必要かと。
- ・避難所が近くないと不安。交通の便が悪いため、地区で連携を取り、避難先へ移動など考えてほしい。
- ・問21の1~3、特に1。
- ・河川の整備。
- ・仮設住居。
- ・土砂の撤去と道路の工事。水害の対策(ボランティアの受け入れや必要物資の配布など)
- ・土砂災害の場所を崩れないようにすること。
- ・被害にあっていない。
- ・裏の山が土砂崩れのためと、家の修理が完成すること。
- ・水門の管理を徹底してほしい。(海の干潮時にあれだけの水がたまるのはガテンしない。
- ・補償。
- ・避難場所(高台)等に集会所的な施設を建ててほしい。
- ・地区で土砂崩れがあり、その再建に行政は力を注いでほしい。山の査定を早急に行い早い時期に擁壁をお願いしたい。
- ・川の土砂除けを3年に1回ぐらいはしてほしい。これを今までにもしていたら、川の氾濫は避けられたのではないかと思う。
- ・少しでも安全。
- ・河川の管理が必要である。
- ・御殿内には河内川が流れております。この地域に45年住んでおりますがはじめての水害です。河内川の排水能力の検討検証をしていただきたい。
- ・危険場所の補強、畑の岩などの撤去。

- ・ 自然災害に対する安全性（河川道路の復旧）日常生活の利便性の確保。
- ・ 助け合い精神。
- ・ そのままいるしか手立てはない。
- ・ 砂防ダム等防災工事。
- ・ 住居の補修等本当に最小の補修しかできませんでしたでしたが助成金を頂き助かりました。
- ・ 川の整備。
- ・ 排水設備の充実、完備。
- ・ あちこちにヒビの入った堤防をしっかりと安心なものに修理してほしい。
- ・ 土壌や基盤を整備してほしい。
- ・ 土地を高くする。水はけをよくしてほしい。
- ・ 防災に努める。
- ・ 土砂災害が絶対に起こらないこと。
- ・ 道路の修復、川や土砂崩れ箇所の整備が終わったかのように見えるが、川底の土砂は災害前より高く積もっていて以前より川の氾濫の危険性が高まっていると思う。あと、街灯が流されて夜暗いので、これらの整備を早めに行ってもらいたい。
- ・ 基礎を高くして、入水を防ぐ。
- ・ 宅地の確保。
- ・ 安心して住める自然災害に強い街づくり。社会資本（インフラ）の整備が必要です。
- ・ 道路・水路等の整備。
- ・ 若い者が帰ってこない。
- ・ 災害等の方法等の検討等してもらい早急に実施してもらいたい。
- ・ 安心・安全。
- ・ お金と仕事。
- ・ 地域のコミュニケーションが大事。
- ・ 河川、水路の整備。裏山の砂防設置。
- ・ 安全性の確保、専門家の判断を望む。
- ・ 空き家の被災そのままが気にかかる。崩れていなくても。公営住宅等。
- ・ 治安が悪くなり、道路なども傷み直してほしい。衛生面もまだまだ当時のままなので早く直してほしい。
- ・ 砂防ダムや擁壁等を建設してほしい。
- ・ 保田地区の川の堤を嵩上げしてください。
- ・ 今回の災害を踏まえた防災対策の早期実施。
- ・ 来村川（保田）の土手の嵩上げ。
- ・ 今後土砂災害（地震・雨）が怖く、7月の災害で裏山が崩れ、溝がなくなり（仮に穴を掘っている状態）危険なため市・県で工事してほしい（早く）
- ・ 水路網の抜本的な見直し・整備が必要。過去にも複数回市に要請したが繰り返される。
- ・ 治水工事。
- ・ 近所で連絡を取り合い確認する。

- ・ 住み続けるしかない（資金がない）
- ・ 事業のスピード化。
- ・ 天気予報を見て気をつけとく事。
- ・ 地区に愛着心があるかどうか。
- ・ 災害に強くする工事が必要。
- ・ 地域をあげての復興。
- ・ 川の護岸の高さや強度、水路、砂防ダム、擁壁などのインフラの整備。
- ・ 河川・水門整備、地区の避難場所の整備、空き家等の対策→ぜひお願いしたい。発災後不審者を見かけた。
- ・ 住宅の確保。
- ・ 住宅地の水路整備をしてほしい。
- ・ みかん山が放置され、竹藪になっている。大雨の時ぬけると思う。
- ・ 防災強化、砂防ダム、縁石など整備を求む。
- ・ 地域住民が連携を取る事。
- ・ 全てボランティアが必要不可欠だと思う。
- ・ 住めるように再建する。
- ・ 河川の整備（毎年、大雨の際、同じ場所から洪水となる）。道路の嵩上げ。
- ・ 何年も同じ場所で住んでいると、今の場所から離れないので、工事をしていただきたい。

○すまいの再建にあたってのご意見等-自由記述（回答数：202件）

- ・ 今から冬に向けて、ストーブが欲しいです。
- ・ すぐ来てもらえる工務店などの情報。着工するのに数か月もかかった。
- ・ 再建する際、土地を上げて直すなど、山から離れた場所に建てる。
- ・ り災証明の判断基準の見直し、平屋と二階建てでは同じ床上 50cmでも被災状況は全くちがっているのに、証明内容が同じなのはおかしい。
- ・ 自分でできることは何事も自分でする努力をする。業者任せでは業者不足で順番が来ない。
- ・ 手厚い援助。
- ・ 自力での再建が難しい。
- ・ 今回行政、国の援助に深く感謝している。
- ・ 川の嵩上げ。
- ・ 行政からの補助をもらい、ありがたい。退職金がなくなり、この先が心配ですが。
- ・ 近所の手助け大変助かった。また、行政の援助で修理が出来ました。ゆえに行政の助けが必要。
- ・ やっぱお金がないと再建できない。そのためにも仕事。大企業のない田舎では厳しい。
- ・ 耐震化、水、電気の確保。
- ・ 再建したくてもできない状況である。家の撤去等を早急に進めてほしい。

- ・大工、左官、住宅修理に関係する会社及び個人の情報を知らせてもらえれば。
- ・再建するなら地面を高くするしかないと思う。
- ・高齢の為、費用の目途が立たない。
- ・国、県、市から全額修理費を支給してほしい。
- ・何とか使えるので大丈夫です。
- ・近所の方々のご協力により、土砂を取り除くことができ、自宅は日常生活を取り戻すことができました。
- ・水害に強い街。
- ・再建資金の都合をつけてほしい。
- ・国、県、市の生活再建支援金、義援金に感謝。また、自然災害への保険を掛けることが重要。
- ・スケジュールの提示等で様々な進捗がわかるようにして欲しい。役所（特に支所）の窓口をひとつにしてもらいたい（たらいまわしにされるので）
- ・大工さんが少ない。だれも応援がない。
- ・補助金支給。
- ・国、県、市、町、ボランティア、すべての方々のおかげで、家も心も立ち直ることが出来ました。本当にありがとうございました。
- ・平屋の半壊と、2階建ての半壊、さらに4畳半の半壊と、百畳の半壊が同じ支援金であるのはむごいと思いました。
- ・特にない。修理済み。
- ・再建のための業者の選定が困難であった。行政に介入は困難だと思うが、相談に乗る程度のことはやっていただきたい。
- ・高年齢の為。
- ・金銭的な問題。
- ・補助金の充実。
- ・かなりの金額が必要だったので、預金保険等の準備がなければ修理は難しい。
- ・現状のままでよい。
- ・保険に入っているのです。
- ・護岸工事が必要。
- ・道路の早急な復旧が必要。
- ・コンパクトな家ではないので再建には多額の資金が必要で現実的には無理。
- ・リフォームするに必要な経済的支援。
- ・どこまで求めてよいのかわからない。
- ・支所の強化（本庁との強いパイプ）
- ・自宅リフォームのための国、県、市からの義援金が少ない（義援金だけでは資金不足）
- ・土砂崩れにより倒壊した近所の家、周辺の土砂は未だに手付かず状態のところもあり、再建ができないと聞きます。とにかく土砂を何とかしてほしい。
- ・今の自分達には年齢的に再建はできない。

- ・被災時の判定が大まかなため「大規模半壊」と「半壊」の支援の差が大きすぎる。床上1m未満の浸水でも被害状況に差はなく、住宅の1階部分の家財道具や家電は全滅である。被災地区（浸水した地区）には相応の支援をお願いしたい。
- ・資金確保。
- ・自力にて修復できた。
- ・元の家に戻りたいです。
- ・次、建て替えるなら基礎を高くする。
- ・これですんだのだからと言いつけ、頑張った。
- ・家の周りの整備。
- ・費用のことなど考えて、なるべく簡素に修理したい。
- ・被災しているし、裏山が崩れているのに、急傾斜地にあたらない。(10軒ないので) 再建は早くにしました。
- ・国、県、市をお願いします。
- ・被災状況にもよるが、再建のための負担が大きすぎる（義援金を頂き感謝しているがそれだけでは足りない）
- ・購入も考えたが、年齢的なものもあり不安がある。
- ・川の改修。
- ・同じ地区での相談会や助け合いの機会を作る支援を、行政もいっしょになって実施してほしい。
- ・お金。
- ・金銭面の不安解消。
- ・水害の場合、半壊も大規模も再建にあたっては同額程度の費用が掛かる。我が家は平屋であったため半壊でも家財道具も含め、大規模半壊以上の被害であったが、支援金などは大幅に少ない。
- ・全壊・半壊の規模がおおまかすぎる。各戸の状況によって判断すべき。
- ・1m以上の浸水でやむなく建て替えをしますので、土地の嵩上げが必要です。土地を上げる費用も高額ですから、支援があると助かります。その費用がなくて、町外へ出るという形での人口減少は良くないと思います。
- ・市の補助金には大変助かりました。病院のかかりつけなどあるように、大工さんなどの確保も大事。
- ・まだ災害時の土地が残っており土除けをしたい。
- ・職員さんによって認識が異なって困ることもありました。補助金や支援金、義援金のおかげで必要最小限の再建ができたことに感謝します。支給が早かったのも助かりました。
- ・我が家は床上92cm 家具電気製品全部ゴミ。再建するには高齢の年金暮らしでは再建費用が負担になります。
- ・早めに市で対応してほしい。情報連絡が遅すぎます。
- ・家の傾きの測り方にも納得がいけない。日に日にぺきぺき家は音を立てていくのに、その将来的傷の具合なども考慮に入れるべきだ。

- ・まずは預金、年金暮らして食べるのが一生懸命です。
- ・出来る限り修理などをして生活して行きたい。
- ・被害の家屋の撤去。
- ・畑、納屋へ行く道が陥没。いつになるかわからないけど、何とか修理をお願いしたいと思います。家の前の川は市の川です。
- ・床下の土を取る。消毒する。大工、修理の方も多く増やしてほしい。
- ・お金。
- ・床下浸水だけなので、再建等は必要なし。
- ・お金がないので無理。
- ・市道より地上げが必要となる。
- ・すべての病院内の電気の基地は高所に設置。地下では津波時ダメと考える。(ケガの際、病院機能は重要)
- ・特になし
- ・来年の梅雨までに砂防ダムの工事をお願いしたい。急傾斜地域でありながら自己所有地でないことから他人の所有地への土砂崩れ現場への工事要望すら上げられない。このままでは二次災害が予想される。今回半壊し、やっと3か月後家屋の修理が終わったが、また来年土砂崩れが起こりそうで、同じ場所にとどまって居住するのは不安である。
- ・居住地の嵩上げ
- ・また崩れるのではないかと思うので戻りたくない。お金がかかっても別の場所で生活したい。
- ・経済的負担の軽減策が必要。施工業者が不足しており、再建までの期間がかかりすぎる。予定が立たない。
- ・浸水した時の対処方法のマニュアルをもらったが遅すぎてあまり役に立たなかった。溝の土砂を除去してもらうのに時間がかかり、家庭排水を出せない時期があった。
- ・最低でも今回の災害に耐えられる構造にしたい。補助をしてほしい。
- ・早くしないと、大雨が降るたびに不安になります。歳を取っているので、今の家から離れることはできません。よろしくをお願いします。
- ・半壊、大規模半壊、前回の判断基準の見直しをしてほしい。半壊でも修理する内容、買い替える家財道具はほぼ同じである。汚水に浸かったものは、少しでも使用できないものが多い。
- ・災害時、役所の対応が早ければ早いほど、家の再建に取り掛かれる。
- ・再建のための資金作りでもっと安い保険を官も参加して考えてほしい。住民皆保険を作ってほしい。
- ・建設できる土地(同じ地区内)。危険区域などをはっきりするマップのようなものが欲しい。
- ・大変である。
- ・支援金の増額。
- ・補助。
- ・また、泥雨が流れてこないようにしてもらいたい。また、寝具とか捨てるようになるので。

- ・親(現在死亡)の家と、私達の家があり、2つの家を管理するのが年々大変になっている。
- ・親の家があのような損壊になるとは考えていなかったため修理が大変だった。
- ・半壊のままで我が家に戻るのかわかっているのか？
- ・浸水後の清掃等わからないままに進め、日が経つにつれてカビの発生がでてきたり、後になって不具合がでてくるので、これからも相談できる窓口がほしい。
- ・家のまわりがさびしくなっている。
- ・土砂が流入した所の再建。
- ・土砂崩れの修復。
- ・費用がかかるので完全にはできない。
- ・住み慣れた元の地区に住み続けたいが、高齢のため経済的に家屋の再建は不可能。
- ・子どもたちの為に、同じ地区に住みたいが、家を建てる資金はなく、これからまた雨になる時期のことを思うと不安です。
- ・気づかないうちにストレスがたまっているものだと実感した。
- ・ライフラインの復旧。
- ・費用のことや、この場所で大丈夫なのか不安。
- ・床下消毒、大変助かりました。
- ・色々な給付金、義援金や減免などの制度により、住まいの再建にも生活にも助かりました。ありがとうございました。
- ・持ち家ではあるが災害時非住家だったため再建のための補助が受けられない。
- ・質問の意味がよくわからない。再建費用はすべて国が負担すべきである。
- ・家族や兄弟と相談し、まだもう少し自宅での生活ができるのではないかと再建してもらった。
- ・床下ですが、一部建替えようと思っています。補助金があれば助かります。
- ・職員の皆さん、大変な中、案内説明等をしていただき、助かりました。また、ボランティアの方たちに心から感謝です。
- ・「半壊の涙」といわれるように、浸水深が1m切れるだけで、ご近所で国の支援があるかないかで大きな差があり、家の中の修理しなければいけないところは同じで納得いかない。県、市からの支援を国の支援に見合うように、また、単身世帯は3/4の支給額というのもおかしい。保険に入っていない者は再建できない。
- ・資金の補助。
- ・部落で山が抜けたのがうちだけで、砂防と土砂除けを役場に頼みに行ったら断られた。(今現在は頼めるのかもしれないが)個人では自力でできないので、役所も大変なのは重々承知しているが、手伝ってもらいたい。
- ・防災に対して行政は全く機能しておらず、全くあてにならないと分かった。全て後手後手。ゆえに行政の職員には、同じことがおこらないように環境整備を整えていただきたい。市民の声はきちんと反映してくださいよ。
- ・再建資金の援助制度や割引制度を被災状況に応じて考慮してほしい。
- ・高齢のため考えていない。

- ・実際に被災しましたが、思ったより、混乱もなく、元の生活に戻る事ができました。市政の対応にも感謝しています。
- ・補助金、支援金だけでは再建できない。
- ・もう少し助成金がほしい。
- ・住宅修理基準の再確認。
- ・一部損壊、床下浸水については補助がでず、何も被害がない家と一緒にされると腹立ちます。
- ・費用不足。
- ・家裏にある水路の改善をしなければ安全が保たれない。
- ・災害防止工事。
- ・非住家とはいえど、仏様がいたので一間は使えるようにしていた。フローリングの張替え代も出なかった。他にも色々と傷んだものがあり、持ち出しばかりで困った。
- ・可能な限り、必要な保険に入っておくこと。
- ・床下に入った泥の対処についての情報及び診断等の対応があればありがたい。
- ・借家がなかなか無くて、1人老人で探すのに苦勞。辛かった。11月末になってやっと引っ越してきた。
- ・高齢なので難しい。
- ・工事の順番がなかなか回ってこない。現在も手付かずの状態です。スピードアップを願いたい。
- ・少し汚くなったが、我慢して住む。
- ・より早い段階での義援金の配分。
- ・再建にあたっての経済的補助。
- ・70歳で後寿命も定かでないし、いつポックリ逝くかわからないので、思い付きが悪い。
- ・家の土砂崩れ直してほしい。
- ・今回の災害の原因の修理をしてほしい。例えば、山崩れや川の狭いところとか。
- ・なぜ災害がおこったか？防げなかったのか？このまま住み続けても大丈夫なのか？住み続けた場合、どうすれば防げるのか？家の安全性と場所の安全性を知った上で、どう判断していけばよいか、アドバイスが欲しかった。
- ・修理の費用が足りない。赤字になった。
- ・借金が増えた、支援が少ない。保険金が収入とみなされる意味が分からん。
- ・市への補助金の申請が分かりづらく、年配の方はかなり苦勞されたと思う。補助金の金額の決め方に納得できない点多々あった。
- ・個人的にはなし。集会所等の公共性に建物の補修費が地元では負担が困難(人口減)
- ・家の周囲をブロックで囲む。
- ・大工、畳屋、サッシ屋、屋根屋さんが極少。
- ・今だ手付かずの家があるのには、心が痛みます。早めの再建をお願いします。
- ・一部損壊なので、すでに普及済み。
- ・自宅周りの蛇行河川の整備。

- ・裏山が崩れて、大木川ではないけれど、砂防ダム等早く作っていただきたい。竹藪と土砂等が来て大変でした。次にまた災害が来れば、次はないほどです。
- ・床下浸水の家にも床下に泥が溜まっているので、住宅を壊す対象にしてもいいと思う。
- ・被害にあっていない。
- ・借家でも持ち出しが有るならば仕方なく修理をして住んでいます。
- ・なかなか工事が進まない。
- ・被災者生活再建支援金が国からは大規模半壊までしか支給されないのはおかしい。段階的に支給すべきでは(半壊なら 100 万)
- ・金銭的に困難な面があり、義援金を増額してほしい。
- ・修理を依頼しているが、大工さんが忙しくまだ見積もりにも来ていただけていない。床上浸水しているため特に壁の断熱材が濡れているためカビの発生を一番心配している。大工さんからは年内にはできないと言われている。
- ・農地に家を建てたい。
- ・考えていない。
- ・半壊でも1階フロアの物は全てダメになっております。車、電気製品等、家具など。
- ・大掛かりに修理をしている近所の住居はまだまだ修理半ばです。住民の中には身体を壊した方も多くおられます。でも病院は今のところ無料で本当に有難いです。
- ・子供達といろいろ相談しようと思います。
- ・川の整備。
- ・速やかな事後処理。
- ・資金の援助をしていただいたらありがたい。
- ・再建に時間がかかっている(約6か月)
- ・建て替えるための費用の補助をしてほしい。
- ・同じ場所に再建するための支援。
- ・資金の援助。
- ・補助金の確保。
- ・再建には資金が必要です。災害住宅の応急修理費用の限度額を引き上げてほしい。
- ・家の裏の修繕を早急にしてほしい(ブルーシートがかかったまま)
- ・補助金の簡素化。
- ・資金面の援助。
- ・自治体からの援助。
- ・市町村と県の横のつながりが無い。再考を要す。
- ・住居以外の再建の支援。
- ・大変な資金が必要。
- ・住居の修理が公費でできたことはとてもありがたいことです。
- ・多額のお金が必要とするから、このようにすると税金がかかるとか、税金が安くなるというところを早めに教えてほしかった。
- ・義援金などをいただきありがたかったが、それ以上に資金がいった。一階の物が使用でき

ず、一から全部購入した(スプーン1本から)

- ・私有地であるが、道路や災害時の避難路として集落で利用している土地がある。このような通路の修復は市が負担するか、補助をしてもらいたい。
- ・床下浸水の身だったが、床下の土台が崩れたり、白アリが入ったりして二次被害あり。
- ・次の世代にゆだねるしかない。雇用の安定と正規公務員並みの所得がなければ無理か。
- ・宇和島市にもう少し貸倉庫があれば転居・工事がやりやすいのではと思います。
- ・必要なものが多いが、お金もなく。安価で修理した為今後は心配。
- ・河川の付け替え。
- ・高齢の方が多いので再建が難しい方が多いと思う。
- ・補助等をつける。
- ・補助の増加、時期が過ぎると意識が薄れ、ボランティアなどが減少する。長期的な人材の確保。
- ・土地の嵩上げ、自主的に防災の確認。
- ・災害対策。
- ・再建をする資金がないため難しい。
- ・住まいは修理しても東の山に他の人が手付かずだと前に進めない。また怖い。
- ・一人暮らしは公の力が必要で、もう少し市役所が親身になって相談にのってほしい。
- ・支払い金などを利用する。
- ・裏山の整備を市の方でしていただいて、元の所に家を建てたい。

(7) 暮らしを再建する上で重視することを教えてください。 <3つまで回答> (問21)

○その他の記載 (回答数: 22件)

- ・わからない。
- ・家より上の土石流対策。防護壁が必要。
- ・再建するほどの被害を受けていない。
- ・二次被害への不安と絶望感から再建への意欲が萎えてきた。次に二次被害が起きても、今度はもっと誰も何もしてもらえないの？
- ・土地の嵩上げ。
- ・補助金(見舞金)の額を手厚くする。
- ・南君(東・西)地区は特に県道の二車線(片側一車線)化が望まれる。
- ・お金。
- ・自主防災会、活動の充実、ソフト面での役員人材育成。
- ・下水道。
- ・排水管の拡充。
- ・健康状態の回復。
- ・各々の役割があると思います。ネットワークを作っていく工夫が大切かと思います。

- ・よくできている。
- ・僻地は後回しになる。いつまでたってもそのままの所が数箇所ある。
- ・日本人の最も美德といえる、近所への優しさが薄くなった。特に御殿内地区。
- ・避難場所までの道が崩れてきて危なく、避難する方が危ないです。調べてほしいです。
- ・特に農道の復旧。
- ・住んでいる地域の危険性を認識した日常生活の構築。
- ・ライフラインが不通になった時の代替施設の確保。
- ・市財政支出の抜本的見直し。
- ・車もバイクも浸水しお風呂の電気関係もダメになり、トイレ等衛生面も厳しいものがあり、砂ボコリにも悩まされ、後片付けが大変だった。

#### 4 安全な地域づくりについて

(1) 安全な地域づくりのために必要と考える施策（ハード対策）についてお聞きします。  
 <3つまで回答> (問22)

○その他の記載（回答数：100件）

- ・事前の河川整備・点検。
- ・災害前のハードはすべて無駄。災害後が大切。
- ・川底の砂利などを撤去し、川の高さを確保する。
- ・内水の排水ポンプの能力アップ。
- ・水門の適切な管理。
- ・砂防ダムの堆積土砂の撤去。
- ・土砂災害計画区域の防護壁等の工事。
- ・現状でよい。
- ・道路等の復旧、砂防、治山事業。
- ・高台の設置。
- ・水路整備。
- ・わからない。
- ・梶形町ですが、海の橋の所、信号が危ない。青でも横から車が。
- ・市役所の災害に家への動きがない。
- ・日頃から川にゴミを捨てる人が多い。低い川の高さに家にかけている橋に大木がひっかかりそれに日頃からのゴミがひっかかり川を越えて道路に水が上がり、洪水になり被害がひどくなった。
- ・林道であっても補助金を少しでも出してもらって直したい。自分では大変です。
- ・豪雨に対する備え、速やかな雨水の排水施設の設置。また、排水方法の考案が必要。
- ・各溝川（3本）の土石流が発生したので、これを防ぐ。

- ・豪雨災害のことより、今後の地震、津波対策をしっかりと。
- ・水門の管理。
- ・地域の意見を聞いてみる。
- ・市役所の移転。
- ・山際に住んでいる人の安全対策。
- ・避難場所(安全な)の地区内での確保。
- ・定期的な側溝の泥除け。
- ・ダム放流を早めにする対策が必要だと思う。
- ・多くの人が避難できる施設をつくる。
- ・せっかく新設されたのに、初期動作が遅れたと聞いたので、大浦ポンプ場の確実な稼働を行う。マニュアルの確認。
- ・災害時の避難施設の確保・建設。
- ・裏山が危険区域だったので、しっかりした防壁ができたのは有難いことですが、それに作ってある無数の水抜け穴、坂道から大量の水が噴き出したこと。これを整備する方にご検討いただきたい。
- ・側溝フタを 10 年ほど前から頼んでいるが未だにやってくれない。
- ・河川に鉄板を置かないでほしい。
- ・天神様に登る為の近道ないしエスカレーターをつくるか、あるいは蜜柑山でつかう索道機設置がよいと思います。
- ・野村ダムの責任の所在を明らかにし、実用性のある責任者を専任する。
- ・下水道の改修・拡大、時間雨量 30mm を超えると溢れて道路に流れ出す。宇和島市本町追手付近の下水からあふれた水が新町、中央町付近の低い箇所流れ込む。
- ・急傾斜事業。
- ・スーパー堤防の建設。
- ・1～10すべて大事です。どれが抜けても危険。すべて直してほしい。
- ・資金的に無理。例えば、喜佐方小学校庭のような高い場所の広場を作る。太陽の広場。河内沖の嵩上げ。
- ・地域住民が全員避難できるスペースのある安全な場所。
- ・使用していない水源の整備。
- ・河川改修を早くすること。
- ・河川堆積物及び竹等の撤去。
- ・排水路の整備。
- ・こういう問いをして何かがかわるのか？市レベルで解決できるのか？そこを反対に問いたい。
- ・JR 吉田駅の南北にある鉄道橋の下の川底をさらに 1m くらい下げるか、鉄橋の嵩上げをしないと、今まで通り何度もつまって川は氾濫する。
- ・吉田も、宇和も、排水路・排水トンネル（大容量）
- ・設問の意図等がわからない。

- ・農地（田）と宅地の間にある小さい水路（町有か個人所有か）の土砂がそのままになっている。その整備。
- ・6～11については基礎知識を住民に周知したうえで問うべきである。
- ・良くわかりません。
- ・山からの出水で農地が流されている。
- ・80歳以上では考えられません。
- ・用水路の拡幅。
- ・農道が出来て便利になったが、水の流れが想像以上。
- ・ダムはあるが草木（ゴミ）が沢山有って用をなしていない。何とかしてほしい。
- ・治水。
- ・下水道の整備、前もって避難しやすい施設、避難するのは人間以外の生き物も当然である。
- ・ダム放水の特別対策。
- ・考えたこともない。言ったところでどうなるとも思わない。
- ・上記のいずれも今回のような大規模災害には対応しきれない。最低でもライフラインの最速復旧ができる体制作り。
- ・山等に放置の間伐材等の取り除き等。
- ・電柱、植木(特に道路にあるもの)、プランターの整備。
- ・大きな川はないけれど、山からの小さい川を整備してほしい。
- ・水門管理の二重管理と目視点検(機械は壊れる)
- ・民家の軒数が10軒以下でも急傾斜事業してほしい。
- ・山水や溪流を川まで導く水路の整備。
- ・放水ポンプの充実。
- ・国鉄(JR)の鉄橋の嵩上げ。
- ・水路の上に橋が架かっており、そこへ倉庫を建てている。その倉庫に水が詰まって、逆流してきた。倉庫の撤去を。
- ・防災公園の新設。
- ・住吉地区に住んでいるが、排水ポンプが出来てから家の前の道に浸水がなくなり助かっています。
- ・川の土砂の撤去を少しずつしかしないので溜まってしまう。海に通じるところがスムーズに流れるよう部分的にしないで一度にしていくのが良いと思う。
- ・津波対策、海岸線防波堤の嵩上げ。
- ・水田の埋め立ての許可に一考を要す。排水路を広くせず埋め立てをするな。
- ・空き家対策、古い空き家を更地にすれば税を安くする等の今と逆の発想をしてみては？
- ・須賀川の堤防の嵩上げをし、道路を一方通行にする。
- ・既存機械設備は定期的に確実に点検整備を行う。
- ・排水ポンプ場への直線的な水路の整備（大浦）

- ・急傾斜地（指定以外）防護工事の見直し、指定区域内は完了となっておりますが、指定外でも工事必要箇所他にあります。再度調査要す。元宗集落は全域山裾にあるため。
- ・わからない。
- ・耐震化した住宅及び橋、山の避難場所の確保。防災倉庫および水等のストックの充実。
- ・農道の整備、崩れないと直してもらえない。
- ・当地区は河川や山崩れより海に面しているため、津波対策のため、防波堤を大きく、長く、高くしてほしい。
- ・水門の開閉のしやすさ。
- ・避難場所の安全性、広さ。
- ・どこまで行けばよいかははっきりわからない。自然災害が予想以上で。
- ・柿原ダムの耐震性は大丈夫か？
- ・農道の問題（川になる）
- ・避難所の整備、トイレ、キッチン、ベッド。
- ・避難所の改修。
- ・①～⑩全部→国と一緒に。
- ・土砂崩れ対策。
- ・河川の草木を切る。
- ・道路の拡幅。

(2) 安全な地域づくりのために必要と考える施策（ソフト対策）についてお聞きします。  
 <3つまで回答> (問23)

---

○その他の記載（回答数：53件）

- ・事後の対策が重要。
- ・市内でも、雨風の中、いくら市の方が注意を大きな声でもらっても、マイク等ひびきすぎて窓を開けて聞こうとしても全く聞き取れないのは困る。
- ・避難所の開設情報の伝達方法。
- ・障害者用の福祉避難所やアレルギー食の非常食の確保。障害を抱えている家族がいたため、避難をしなかったというケースが身近に多い。
- ・情報が得られる環境の整備（ネット、wi-fiなど）
- ・健康上高齢で何もできない。
- ・避難所遠いし足もなく体不自由なのにトイレ遠い。床は堅い。歳をとった者にとっては行ける所ではない。
- ・家に住めなくなった人々の為、どうすればよいか。
- ・今回は、宇和島市でも広いから地域が限られている。小地区、区長、防災士、消防団、テレビ、ラジオ、市に頼らず、避難指示を地域で出す。権限をゆだねる。

- ・職場での避難判断の基準づくり（いつ非難するかマニュアル策定。仕事を中断してまで避難するか判断が難しい）
- ・避難場所等の快適空間化。今はゴキブリの巢的などところがあるので。
- ・いつも用意しておくものを（準備）教えていただきたい。
- ・被災地区の職員と、被災していない職員の対応が違いすぎるので教育。
- ・ピラミッドを確実に確立する。上下関係でなく。
- ・早い情報提供。
- ・老人は避難できなかった。
- ・テレビ等で気象情報の確認。
- ・車などの避難場所の確保。
- ・市のHPがひどすぎる。何の情報ももらえない。迅速な更新とわかりやすいデザインで作りなおしてください。
- ・避難場所が安全な場所がないので安全だとある程度思える場所に整備してほしい。
- ・今のままで良いようにも思います。個人、個人が気をつけたら良い事だと思います。
- ・自主防災組織は何の役にも立たなかった。
- ・今回の被害者は、また大雨が来ると同じ事になる。アンケートではなく一軒一軒こうしてほしいの要望、心の声を拾ってほしい。
- ・夜回り隊（火の用心、防災用心）
- ・各家庭で避難の基準を決めておく。私の家では裏山からの出る水の量です。
- ・非常時は住民との接点強い実働部隊となる自主防災組織の役員一同に、消防団員と同等の本人身体傷害保険など必要。掛け金を支援する。
- ・宇和島市職員の防災意識に対する向上。対策・対応の見直し。
- ・防災無線の拡充強化。
- ・避難所の運営全般。今回の災害がどのように発生したか、時系列で検証し、科学的知見で、ハード対策に役立てる必要がある。
- ・危機意識、ハザードマップ（行政での対応不十分）
- ・今回の豪雨災害で避難場所の浸水が多かったため浸水しない避難場所の確保。
- ・考えられません。
- ・独居高齢者の避難手段の確保。
- ・消防団に入団できない職業ですが、入団していない家では災害後の処理は大変だった。
- ・自治会の消防団にはほとんど協力してもらえなかった。
- ・近所の助け合いがない。辛かった。
- ・老人対策。
- ・高齢者夫婦のみ、独居高齢者等弱者に対する対策と対応。
- ・洪水の際、障害になる物の地中化、あるいは撤去。
- ・人の意識改革。
- ・個人の防災、減災意識の向上。
- ・老人の避難所が遠い。

- ・私達の地区は役所の放送が聞こえるがもっとわかりやすく放送してください。
- ・防災放送のスピーカーの増設。
- ・避難したが公民館のカギがかかっている入れなかった。
- ・自治会等には全く関心がない人、参加しない人は地域の働きかけに無理があります。市民全員が必ず参加しなければならないような強制力が必要だと思う。確定申告をするように年1回講座を受ける等。
- ・街の中央部で暮らしたい。車をやめる。通院買い物。情報等。
- ・元宗は比較的に水害、自然災害の被害が少ない地域と思われる。よって災害に対する危機感も薄かったように思います。
- ・行政職員の再教育・専門知識の充実、公正・公平を重んじる姿勢。
- ・今回のように道路が寸断された場合、フェリー業者所有の旅客船を活用するなど、協定の締結。
- ・介護が必要な人の受け入れ会場の充実。
- ・避難所(例えば公民館)の人事をもう少し考えてほしい。避難所の人間がもっと考えを持って接する必要があると思う。

## 5 産業・経済復興について

(2) 災害発生前・後のお仕事の変化を教えてください。＜単数回答＞（問 25）

※問 24 で「1 勤め人（会社、官公庁など）」を選んだ方

○その他の記載（回答数：19 件）

- ・歳のため営業を辞めました。
- ・漁師になった。
- ・数日は休みをとり（り災したため）後は変化なし。
- ・再開した。当時は休職。
- ・時間帯が変わった。
- ・職務内容が一時変わった。
- ・退職した。
- ・勤め先が被災していないため、長期休職した。
- ・退職の為。
- ・9 月までは休職。あとは復旧のため大幅に減らし両立している。
- ・少し忙しくなった。
- ・少しの間、入院の為に休職した。
- ・災害にあった職員がいたため、仕事量が増えた。
- ・忙殺。
- ・災害復興に全力を注いでいる。
- ・農地水路災害工事絡り。

- ・勤め先が被災したため転職したが、変化なし。
- ・農業関係のため忙しくなった。
- ・転居の予定。後始末中。

(3) 災害発生前・後のお仕事の変化を教えてください。＜単数回答＞（問 26）

※問 24 で「2 自営（農林漁業）」「3 自営（商工観光業）」を選んだ方

○その他の記載（回答数：50 件）

- ・店を三か月休業した。
- ・仕事が減った。
- ・修理、買い替えて再開しました。
- ・農業はしている。
- ・一時休業していたが、現在は再開。
- ・作業の遅れ。
- ・売り上げ減少。
- ・仕事がものすごく遅れている。
- ・縮小。
- ・不便をしている。
- ・当時休業。1 週間程度。
- ・農地が減っている。
- ・農作業が遅れてしまった。
- ・転職しました。
- ・やれるだけをやっている。
- ・大洲店舗被災の為、大洲店廃業。
- ・きついです。
- ・車庫の上は取り除くことができない。
- ・災害時は災害に遭われた人もいて教室の出席が少なかった。
- ・農地の減少。
- ・しばらく休業。
- ・収穫と被災の申請で忙しい。
- ・田畑の被害。
- ・縮小して経営。
- ・一時休業。
- ・被害園地についてはあきらめる。
- ・収入源や投資資源が少なくなり、不安。
- ・増加した。
- ・やれることを続けている。

- ・農地復旧への手続き、迂回農道での農作業、農機具修理。
- ・損害が出た。
- ・廃業。
- ・営業している。
- ・再建中で仕事をしている。
- ・体調不良。
- ・断水の為2か月間休業する。
- ・1か月半、農作業が出来なかった。
- ・1か月ユンボに乗ったりで、仕事の遅れがひどい。
- ・2～3日休業、その後営業。
- ・売り上げが減少した。
- ・仕事の量が減りました。
- ・3反ぐらい流れ、収入が減る
- ・高齢者であるため。
- ・いつも通り。
- ・後始末中。
- ・売り上げは減少している。
- ・農地、果樹園地被害あり。
- ・床板、床下乾燥、消毒等で2週間くらいは休業、店は開けていました。
- ・みかんを続ける以外ないので。
- ・3ヵ月ほど休業して再開した。

(4) お仕事の再開の目処を教えてください。＜単数回答＞（問27）

※問26で「1休業している」を選んだ方

---

○その他の記載（回答数：10件）

- ・年齢のため休業しています。
- ・農地流出。
- ・残った農地で継続。
- ・年齢もあり、元のようににはできないと思う。
- ・休業する。
- ・目処が立ち、再開し、市内(同じ場所)でしている。
- ・グループ補助申請に時間を要し、損害の補填ができないまま継続している。
- ・追手で心配がないから。
- ・高齢。
- ・変形性膝関節症で思うように動けない。

(5) お仕事を再開する上で重視することを教えてください。<3つまで回答> (問 28)

○その他の記載 (回答数: 15 件)

- ・ 仕事をしている際に災害があった場合に家族が避難できるかどうか家族の安全確保。
- ・ 道路が壊れたので、下の畑まで石垣が壊れている。
- ・ 再開に向けて前向きに考えることができない。
- ・ 生活環境の整理。気力。
- ・ 資金。
- ・ まずは住居の安定です。
- ・ 砂防・治山事業はすぐに着工しない。
- ・ 復旧を早くすすめること。市役所が動かないので自分たちで進めている。
- ・ 協調意識をもってお互いに助け合って仕事すべき。
- ・ 仕事には変化ないので。
- ・ 借家(店として)ない。7月～年金生活。何の支援もない。
- ・ 高齢で閉店となります。
- ・ 災害にあっていない。
- ・ 樹園地の復旧、改良をしてほしい。
- ・ 農道の復旧など地域の者で行った。行政は対応が遅い。

(6) 産業・経済復興において、重視することを教えてください。<2つまで回答> (問 29)

※問 24 で「2 自営 (農林漁業)」を選んだ方

○その他の記載 (回答数: 30 件)

- ・ 園地の復旧、農道の復旧。
- ・ 資金確保。何を始めても金がか切。
- ・ 多角化について考える。
- ・ 農業振興ばかりが表に出ているように思う。もっと海にも目を向けてほしい。
- ・ 前向きに考えることができない。
- ・ 情報量の調整。
- ・ 今を考えているが、グループ補助金の書類の多さと難しさに進めることができない。
- ・ 出来るだけ、元通りに農地、農業機械などを直す。
- ・ 生産基盤の復旧補助。
- ・ なんととっても農地環境をもっと整備すること。特に排水、中・大規模な改良。
- ・ 農地整備。
- ・ 住居家屋、農地共に被災し、2 か月松山市、広島市などの子や親類の所へ避難していた。水道・電力が復旧により宇和島へ帰ったが、目の前のことを処理するので手一杯であるのに気が付けば農地復旧申請の手続きの期限が経過していた。高齢者にはなかなか

厳しい。農地復旧のための補助制度のチャンスを再度いただきたい。自己資金のみでは無理です。

- ・商品 PR する。
- ・行政のやる気。
- ・農地、農道、河川等はできるだけ早く修復し、個人個人の生活が成り立つ状態に早く持って行ってもらいたい。
- ・共同スプリンクラー事業の見直し、園地の流動化。
- ・高齢のため具体的な要望なし。後継者もいない。
- ・農機具の補助支援。
- ・後継者が外の仕事をしているので、みかん農家は私たちで終わりです。
- ・後継者がいない。
- ・今まで通り。
- ・農地の改良（急傾斜農地からの脱皮）
- ・柑橘栽培は 10 年もたてば労働力不足で様変わりするであろう。雇用、アルバイト等何でもいから労働力を確保したい。
- ・足の膝、変形性膝関節症が治れば 1 人で農作業を行う。

※問 24 で「3 自営（商工観光業）」を選んだ方

---

#### ○その他の記載（回答数：17 件）

- ・新たな交通手段の構築。地域ごとに応じた交通手段を実施することで、地元住民の利便性が向上することにより、地域及び市への経済効果の向上（既存のバス、タクシー以外で）。新たなサービスの向上を目指したい。
- ・人口の減少。
- ・人口増加（3 件）
- ・取引先が市外のため（松山市）、工具、工場の元の仕事ができるまで少し時間とお金（工具の購入資金）を借りたくなく、仕事が 2～3 か月できなく、他の会社へ仕事が行ったのではないのか？
- ・大変難しい事です。この答えがわかればノーベル賞かな。
- ・廃業、撤退することも一大決心です。今回は土地の契約等、解約、建物解体と費やした労力と費用は膨大なものであった。復興することより、いかに早く負担を少なくするか。
- ・地域人口の増加。
- ・人口増加に対する、政策的な若い人の確保を希望する。
- ・被災しているのに心の復興ができない。火災保険に入っている、このときばかりは難しいとってきて、すべてにおいて大きな災害にしているのではないか。前へは進めない。
- ・歴史ある宇和島を再度見直す。
- ・高齢のため何もできない。
- ・大型店舗に対抗できる商工会の構築。

- ・若者の流出も多く、人員確保が難しい。地元に残るメリットが魅力的なものになったりUターンで帰ってくる人が増えるよう、子育て支援などの拡充を希望する。
- ・同業、関連業者の連携。

(7) これからの宇和島市の将来を見据えた創造的復興を目指すためのまちの「イメージ」を表すとしたら、どのような表現がふさわしいと思いますか。

<3つまで回答> (問30)

○その他の記載 (回答数：46件)

- ・子供が卒業後に帰り、家庭を持ち暮らせる町。2人の子は帰宇を希望したが、今の給与水準では帰らせられない。同じ仕事でも数倍違う。親としては、とてもつらいです。
- ・老齢のため希望なし。
- ・他の地域から金を取ってくる産業を (農業、漁業、ものづくり産業)
- ・江戸時代に三賢侯とうたわれるほどネームバリューがあったのだから、メディア的にもう少しPRがあってもよいと思う。
- ・宇和島の街を未来の為に。
- ・市全体が力をつけて、市民のためとなることに”力”をつぎ込む。万機公論で”皆”の心をまとめる。
- ・行政側の対応が悪すぎる。
- ・全ての人が生きがいを持てる社会。
- ・あるがままでしか、ありえない。
- ・抽象的な言葉は不要と思う。
- ・高齢者が多くなり税金が高くなる街。
- ・子どもが市外に働きに出なければいけない現状。
- ・こんなあいまいなイメージでは何もわからぬ。
- ・人もの自然が調和し、継承していく街。
- ・旧市町の垣根を越えた「平等」なまち。
- ・都会に出なくとも宇和島で生きていける生活できる収入を得ることができないと皆都会に出たがります。
- ・子どもたちが学校を卒業してここで働き住みたいと思うまち。
- ・諦めないまち。
- ・様々な立場の人々をなんとか団結させて、立ち上がるまちづくりに力を入れてください。
- ・現実的に若者の暮らしが成り立つ産業基盤づくりが必要。
- ・補助金に便乗して背伸びした事業に手を出さず、地に足のついた復興をする町。
- ・現実を見て、今の状況を改善することが優先。イメージはいらない。現実的な施策を示して実現してほしい。
- ・親の仕事を子が引き継ぐ街。

- ・若い人達（特に小・中・高校生）が将来この地域で一生を過ごしたいような街づくりをする。21.の実現の為に、この付近にそれにふさわしい企業を誘致する。
- ・経済が一番。
- ・イメージの言葉より実行力を出して早く復興をしてもらえばよい。
- ・住民が自分たちで作っていくまち。答えは住民に求めよ。
- ・何苦楚魂。
- ・生活を楽しめる街。
- ・Plan→Do→Check→Action。市(行政)が先頭に立ってやるべきなのは、
- ・80代なので希望はない。
- ・農水産業が盛んな地域であるが環境問題に対する認識が甘い。家庭ごみの分類ももっと細かくするべきだ。川も海もポイ捨てゴミがひどい。
- ・税金が少ない町、独自の産業に特化した町。
- ・エネルギーが沸騰する町。
- ・子どもたちに職業がある街。
- ・帰りたいまち。
- ・夢の話はいらない。現実若い子ども達（男・女）が家から出て、親から自立しようとしていない事、が宇和島を元気にしない。人々も増えない。企業が力強くないとお給料上がらないし、結婚できない人が多くいます。30代で男性が結婚していない人、良く聞きます。宇和島で家庭が作れるよう、18歳まで、医療費無料出来ませんか？（子ども育てて生活できる街にしてほしい）
- ・子供と高齢者を大切に作る街。
- ・1～21に優先順位はつけられません。全部大切。
- ・自然災害を享受し、認めつつ、自然と調和した町。
- ・住む町を感じられる町。
- ・市の職員の方が市民を守る。「究極のサービス業」であることを自覚して市民の為に誇りを持って仕事をしてほしい。
- ・いつ自然災害が起きても対応できる避難所の整備①トイレ②キッチン③ベッド。
- ・宇和島に住みたいと思える都市。
- ・抽象的なことばかりでなく、具体的にイメージしないといけないと思う。

## 6 防災関係(自主防災組織代表者・自治会長・消防団等)の方

(1) あなたの所属されている先を教えてください。＜単数回答＞（問31）

○その他の記載（回答数：32件）

- ・自治会長（19件）
- ・自治会（4件）

- ・ 自主防災組織と消防団両方（2件）
- ・ 自主防災会会長（防災士）
- ・ なし。
- ・ 防災士。
- ・ 自主防災組織、消防団、および仕事。
- ・ 防災部長。
- ・ 1.地区住民の安否情報確認 2.市からの情報・住民からの要望を継ぐ役割 3.地区自主防災組織を作り、住民参加での防災を提案実行すること。
- ・ 代表。

（2）あなたは所属団体でどのような災害時の役割をお持ちですか。

<テキスト回答>（問32）

○自由記述（回答数：237件）

- ・ 避難誘導（96件）※複数の役割を持っている人も含む。
- ・ 情報収集伝達（80件）※複数の役割を持っている人も含む。
- ・ 特には決めていない（15件）
- ・ 自治会長（9件）
- ・ 自主防災会会長（2件）
- ・ 自分では率先して大きな声で一番に逃げる役をするよう考えている。
- ・ 情報収集伝達、避難誘導、避難場所の確保。
- ・ 団員。
- ・ 情報収集伝達および役割分担の指示。
- ・ 避難場所に設置している防災倉庫のカギを災害の時、もっていけたら持っていき、中に入っているものを配る。
- ・ 情報収集伝達、避難誘導、水の配布。
- ・ 初期消火班。
- ・ 見回り。
- ・ 避難誘導と建物損壊場所の改善。
- ・ 地域の皆様の避難誘導、情報収集伝達、災害時の伝達。
- ・ 防災保管庫の周辺の草刈り。
- ・ 情報伝達、避難所の開設。
- ・ ポンプ車で浸水しないように排水。避難誘導。土のう配り。土砂の除去。
- ・ 防災部長。
- ・ 自主防災組織会長。
- ・ 避難所の開設、運営。
- ・ 自治会長として、情報収集の上、避難誘導。防災士として、処置及び避難所の仕事。

- ・避難誘導、減災活動、救助活動。
- ・自治会で防災部長、会計、情報収集。
- ・避難誘導、避難訓練などへの参加呼びかけ。
- ・災害復旧統括。
- ・自主防災組織会長、町内の情報収集と避難誘導。
- ・被災状況の確認、避難誘導。
- ・情報収集伝達、復興、避難誘導。
- ・自治会の人々の避難誘導。
- ・機械整備、使用。
- ・特に役割はないが、独り暮らしの年寄りに声かけをする。
- ・その地区の見回り。
- ・人命救助、河川の氾濫対策(土のう積み)
- ・情報収集、無事の確認。
- ・災害時の情報収集、宇和島市の伝達、対応相談、各組織への緊急対応指示。
- ・情報収集伝達、現場指揮。
- ・作業要員。
- ・特に役割がないが、自分から進んで何かを行う。
- ・人命救助。
- ・防災準備管理、避難誘導。
- ・会員。
- ・初期消火班長。
- ・情報収集伝達他。
- ・リーダー。
- ・指揮。
- ・分団長。
- ・いろいろ、なんでも。
- ・防災時連絡係。
- ・情報収集伝達、避難誘導、負傷者対応。
- ・自主防災組織代表（会長）
- ・責任者（?）、自治会長。
- ・情報収集、支所への連絡確認。
- ・平常時は地元の自主防災会の会長として各役員方がを通じて地域住民皆さまの防災意識を強めるための活動（防災日より参照）
- ・情報収集伝達、避難誘導、陳情、パトロール。
- ・土砂撤去、浸水防止、避難誘導、非常食品、飲料などの配布。
- ・機械班。
- ・統括。
- ・自主防災組織のまとめ役。

- ・町内代表。
- ・住民の生命と財産を守るために作業を行う。
- ・自治会、消防団との連携、サポート。避難所、市HP、SNSなど情報の収集と周知。集会所を初日は避難所。その後、支援物資の拠点として管理。ボランティアの休息所として整備。初期復旧の下見と段取り。生活用水の配送。
- ・代表者、救出・救護。
- ・全体を統括。
- ・避難誘導等の連絡。
- ・自治会全体のまとめ役。
- ・消防団員としては避難誘導、情報収集、自治会長としては避難誘導、避難所運営。
- ・伝達。
- ・代表。
- ・避難誘導（自治会）部長（消防団）
- ・地区の統括。
- ・自治会長 被災時の統括責任者。
- ・一般団員。
- ・情報収集伝達、部落内放送。
- ・住民の避難者確認等。
- ・柿原2区地域の第1次避難所の設営、開設（2カ所）
- ・防災、復旧活動。
- ・全体の取りまとめ役。
- ・自主防災指導委員、情報班。
- ・1件1件状況確認。集会所の復旧、集会所への物資の運搬。
- ・情報収集伝達、地区の役員として。
- ・特に決まった役はないが、自治会長として必要な役を実施する。
- ・避難場所の整理、管理など。
- ・一時避難場所への誘導→指定避難場所への誘導。
- ・情報収集、指示伝達。
- ・自主防災代表責任者(情報収集・救出・救護・避難誘導・給食給水)
- ・避難誘導他。
- ・収集伝達、災害確認など。
- ・地域住民に対する避難の呼びかけ、河川、災害の確認。
- ・自治会住民の安全確認および避難誘導。
- ・誘導、安否確認、被害状況の確認、救助。
- ・不明。
- ・応急活動の指揮。
- ・避難場所の集会所のカギを所有している。避難誘導。
- ・おのおのがたが各自で避難する。

- ・ 統括。
- ・ 防災部長(区長の補佐)
- ・ 自主防災組織代表、自治会長。
- ・ 現場関係全般。
- ・ 情報班。
- ・ 避難誘導。
- ・ 決められていないが、避難誘導。
- ・ 消火活動。
- ・ 情報を伝えること。避難誘導をすること。
- ・ 防災士のため、自治会の方の避難誘導、情報伝達。
- ・ 情報収集、避難誘導、災害物資、資材管理。
- ・ 住民の安全確保。
- ・ 災害時の明確な役割はまだ議論されていません。しかし各班に防災係を決め、年に数回の会議を防災士とともにしています。
- ・ 避難誘導、一人暮らしの確認。
- ・ 会長補佐、避難指示、避難誘導、要支援者確保・確認、避難所運営。
- ・ 情報の入手及び伝達。
- ・ 自主防災代表。
- ・ 避難所での避難者のお世話。
- ・ 役割が定まっていない。自主防災組織は一応あるが、機能していない。
- ・ 避難者の確認。
- ・ 代表であるため全体の役割をもっている。
- ・ 自主防災組織の責任者・地区の防災士の調整・連絡。
- ・ 情報収集伝達、避難誘導など、全体の様子を把握すること。
- ・ 自治会で話しあっていない。個人的には近所の仲間には声かける。
- ・ 町内の安全。
- ・ 情報・救護救出・避難誘導統括。
- ・ 避難誘導、災害時の物資等がある小屋の管理。
- ・ 統括、指揮。

(4) 実行できなかった場合、その理由はなぜでしょうか。＜単数回答＞（問 34）

※問 33 で「3 実行できなかった」を選んだ方

○その他の記載（回答数：91 件）

- ・ 必要ないと思ったから。
- ・ 実行する必要がなかった。
- ・ 家族の安全を確保しながら、消防団の指示待ち。

- ・雨などの水量が多く、何もできない状況がほとんどだった。
- ・住んでいるところに被害がなかった。
- ・身の危険を感じなかった。
- ・仕事で自宅にいなかったため。
- ・自宅が浸水しそうになったから。
- ・家の周りで被害が出なかったから、避難するほどの災害が起きていないから。
- ・早朝7時ごろより1時間程、かなり強い雨を感じたが、避難するほどではないと思った。
- ・たいした事はないと思っていた。ただ一部各班長には避難場所の指示は行ったと思う。
- ・吉田公園の浸水した水を川に排水していて川が氾濫して避難した。
- ・避難するほどの被害ではなかったから。
- ・地域の側溝が溢れたり、土砂崩れがあったが避難しなければならないとは思わなかった。
- ・被害が出そうになった。
- ・少しはできたが、満足にできなかった。
- ・一時的な降雨と感じた。
- ・個人の判断で避難を呼び掛けてもいいものかとためらった。家族の身の安全確保のため。
- ・特に避難の必要性に迫られなかった。豪雨の様子は確認していました。
- ・認識が甘かった。
- ・”避難の呼びかけ”より先にSOS、救助要請が入ったので。
- ・夜の行動を控えた。
- ・今の家族構成で困った方々（特に歳いっておられる女性に手を差し出す（独居、一人暮らし等）勇気と思いやりを出すこと。皆の意見より尊いものです。
- ・なぜかその時のタイミングで（落雷）防災（災害）ラジオが壊れ、情報が全く入らず。
- ・旧市内の高台のため、現実に災害が発生しなかったため、わからなかった。本当のところ。
- ・道路の寸断により、動くことが出来なかった。
- ・急に水位が増え、気が回らなかった。
- ・河川氾濫対応の為。
- ・避難が必要であるとまでは感じなかった。
- ・家のことで手がいっぱいだった。
- ・年寄りと足が悪いので情報があってもできない。
- ・その日は旧市内の大半は考えてなかったのではないか。
- ・今回の災害は避難する必要のない地域でした。
- ・地域全体が安全な場所にあるため、避難の呼びかけをする事態でないと判断した。
- ・コミュニケーション不足で情報伝達ができない。
- ・必要ないと思った。

- ・自分で確認し行動する。
- ・あまり危険地域ではなかった。
- ・勤務先が大変で地区は情報から大丈夫だという思いもあり、仕事を優先してしまった。
- ・水害で現場に出ていた。
- ・温暖化でゲリラ豪雨が発生しやすいとは聞いていたがまさかあれほどの豪雨だとは予想がつかなかった。まさに想定外だった。
- ・仕事に行っていた。災害復旧。
- ・危険性は全く感じなかった。
- ・役割が明確でなく、集会所を避難場所として開放したり、個別の問い合わせには対応したが、全体への指示等はできなかった。
- ・吉田ほど強くなかった。
- ・避難の必要性がなかった。
- ・当日は夜間勤務であり、現場にいなかった。情報は把握していたが、被害はなかった。
- ・その必要がないと思う。
- ・体制として。呼びかけは消防団に任せてある。
- ・テレビラジオの情報ではその必要を感じなかった。
- ・所属自治会区域に危険性を感じなかった。
- ・緊急避難放送があったが満潮の時刻からだいぶたっており、実感がなかった。班長の高齢化もあり、実行できなかった。
- ・特に危険を感じなかった為、避難する方が危険。
- ・避難するよりも大事なものを高いところに上げるので精いっぱいでした。
- ・家族を守るので精一杯だった。
- ・住民の個人の判断に任せている。
- ・安全だと思った。
- ・災害時吉田町にいなかった。自宅に帰ったのは2日後。
- ・実現できなかったの表現ではなく、私たちの町内では、消防団の巡回が強化されている。(他人任せの感があるが…)そして、防災ラジオの効果が大きい。
- ・早朝より情報収集のため町内を巡視しながら避難の確認をして回ったが、自宅にいることが安全と思われた。
- ・大雨でもなかったし、深夜に行動するには危険だから。
- ・雨の音などで防災無線等が聞こえなかった場合、スマートフォン、パソコンのメール、LINEが使えない人の場合、どう本人と連絡をとるかが問題だと思う。
- ・避難の必要性がなかった。
- ・行政側がパンクしているので、対応が出来なかったと思う。
- ・必要とする情報が伝達できなかった。
- ・仕事。
- ・近所の支援はできたが、それ以外の地域の状況が分からなかった。
- ・雨がすごかったが、高台なので大丈夫だった。

- ・自分の家、家族のことでいっぱいだった。
- ・消防団として集会所へ待機していた。
- ・近所の様子は少し多いぐらいの雨である程度の意識しかなかった。近所住民は避難してないと思う。結果的には避難の必要もなかった。
- ・住んでいる地域に危険はなかったが、これほどとは思わなかった。早朝見回ったが、被害はなく、ここでは夜動き回る方が危険と思われる。
- ・必要なしと判断した。
- ・住んでいる地域は安全なので自宅待機をした。様子を見守っていた。
- ・仕事が休めなかった為。
- ・自主防災組織が組織されていないため、要避難等の判断が難しい。(今回は避難の必要ありと判断した)
- ・災害無し。
- ・避難の必要性を感じなかった。
- ・深夜から早朝時に地域住民に対して、避難の呼びかけを行う必要性を感じなかった。(この地域では)
- ・避難するほどの災害にはならないと思っていた。実際に水路等の増水により土砂が溢れて一部水路、赤道等をこわして周囲の田畑を傷めたが、家屋や人的被害はなかった。
- ・仕事で出ていた。
- ・家族に確認の電話を入れたが大丈夫だと言われた(勤務中)
- ・仕事で中だった。
- ・農道からの雨水を近所の方と防いでいたため。
- ・豪雨がおさまってからは避難所開設等の地域マイク放送でお知らせはできたが、あの状況の中ではなかなか動くことが困難でした。
- ・災害が発生したらどうするかというマニュアルもないし、そもそも組織が機能していない。
- ・実行する必要がない地域だった。
- ・家の周りを確認したが危険だとは感じなかった。
- ・こんなことになっていると思わなかった。
- ・今前の体験から実行する必要はないと判断。
- ・身の危機を感じられなかった。

(6) その情報はどのような手段で伝達されてきましたか。＜単数回答＞(問 36)

※問 35 で「1 伝達された」を選んだ方

○その他の記載(回答数: 28 件)

- ・災害連絡用ラジオ(7 件)
- ・防災無線(3 件)

- ・消防団（3件）
- ・テレビ（2件）
- ・町内のマイク放送（2件）
- ・後日、市役所から郵送にて。
- ・防災無線、テレビ。
- ・防災無線、ラジオ。
- ・見回り
- ・人から人へ
- ・自分から報告した
- ・消防団、防災ラジオ
- ・分団長、副分団長との細かな無線にてのやりとり
- ・市の防災放送
- ・何もない
- ・自治会の集まり

（7）その情報は普段どのような手段で伝達されることになっていますか。

<単数回答>（問 37）

※問 35 で「2 伝達されなかった」を選んだ方

○その他の記載（回答数：40件）

- ・決まっていない（7件）
- ・不明（6件）
- ・防災ラジオ（5件）
- ・マイク放送（2件）
- ・防災無線（2件）
- ・サイレン、マイク（2件）
- ・市からのラジオ放送？
- ・屋内防災無線と屋外防災無線スピーカー。
- ・マイク放送、豪雨時は聞こえません。
- ・各家庭を回って連絡する。
- ・トランシーバー。
- ・市及び関連団体からの情報伝達の方法がどんな方法でいつあるのか等明確になっていない。市から自主防災組織への連絡系統は不明である。
- ・自分の判断、優先する。
- ・自治会の広報マイク。
- ・防災会長及び同じ防災士の仲間から（私も防災士の1人）

- ・自分で水の水位を見て、会長と連絡を取り、連絡取れなかったので、自分で避難指示の電話を地区の班長に行き、近所に声かけして避難した。
- ・情報不足。
- ・市の避難情報から知る。
- ・防災ラジオで避難指示は出ていたが豪雨の為とぎれとぎれで非常に聞き取りにくかった。
- ・市自主防災連絡協議会、市連合自治会には情報伝達の手段がない。
- ・前例がないのでわかりません。

(8) あなたが防災活動を行うに当たり、どういった情報があれば活動しやすいですか。

<単数回答> (問 38)

○その他の記載 (回答数：16 件)

- ・①～④すべて (3 件)
- ・色々な情報は必要です。ひとつでは足りない。
- ・今回みたいなのは無理だと思う。
- ・テレビ。
- ・僻地、遠隔地であるので、情報には期待していない。それよりも、事前の整備拡充をお願いしたい。
- ・全部。
- ・まずは防災放送だと思います。聞こえなかったという人もいるかもしれないが、伝達は必ずあるから。確実な放送。
- ・市の防災ラジオ。
- ・防災役員や防災指導士のつながり、情報交換で各自 (地域社会自身) が判断する。
- ・地域の川の増水状況。
- ・映像により情報を受ける方がいい。テレビなど。
- ・気象庁、気象台の出す情報はたくさんあり自治体は大きく分けて3つある。これを1本化できる言葉にはならないのだろうか。
- ・その地域に合った情報がほしい、市からの徹底した準備が乏しい。
- ・防災関係の知識等。

(9) 地域において防災活動を行う上での課題は何だと思われますか。

<テキスト回答> (問 39)

○自由記述 (回答数：198 件)

- ・わからない。

- ・個人個人の意識の高さ。
- ・迅速な情報伝達が出来なければ防災は必要ない。
- ・住民の防災意識が低い。
- ・ひとりひとりの防災や自然災害についての意識があるか否か、と思います。
- ・地域ごとの避難所はあると思いますが、地元では神社や小高い山の上になっており、高齢者の数も多く、避難させるのに限界があるので、もっと安全な避難所の設置をしていただきたい。
- ・住民の避難行動をしなければならない意識のレベルアップを図る方法。自分は大丈夫という意識があり、身近に災害が起こらないと避難しない。
- ・老人が多いので移動手段の確保。
- ・地域の方々への連絡。防災倉庫を設置する場所が確保できない。
- ・高齢者の避難。
- ・見回りだと思います。
- ・高齢者が増加しているので、「自宅に留まる」という意思を示す方が多い。救助に向かう者も高齢化しているのが実情。
- ・防災に対する一人一人の積極的な行動。
- ・災害があれば一軒一軒の状態がわかれば対処が早めに防災ができる。危険な箇所にテレビカメラ（防災カメラ）を据えて、消防団、自治会長らが見て避難勧告を伝達する。
- ・地域住民皆が防災に対する認識をもっと重く受け止めることが大切だと思う。
- ・防災教育→避難すべきかどうかいつ避難するか等判断力を養う。
- ・会員同士の意志の伝達方法。
- ・若者に消防団に入ってもらいたい。消防団が1日活動して2000円じゃ厳しい。
- ・問5に対して、丁度兄の付き添いで病院に行っていたから近所の人で携帯で解り、帰ることも出来ず息子に家を見に行かせました。
- ・自治会活動も含め、地域のつながりが薄い。
- ・いろいろと、こまめに情報をいただいております（市役所から）
- ・情報の伝達。
- ・テレビの情報を充実。
- ・市の情報が入らない。
- ・防災組織はみんなが被災してしまうと機能しない。自分のことで手一杯。自治会に入っていない人の対応。
- ・避難勧告等の指示が遅すぎる。現場を把握ができていなのはわかるが、市としても避難場所までの道が確保できているのであれば、指示を出すべきだった。
- ・近くに避難場所がない。
- ・消防団のOBも手伝うようにすること。
- ・地域での情報の交換。
- ・高齢者等の移動手段の確保（自主避難できない人々の）

- ・地震のみが心配すべき災害である地域に住んでいるので、地震対策に特化した情報交換が有効であると思います。
- ・防災教育を徹底し、定期的に訓練に参加すること。私の町内もそうですが、訓練に参加する人が少ない。災害に対する危機意識の向上を図る必要がある。
- ・防災に対する意識改革が必要だと思っています。災害時に避難しようと思っていないと感じています。少しずつでも避難しないと思った時には、自分で体が動くというような気持ちになってもらいたいと思っています。私の活動で町内に一人でもこの気持ちに賛同してくれる人を作りたいと思います。
- ・災害を考慮した装備(救命胴衣、ボートなど)、災害別の対応マニュアル（情報がないときの対応と教育、人命を第一に）。
- ・災害に対する恐ろしさの自覚の欠如。
- ・避難、被害の状況等、野外のマイクで聞こえない。(ダム含む) 地区の弱者の情報。(地区で記入中)
- ・生活基盤の安定、経済活動の充実。
- ・組織代表者のやる気。
- ・避難指定場所に行くのに橋を渡る必要がある。
- ・人が多い、若者が少ない。
- ・家の中にいる。
- ・高齢化。
- ・近所等の伝達のつながりがない。
- ・正確な状況判断と指示。
- ・災害が、どんな災害なのかかわからないので、風、雨、地震など、それぞれで違うのは。今住んでいる場所などで課題はあると思う。
- ・老人の対策（独り暮らし）
- ・自分以外の人のことを考えることのできるゆとり、思いやり。
- ・中心になって防災活動をする人がいない。
- ・近所の住民同士のつながりが持てるかどうか。
- ・避難場所に適する所がない。指定された場所に行く途中に危ない箇所がいくつかある。
- ・災害の種類による避難場所の選定。7/7 豪雨災害では、今の避難場所は逆に土石流の恐れがありますので、被害が大きくなることが想定されます。
- ・わかりやすい情報伝達、住民への情報に関する理解、住民の避難場所への移動における安全性の確保（道路崩落、橋落下）
- ・国、県、市の防災に対する支援が少ない。
- ・若年層（高学年から成人）と高齢者の間で防災に対するとらえ方の違い。女性の積極的な防災活動・意識の向上。マンション住民・新興住宅地など、”隣の人は何する人ぞ”とか、旧町内でも”向こう三軒両隣”すらない、コミュニケーションの欠如。高齢者、身体不自由者への情報伝達・避難誘導。空き家対策（損壊したときの避難路遮断）
- ・地域住民の個別情報がない。地域の情報が伝達できる場所。要援護者台帳。

- ・安全性確保のため、災害予想地域に5段階の危険度を作り、一番危険である地域には家を建てられないよう、注意を促す。
- ・防災・災害に対する意識が低い（わたしは大丈夫だとか。）
- ・人材不足（若い人が少ない）
- ・一人一人の意識。
- ・自助と共助の重要性の啓発。地域（自治会のエリア）の災害に対する弱点と強みをみんなで考えるところからはじめたい。
- ・地域住民たちの連携や協力。他人に無関心な人が多すぎる。
- ・今回のような災害。地震、地震といっても地震の時の訓練しかしなかったのは間違い。すべての防災活動の訓練をし、避難場所の確保。避難場所のやり直し。
- ・島部という立地上、防災活動をあきらめている人が多すぎることに。
- ・地域住民の関心。
- ・地域住民の高齢化。
- ・コミュニケーション不足。
- ・避難場所が安全ではない。安全性が確保された避難場所が必要。
- ・隣近所の人への安否。
- ・消防団の人数の確保。
- ・山林の整備。
- ・正確な情報、早期伝達→市民に。
- ・個々の方の意識が薄いこと。高齢者の方が多い事。
- ・隣人とのコミュニケーション。
- ・住民全員の意志の疎通。
- ・地震に関して、津波ではあまり影響はないと思いますが、山崩れなどは不安です。
- ・時間とお金が必要である。仕事が忙しく時間がないので防災活動ができない。同じ意思をもつ多くの仲間が必要。
- ・自助、共助。
- ・消防、自治会が行動を起こす。（誰の責任でもないが）
- ・住民の危機意識の希薄さ（行政頼り）地区の住民の老齢化→1人暮らし世帯への連絡及び避難行動の困難さ。避難のための地域指導の狭さ→拡幅が無理なら電柱の場所変更・地下埋設。道路沿いの空き家対策。
- ・高齢化。
- ・平常時は自主防災組織間でお互いの活動を参考にしあう。（訓練内容）宇和島広域の各箇所にモデル活動拠点を設け、見学会を実施する。防災士会で年間課題を作り、各地の自主防災会活動をフォローする。課題は、地域のことは地域で備える。
- ・予算的な面で難しいとは思いますが先手先手でハード面の強化をしていただければありがたい。現状では被害がないと動いてくれない。老朽化、危険個所の調査も行われているようだが進展がない。

- ・自分の命はまず自分で守るという意識の醸成。人頼み、行政頼みだけではだめ。連絡網の確立。自治会を通してという方法では、すべてに伝達できない可能性が大きい。防災無線、ラジオを有効に活用すること。今回の豪雨では、役に立っていなかった。
- ・消防団員が被災したり、人員が不足して十分な活動が困難となったことから、西予市など周辺地域と連携して応援に来てもらえる体制を作ってほしい。
- ・個々の人間性。
- ・通行止めになった場合。
- ・市役所玄関横には、津波想定 6.5m の表示があるが、市内冠水図を見ると 4 m の水位でほとんどの市街地が冠水する。市の交付金を活用し、防災飲料や備品倉庫も設置できないのが現状である。公共施設等を利用するなど、行政主導での対応を要望する。
- ・住民の意識の高さ。
- ・高齢者、独居者、寝たきりの人の避難方法。
- ・若い人がいない。
- ・行政区人口 360 人強のうち、自治会加入人口は 210 人強で、約 150 人の動向などの把握が不可能。新興住宅地で、新しい行政区で、自治会を立ち上げることが被災時の細やかな対応を可能にし、近隣自主防として連携できる。
- ・防災意識の向上。避難路の整備(身体的ハンディキャップのある人をどう避難させるか。区内に学校・病院・スーパーがあり、また介護施設もある。今の避難場所で間に合うのか)
- ・自治会各団体が一つになる事。
- ・自分の命は自分で守る。人は手を伸ばしてくれない。人を頼ってはいけない。何とかなる、甘すぎ。
- ・お年寄りが多くなり、避難意識が低い。
- ・防災に対する意識を高めること。但し、日常の生活に追われそれら啓発活動ができていない。
- ・自治会内など狭い範囲では被災しなかった方が被災した方を手助けすることはあったが、より広範囲に助け助けられる組織的な対応が出来なかった。吉田玉津地区での「地区災害対策本部」立ち上げの経験を全域に。
- ・早め早めの対策。
- ・一人一人の危機感が薄かった。
- ・コミュニケーション不足(自治会だけでなく、単身の方とかの)
- ・もっとみんな参加してほしい。
- ・意識が低い→津波の危険性が少ない。
- ・高齢者の避難。
- ・てこでも動かない高齢者の避難をどうすればいいか、困った。
- ・校区内の高齢者への支援物資の配布、トイレの水等に奔走。支援物資は自治会長しか取りに行けないという決まりを何とかしてほしい。

- ・吉田小学校体育館の宿泊には参った。雨音雨漏り、明るさ、床の固さととも休める状態ではない。ストレスがさらに高まった。何とか休める場を確保してほしい。
- ・住民の意識向上、自助、公助、共助→地元では共助を重視したと思う。
- ・自主防災組織が名前だけで実際に機能できていなかった。役割分担など出来ていなかった。
- ・大部分の市民は自分の所は安全だと思っている。したがって防災に対する関心が薄い。いかにして市民に防災意識に高めていくかが課題と思われる。
- ・避難準備情報や避難勧告などの情報をより具体的に（避難場所等も含め）伝達する方法や設備が十分ではないので、より充実してほしい。また避難所を増設するための支援をさらにしてほしい（物資の配給等も）
- ・避難経路、危険な箇所が多く、早めの避難が重要で、より早く情報が入手できるように。
- ・住民一人一人の生活状況に応じた情報伝達、避難方法、避難場所を指示することができるかどうか。住民は高齢者が多く、短時間で情報を伝達し安全に避難させることができるかどうか課題と思われま。
- ・高齢化が進み、事ある場合に移動が厳しくなる。
- ・情報を正確に判断。
- ・土のう袋など、数が足りない。保管場所も少ない。
- ・地域にあった情報が伝達されることだと思。
- ・市が避難マニュアルを作成し、全戸に配布することで、市民が心構えをすることが大事かも。
- ・各自の防災意識を高める事。
- ・若い人が少ないので、活動が心配である。
- ・高齢者が多い（女性一人住まい）。地域の防災活動に関心を持たない。
- ・個人個人の防災に対する自覚が大切。
- ・被害状況の早急な伝達。
- ・今回のような大規模災害の場合、地域の地形によっては安全な場所がない。防災活動を行う上で、拠点は必要である。災害の種類によって、ここを拠点とするという場所を構えることが必要。
- ・自己の判断。
- ・気象情報をするべし。被害状況。
- ・誰がどう困っているか、何をしてほしいのか、何がほしいのかをどう誰に伝えるのかという点。あと、みんな気遣い過ぎ。
- ・自治会長様にお願い。
- ・今回の災害に当たり、自身の地区のこのみで、他地区の情報がはっきりわからなかった。情報の共有がもっと早くできれば良いと思った。
- ・高齢者における移動困難者の避難。

- ・避難場所の周知徹底を図ること。地震等で家屋が潰れた場合、近所での連携をしっかりとっておくこと。とにかく忘れないように定期的に訓練等を行うこと。
- ・町内は高齢者が多いため、即時の避難が困難な場合がある。
- ・高齢者をどう避難させるか。
- ・夜間・早朝に災害がおこると、対応が全くできない。住民も行政側も危機管理意識をもっと持つ必要がある。
- ・高齢者をいかに安全に早めに誘導すること。
- ・お年寄りの方の動作、又行動。スピーディーな行動がとれない。
- ・防災ラジオの音が全く聞こえなかった事。
- ・災害について近々のことに思っている人が少ないせいか、参加することへの意識があまり感じられなく、参加者も特定の人に限定されているようである。参加することへの意識の向上。
- ・地域的に高齢者が多いので、活動どおりにはいかないと思う。
- ・情報が入ってこなかった。
- ・避難場所の集会所の横の排水路が、台風及び大雨によりいつも増水し氾濫しているため、今回の豪雨の際、だれも避難場所として利用せずコミュニティーセンターに避難している。
- ・強力な指導者がいない。人間関係が希薄になっている。
- ・個々がどれだけ危険な状況にあるかどうかの認識を得ること。学ぶこと。
- ・所在把握が困難。いわゆる「若手」は、勤務先での非常時参集体制に組み込まれており、高齢者、子ども、女性のみで避難を余儀なくされる。
- ・高齢化し、人手が集まりにくい（水路の土砂除去など）
- ・防災、減災において、完全というものはありませんが、すべてにおいて準備不足です。
- ・住民の防災意識の向上。
- ・どこから水が入って、どこから流水したか公表してほしい(橋上)。海水が低かったので、1m前後(床下)であったが、満潮であったら大変だった。
- ・隣保協同の精神が醸成されていない。
- ・正確な情報の早期伝達。
- ・サイレン、マイクが全然なかったので、気が付いたら足元まで水が来ていました。防災、避難以前の問題です。考えてください。全然気が付かず、胸まで水が来て、大変でした。もっと早く(今回は仕方なかったが)情報してもらいたい。
- ・人員不足(若い人材)そのため、防災活動に参加できない場合等少数で行わないといけない。もっと普段から気楽に参加できるようにしてほしい。夏季・秋季訓練、出初め式などの中止。
- ・自主防災組織にお金がない。
- ・自主防災組織だからといって”自主性”にまかせてしまうと”やる所はやる””やらない所はやらない”差が出て市全体としてのレベルが上がらないように思える。ある程度市がファシリテーターとして引っ張らないといけないと思う。

- ・地区の人間関係だと思う。
- ・防災士の増加（予算をつけて助成する）
- ・地域で命を守る防災の知識をつけ、家庭家族に近所の方が時間をつくって防災の話をし意識を高めていただく。
- ・住民（特に高齢者）の意識改革と誘導対策。
- ・自治会に入っていないとつながりが持てない。プライバシーの問題もあり、高齢者・障害者の把握が難しい。
- ・助け合い。
- ・情報の共有。
- ・若者世帯の自治会加入が減少しており、会員は高齢者が多数になり、防災活動はままならず。自治会加入は任意である市に問い合わせても加入するかどうかは本人次第と助言していることも加入を阻害している原因でもある。
- ・情報だと思えます。
- ・近所での助け合いが1番だと思えますが、自治会への協力や理解がなく役員の引き受け手もいません。地域住民が親しく交流しお互いを知りあうのは・・・何か良い手立てはないでしょうか。
- ・日頃から隣近所と交友を持ち、災害が必ずあると信じて、その時の行動を常に皆と話しあって、まず自分が行動できるように、その輪を広げていくのがいいと思う。
- ・避難に対しての意識向上。
- ・自治会世帯の高齢化（95%以上）
- ・ハザードマップ。地域の避難場所等、形だけで現実はかけ離れている。
- ・お名前や家族、どこに知り合いがいるとか、いろいろと日常の生活を知っているとよいですが、近ごろはプライバシーで個々の生活になり、難しさもあります。
- ・自主防災組織のメンバーはいるのですが、まだ活動していません。年齢が全員60歳以上というのもあります。指導してくださる方がいるといいのですが。
- ・住民の方は防災の重要性はわかっているとは思いますが、誰も津波等の災害が起こることが実感しにくいのではないかと？
- ・自主防災組織、防災意識の向上。
- ・避難場所が安全であることが一番大事だと思った。
- ・各自、自宅周辺及び土砂災害・池・河川の決壊・氾濫等の起こりうることを想定しての取り組み、意識改革が必要では。
- ・ハード：地域の水路が細く大雨に対応できない。ソフト：地区全体では自治体加入率が下がり続けている。住民の市域を変えなければ地域防災が活発にはならない。
- ・防災組織の強化（自治会内）
- ・被災しにくい避難場所がないため、活動拠点とすることができない。
- ・住宅の耐震化の未整備、橋の耐震化、津波に対しての山等の避難所未整備、防災倉庫の中身の充実を行いたい。
- ・住民の高齢化。

- ・防災に対する意識の低さ。
- ・自主防災組織体制の構築と強化。災害情報の的確な伝達。
- ・地域の若者の防災活動に関する関心がない。
- ・避難所の安全性と避難路の確保。
- ・独居者や高齢者宅への声かけ及び避難誘導。特に南海トラフ巨大地震に伴う家屋倒壊。場所が海に近いので、津波による浸水により自治会内での初動救助等ができるのか不安でいっぱいです。
- ・高齢化。防災関係者の担い手不足。住民の危機意識の欠如。
- ・正常性バイアス、危機管理意識。
- ・災害で避難する場合、自分の家、家族もあり、すべての人を誘導するのはむづかしい。
- ・防災組織はあっても避難所へ行くまでは各自が対応するしかない。そのため、情報をわかりやすく、早いタイミングで流してほしい。
- ・地域住民の防災意識の低さ。いかに自身の問題として考えていただくか。
- ・身近な避難場所の設置（現行の避難場所まで遠い）、危険個所の防災対策。
- ・大声で呼びかけする。
- ・危機管理課を頂点として集落まで情報伝達・収集できる確実な連絡網。
- ・年配者の移動。
- ・地域に防災活動を担う、防災士などの人材育成が必要。高齢化で地域も大変です。若い人材を地域活動へ導く。教育が大切。
- ・自力で避難の困難な方をサポートする人間を一人でも多く確保すること。
- ・身の安全を第一に。
- ・防災役員とのコミュニケーションをもっと取りたい。防災活動費が不足。リーダーとしての自信を持ちたい。
- ・住民一人一人に防災士の知識を啓もう活動。準備する側も必死になってやっているが、未だ50%といったところです。
- ・防災に対しての知識、準備等一人一人の構えが出来ているか？
- ・早めの防災ラジオでの情報・活用。地域の放送では聞こえない、伝わらない。
- ・地域の高齢化のため、今まで災害がなく防災への関心が薄れています。若い人は仕事が忙しいと防災伝達しても断られます。防災活動が難しいです。
- ・防災に対する住民の意識の向上。

## 7 自由意見

その他ご意見がありましたら、ご記入ください。<テキスト回答>（問39）

○自由記述（回答数：85件）

- ・普段から自治会で避難訓練などをよくすることです。
- ・河川、道路などの早期復旧。
- ・今後とも安全に気を付け、命の大切さを学びたい。
- ・早く川をどうにかして。
- ・テレビの情報を即座に行うこと。
- ・災害ダイヤルやネットで、他地区の状況が分かれば、避難の判断の参考にできる。
- ・ペットと一緒に避難できるような避難所の運営（そのようなことは全く考えていなかったようである）
- ・避難指示等をもっと小さいコミュニティで出すべき。
- ・保田地区は6年～7年に1回、道路が水に浸かります（ダイキの裏からマルナカ周辺）
- ・避難場所（宮下球場）に備蓄倉庫をお願いします。公民館から配られる避難物資の数々、私は持って避難するのは無理。形だけの避難物資の配給は金のムダです。
- ・地球温暖化等気候変化などにより、以前より災害が日本中で起こるようになりました。以前TVで見たのですが、イタリアでは災害時の生活支援？別にそういうことをする国の組織があるそうで、住宅とか水害で流されれば、大型のテントタイプの住居を直ちに用意できるそうでした。災害時その地域はてんやわんやなので、国の方で、いつでも1万人分ぐらいの対応が出来るようにお願いしたいです。
- ・自宅の弱点や地区の地形について勉強できる会。市役所の協力を望みます。
- ・7月の災害は、何もできなかった。
- ・このアンケートを無駄にしないように。
- ・形だけの避難場所ではなくて、実際の災害のときに応じた避難場所が必要であります。これは一番重要だと思っています。各災害に応じた避難場所選定は最重要と考えておりますので、地元はもちろんのことですが、行政協力調整がいます。
- ・水が出てマンホールのふたが流されて泥でいっぱいになりました。災害の時です。
- ・神田川の近くに住んでいるものですが、お通り橋周辺の左岸に積み上げられている大量の石の撤去をお願いした。ある人が十数年コツコツと清掃され、昔に比べると美しくはなりましたが、毎年二回（春・秋）の神田川清掃奉仕活動の時は石の間から雑草やら小木（センダン等）が繁茂し、石に上がって作業するとぐらついて危険が伴います。また、作業者の高齢化もあり、いつ怪我をするかわからない状況となっています。7月の豪雨の時は石積みも一部崩れ、大きな石が散乱しています。年々川底も上がっていて、次の大水の時は流れが変わり、軟弱な場所は損壊の危険が発生するのではないかと心配しています。最後にこのアンケートの問11-1の文面ですが、「自分の住んでいる地区の災害種別に応じた避難場所を知っていますか」とありますが、最近の避難訓練では南海

トラフ大地震を想定しての「地震・津波」への避難（所）へ避難が行われますが、「大火（地震・失火など）、大水・土砂災害（台風・集中豪雨などの風水害）…等」はどこに避難すればいいのか避難場所を混同している人がいるのではないかと思います。市のHPや防災マップである程度は判断できますが、パニックになるとどこまで分別できるか疑問です。1.「地震・津波」の避難訓練では避難場所がわかってきましたが、2.地震災害・大火・風水害（台風・集中豪雨）等、1.2.の両災害時の災害種別に応じた避難場所の周知を再度、全市民にやるべきではないかと思います。「地震・津波」以外の季節の「広域避難場所」の標識の増設、目につきやすい場所。

- ・古くなっている標識の点検（修理・建て替え）もお願いしたい。
- ・避難勧告、避難指示を早めに。被災（被害）後であっても避難指示は出すこと。避難指示を出すことで二次災害を心配したと報道に出ていたが、それは言い訳で、災害対策本部が検討したのか、もし、あと一時間大雨が降り続いたら、被害は拡大していたと思う。
- ・人口増加のための何かを考える。商店街を市が買い取り、再開発プランを立てる。観光都市としての計画（日光江戸村や海）
- ・近隣住民で協力して命を守る。今回の豪雨を無駄にしないよう。
- ・市長に対して本当に、良くやってくれたと感心しています。大変だったと思います。これからも頼りにしています。頑張っている人にがんばれは言えない。まだまだ頭の痛いことばかりである。
- ・公民館などに行くには遠すぎるので、近くに避難場所を作ること。
- ・南予地区での人口減少（特に若年層）を食い止めるため、各地での積極的な行政・財界での動きが必要（学術都市、観光特化等）
- ・行政トップは腹を決めて提案。実行に取り組んでもらい熱く希望します。
- ・消滅可能都市として手をこまねいてもらっては困る。
- ・①非常において、安心して防災活動全般ができるように、自主防災役員には消防団並みの傷害保険など支援をお願いします。防災活動のすべてが自己責任なら充実した行動にはならない。中途半端な位置づけではダメ。防災活動の地域住民との信頼関係を100%に近づけたい。②今回、吉田地区において大災害→避難所等の開設で運営が比較的うまくできた自主防災活動の活躍を紹介し、発表してもらいたい。可能なら報告会を夕方6時過ぎから市役所で。その防災会には市長名で感謝状を。いかがでしょう。
- ・あそこはよくなるとるのにうちはいっこうによくないという声もよく聞く。ハード面での地域格差をなくしてほしい。陳情が足りないというとそれまでなのだが。
- ・身体的に他者への避難協力者等へ情報の共有方法、協力体制等。
- ・農地に流入した産廃方法を支所に相談したところ、農林課と生活課で話し合いをして、本庁の役職員預かりになったのですが、いつまでたっても回答が出ず、支所と本庁の温度差を感じました。

- ・津波避難は山へ逃げるのが一番良いと思う。(防災出前講座)もう少し行政が積極的に動かしてほしい。その地域の事情・状況に合わせた方法があると思う。病院・学校等のある地域は、積極的に行政がかかわってほしい。
- ・普段から家族、近隣の会話が大切である。会話がなければ、他の家の家族構成さえわからず、行方不明者が出てわからない。
- ・防災士による防災教育の実施(市当局から訓練等の案内があれば優先的に日常生活を変更しやすい)
- ・地元消防団の方は休みなく作業をしていた。地元以外の消防団(旧市内)の活動はどうだったのでしょうか。
- ・今回の災害で危機感が高まったと思います。しかし、時間たてば忘れるので、今回の実際の映像を流したり、継続した訓練が必要と思う。あと避難所の整備、トイレなど。
- ・今回災害にあって水のありがたさはわかりました。その他にすみずみまで水が届かなかった事の不満があります。食べ物も届かなかったところがあります。
- ・ダムは壊れないといわれているが、想定外がおきる可能性もあるので、大丈夫ということを行わないでほしい。
- ・多くの方の支援にここから感謝したい。どうしてこんなにもしてもらえるのかと世知辛い今の日本社会から別世界の日本に抜け出したような感動を何度も味わった。
- ・2階3階があっても歳をとっているので1階が生活の場で、上がるまでは大変でした。
- ・消防団の拘束時間が長すぎ
- ・避難所が浸水して避難できる状態でなかった。避難場所を決める場合、立地場所など考慮して、選んでもらいたい。
- ・自治会長が会社員の場合、拘束時間が長くなるので、自治体が会社に連絡し、状況を知らせ、保護する。
- ・質問の流れがわかりにくい。
- ・復旧に各地からボランティアが来てくれていたが宇和島の対応のまずさを理由に他の地域に移っていったとの事を聴いているが、災害はいつ起こるか変わらないので、受け入れ態勢にも、もう少し勉強する必要があるのではないか。
- ・水道の配水停止で苦労があった。過去に防災用井戸として登録されている井戸が多くあるが、名前だけで利用できるか検査もしていない。災害の時に利用できるかわからないが、井戸の清掃に補助があればと考える。
- ・宇和島市は合格。
- ・災害後、消防団の活動をしていたが、途中からどこまでが消防団の仕事かわからなくなった。地域住民の為と思い活動したが、精神的に疲れた。
- ・地域によって、地形も違っているので、各地区の防災に対する意見を聞いて対応してもらいたい。
- ・平坦地が少ない当市では、どうしても山地を切り開いた場所に家を求めるようになってるのが現状である。近年、山を所有している人たちが管理を放棄したりして荒れ放題

となっている。これらが土砂災害の起因につながっているのではないかと思う。国・県と連携して、治山事業を行ってほしい。

- ・被害～復旧、被害状況の各自治体への早急な伝達をお願いします。
- ・復興と同時に災害に強いまちづくりをお願いします。
- ・床下浸水でも床の下に泥が入っている。援助金がないため、そのままにしている。息子は入院しているし、市は家庭のことを知ってほしい。
- ・自主防災組織は一応あるし、長も決めてはいるが、自治会、消防団が主になって作業等にあたり、自主防災組織としては何も役に立ってなかった。消防団、自治会と重なる人も多くいて役割がはっきりしなかった。
- ・消防団員は危険個所を巡回し危険が差し迫っているのをいち早く把握していたはずなのに、住民への避難勧告がなかった。水害後は地域に貢献する団員ほとんど何もしない団員の差が大きかった。片付け等、市の対応も本当にお粗末だった。
- ・津波の時などの近く避難塔(場所)が欲しい
- ・市とは関係ありませんが、避難勧告という言葉は軽く、避難命令に変えたら強く危機感を感じる。
- ・河川の土砂が溜まっており、大雨等による増水及び氾濫が想定される。この問題は県の管轄かもしれないが、市と県が協力して防災に努めてほしい。
- ・今回の被害を受けてどれだけ危機感を感じたか、いつも危機感を持つ必要があると思う。
- ・立間川の土手に桜の木があり、根を張って亀裂がたくさんあり、川側でもセメントで強化してほしい。後5～10cmで氾濫していた。川を後1m以上低くしてください。絶対に。
- ・1階には子供たちの写真やデータなど取り戻すことはできない貴重な財産があった。指示等があれば、2階へ少しでも上げることができた。吉田の人間ならポンプ場が浸水しそうな時点で、御殿内などの低地が浸水することは分かっていたはず。「見逃しは許されない！」を忘れずに。
- ・責任者は責任ある仕事をしてほしい。
- ・消防団員の夏季、秋季訓練の廃止。こんなことに意味はない。特に出初め式。この時間を地域活動やその地にちなんだ防災活動等に利用した方がよいと思う。議員さんの点数稼ぎに時間をとられたくない。
- ・場所にもよりますが、避難するのに車もあった方が役立つと思います。特にキャンピングカー等(宿泊できるもの)エコカー減税があるように、キャンピングカー減税をして所有者を増やせば、災害に役立つと思います。
- ・地区の住民との平素からのコミュニケーションが大切であり、最近は特に個人的行動の希薄さが強い。
- ・宇和島市は広い地域の集まりなので、地区ごとで消防の詰め所で待機するとか、自宅待機にするとか、柔軟な対応があればいいと思う。

- ・7月豪雨の時の市の電話対応には、大きな疑問を持っている。例) 高齢者(80歳以上)が床下に水が入ってきたので市に電話すると避難所に行ってくれとのことで、高齢のため動けないと伝えると、2階に上がってくれとのこと、2階がないと伝えると、何の答えも返ってこなかったとのことで、あきれていた。大雨が降るといつも床下、床上に水が来るのは市の方でもわかっていると思うのだが。
- ・須賀川の水位が上がれば石垣が崩れる可能性があり、とても危険を感じています。
- ・宇和島市は大きな災害が無い地域だと先入観があった事を深くお詫び申し上げます。
- ・避難誘導経路等至急必要な事を依頼しても経費の面で大変遅れている。一番必要事項を実行してもらいたい。
- ・吉田町内にもがれき置き場をしてほしい。なんで宇和島の果て、津島の手前まで行かないといけないのか? 吉田町内の人は困っています。
- ・私達の町内では高齢者が多く、津波緊急避難場所(一時)として住吉山公園が指定されていますが、山の上の避難場所まで行けないのではないかと(坂道が急、夜街灯が少ない、草等雑木が多い)
- ・河川増水によるハザードマップはあるのでしょうか?
- ・老人なので生活がやっとです。防災活動のことは考えることはできません。命令があればできる事なら参加したいと思います。
- ・市民アンケートを行うことは素晴らしいことだと思います。この結果をもとに市民代表が集まって議論ができれば良いと思います。
- ・過去に経験したことのない異常災害が発生する可能性ということがわかったので、今後の対応に生かしていきたい。
- ・市役所が被災しては本末転倒だと思います。
- ・吉田町の特に旧町は、中洲で、津波に弱いので、それを認めた対策が望まれる。
- ・防災学習会などで防災意識を高めることが重要。
- ・孤立集落になった時、何度も救援要請をしたが、まともに取り合ってもらえなかった。孤立集落になった時、どうすればいいか対策してほしい。
- ・地域に合った情報が欲しい
- ・もう少し早く池が決壊したことなどを放送するとかサイレンを鳴らすなどの方法があったのではないかと。また御殿内地区はライフラインも少なく病院に行くこともできない人も多かった。水があつという間に流れてきて、逃げることもできず、二階に避難するしかできなかった。水が家の中にどんどん入ってきて、逃げることもできないので、消防団、本庁に連絡も取れず、近所の人達で窓から声かけをしながらいた。
- ・今回の災害では防災意識のないまま、朝起きたら災害現場の中に居た・・・という状況でした。今後反省学習しなければいけないと思いました。
- ・我々の組織の役員は皆よく協力してくれている。特に三役および班長は連絡をとりあっている。
- ・防災グッズを各自治会等への配布を。

- ・避難勧告・指示の他、言葉の意味を理解していない人が多い。「火の用心」のポスターの様式で各言葉の意味を書いたものを毎年各戸に配布し見やすいところに貼るようにしていくとか、言葉の意味が分からないので、どんなに呼びかけても行動できない・しない。
- ・平成30年12月2日(日)に飲料水専用耐震性貯水槽の説明があったのですが、参加者が少なかったです。回覧で大切な水のことなので、一人でも参加してもらいたいと自治会長だけでなく、皆様に集まってほしかったです。去年は回覧で回したそうなのですが、気にも留めませんでした。防災のアピールの仕方をお願いします。

## II 自由記入欄

### 1 アイデア・提案

○復興に向けたまちづくり等について、アイデア・ご提案等があればご記入ください。

(回答数：254 件)

- ・現在、県の職員住宅にいますが、32軒の内、14軒の空室があった。空室がある間は、このまま住ませてもらえることができれば、非常に良いと思う。
- ・復興とともに振興も必要ではないか。
- ・地域の良いところ、温泉や美しい海山などを持つことを広く知ってもらうよう、広報活動に努力してもらいたい。
- ・想定外は対応不可。
- ・すべては予算、予算の配分。
- ・下水道の整備をすること。
- ・吉田村には、大きい山となった土砂が積まれており、今も他所から土砂が運ばれてきている。このような土砂の処理について、市当局へ問う。今の状態では処理が済むのは何十年かかるかわからない。この対処方法として、一番近い吉田湾を、一部埋めたてて早急な処理をお願いしたい。
- ・みんなで助け合う姿勢。
- ・復興にも限界があると思うので、税金を有効に使った復興が望ましい。今後、異常気象が続く恐れもあり、山の急斜面の農地の復興は、改めるべきだと思う。
- ・災害または被災地の、市町村の経験者、担当者等の経験者の意見を参考にするのも、一考かと思う。
- ・感謝を忘れない人々のまちづくり。
- ・ご近所のコミュニケーションが大事だと一番に思っている。それも、長い間のお付き合いがもたらしたものだだろう。子供の頃より住んでいるのでツーカーだ。今回の災害もおかげで助かった。ここに住んで良かったと思う。
- ・公正な街になる。
- ・現在、宇和島市は人口の流出が激しい。また三浦等の島しょ部は、子供たちが急激にいなくなっていて、小学校は統合になる見通しである。なぜこういう事態になるまで放っておいたのか。宇和島市議、市役所の職員の皆さんは何をしてきたのか。今、宇和島は衰退の一途をたどっていると思う。今から宇和島を活性化するには、沢山の産業を誘致して、宇和島を観光地に、またはスポーツや演劇、そして養殖業や真珠養殖業の流通、行政や研究機関の連携強化をし、ありとあらゆることを実践して、将来の宇和島を、愛や希望の持てる南予の大都市にして欲しい。要は多くの収入を増して、支出を減らす商いをしてほしい。
- ・今回、我が家も老人ばかりの3人家族で、裏山のみかん山から大量の土が流れてきて、その中を避難するのに命がけであった。その際、助けを求めることすらできなかった。思い出したくはないが。吉田のみかん山の人たちは、今が収穫期で手が足りなくて、大変困っ

ておられる。このような場合、ボランティアにお手伝いしてもらえるように、市や県でももっともっと協力してくださると良いのだが。一つ一つ解決していかないと前進できないと思う。

- ・よりよいまちづくり、地域づくりを目指すように。
- ・防災ラジオで発信された情報を、メールでも確認できると嬉しい。聞き漏らしもあり、自宅にいても場所によっては全く聞こえないこともある。耳の不自由な方もいらっしゃるのので、目で繰り返し確認できるツールがあると安心。
- ・吉田秋祭りのおねりの置き場所（展示場）。みかんジュースが出る蛇口。きれいな夕日が見ることができると紹介。山道をもっときれいにする。
- ・ボランティアの方々に感謝、感謝である。
- ・交通手段の確保が必要（JRなど）
- ・南海トラフで巨大地震が発生したときに、津波が市役所に襲来するだろう。吉田町にも襲来する。津波に対する備えも意識した復興をすべきだ。恵美須町のフジの近くにある旧ロータリーが冠水すると、消防活動に支障が生じるので、旧ロータリーの冠水を意識した、災害時の緊急車両の道路通過も視野に入れて治水をすべきだ。
- ・義援金などをもとに、宝探し観光のなどといった取り組みで宇和島をアピールする。
- ・都市との交流。
- ・災害直後は、何をしたらいいのか、どう生活していくのが被害者の方の心疲れが少ないのか、そして、日々辛く暗い顔している子供たちが笑顔を取り戻せるのか、とわからないことばかりだったが、徐々に地域のイベント等も復興に向けて再開され、大変ながらも明るい毎日に進んでいっていると思うので、これからも、無理のない程度に日常生活が進んでいくよう願う。
- ・道の整備が大切だと感じた。
- ・今治市大島にある亀老山展望公園のような展望台が欲しい。宇和海を見る場所がほとんどない。宇和海のサンセットクルーズをしたい。出先機関にAEDを置く。
- ・今回の災害による被害はなかったが、水道が出なくて困った。敷地内に古い井戸があるので、復活しようと考えている。飲み水として使えるかどうかは分からないが、その場合、市で負担金は出してもらえるのか。約80,000~100,000円位のモーターの取り替えや部品代として出してもらえると助かる。
- ・高台を意図的に作っていく。統合が予定されている小学校・中学校の横の山を削るなどして建てる。今の避難場所でも逃げても同じ。大勢の人が避難できるような、広い高台を町内にいくつか設ける。被災したときに、必要な知識をまとめて、みんなに知らせておく。ボランティアの電話、証明等の書類で申請しなければいけないこと、受けることのできる支援、補助金など。
- ・復旧、復興の予算。
- ・市が関わって、商店街の有効活用を考える。みかん農家への支援。若者が働けるようにする。

- ・わが区では班別になっているが、半数の家が空き家になっている。早く元の家のように戻すよう、市は積極的に金銭等の援助をして、早く元の家にしてほしい。
- ・今回、河川の氾濫等により水没したので、効果があるのかわからないが、川底を掘り下げるとか、排水路の整備をしてほしい。
- ・防災マップを、特に高齢者にもわかりやすいものを、全家庭に配布して理解してもらう。住民の避難訓練を行い、いざという時に備える。人々が集えるサロンのような場所を作ると、独居の高齢者の引きこもりが少なくなり、外の人と接する機会ができるので、寝たきりの人が減り、いざという時に自宅に取り残される人が減るのでは。コミュニティづくりのため、日ごろから小規模単位での活動や、避難訓練をすることで絆が強まり、災害時に役立つのではないかと。宇和島市のことをよくわかっておらず、すでにいろいろ対策されていると思うので、このような事しか思いつかない。
- ・砂防ダム建設。川底の土砂撤去。護岸整備。国道沿いの排水路の点検など。
- ・災害や復興に力を入れるまちづくりをしてほしい。
- ・床下浸水だったが、家の修理に時間もお金もかかり、仕事も辞めた。こんな時だからこそのご近所だと思えるようになった。川の氾濫だったので、元どおり以上の整備を早くしてもらいたい。
- ・我が家の浸水被害は、豪雨によるものではあるが、現在の川には葎などの雑草が茂っており、川底が汚く浅い状態であった。川底をさらい、雑草を除去し、川を深くしてもらいたい。豪雨が予想される場合、水門管理を徹底すること、ポンプが稼働できることを確認し、対応してもらいたい。
- ・シンボルになるような公園であったり、広場であったり、家族、子供連れ、単身が利用できる人が集う施設や場所を、早期に計画してもらいたい。復旧も大切だが、皆が楽しみに待てる発表を望む。
- ・長期間の断水を経験したが、断水の続く地区の生活用水用タンクが空のままであり、水道の復旧した地区には満水のタンクが並んでいる光景を見たときには絶望を感じた。水道の復旧が近づいた頃、吉田町で開栓式のあった日、近所の仮設トイレも撤去されたが、我が家の水道は数日後の復旧であった。吉田から宇和島の知人宅へ生活用水をもらいに行った時、通行人から「なぜ水が必要なの？」と声をかけられ温度差を感じた。同じ宇和島市内でも正確な情報が伝わってなかったのではないかと思う。今回の災害を通して、様々な問題があると思うので、まずはその反省をしてほしい。
- ・城山にリフトをつけて欲しい。せっかくの城山に人がいない。松山はいる。上にも出店の許可を 2~3 店に出して人を集めたらどうだろう。他県の人にも、いつも寄って欲しい。少しい外れで申し訳ない。
- ・働く場所を作る。
- ・排水が確実な側溝、河川の整備。唯一の国道が通行止めになることが多いから、沿線道路の拡張、整備。公民館やコミュニティが、地下水を利用できるトイレ・シャワー施設を備える。コミュニティバスの定期運行。
- ・コミュニケーションの明確化。地域の住民が、どれだけどこに住んでいるかを知っていな

い。ボランティアの作業を明確化。ボランティアにたくさん来てもらうが、作業内容がはっきりしない。その家に必要な物品がなくなっている現状。

- ・法華津峠から見る景色がとてもきれいだ。もっと観光に力を入れてみてはと思う。
- ・吉田公園に四季の花を咲かせ、いっぱいバラ園とか、色々な花づくりをしている所巡りと、美味しいものをセットにして、全国に発信したらどうだろう。災害のおかげで、吉田町も全国的に知られてもらったと思う。今はチャンスではないか。花と美味しいものがあれば、人は集まるのではと思う。
- ・吉田伊達広場で青空市場等を催して、老若男女が出店したり買いに行ったりすることで、おしゃべりをしたり情報交換をしたりと、集える場所づくりをしてみることから始め、将来的には産業祭のようなものではなく、一般市民による展示販売のマルシェなどが、自由にできるように広場を開放し活用することで、街の活性化につながると思う。それには、グループであれば、リーダー1名とグループ名を提示し、気軽に使用できるようにして、活気あふれる場所として、常に催し物や若者や興味が集いられるようになると思う。(例) 1.グループ名、2.代表者名、住所、電話番号、3.使用内容。注意書きとして、使用にあたり準備から後片付けまで責任を持って行ってください。なお、公の場を汚したり壊したりした場合、次回からの利用はお断りいたします、など。
- ・今回の災害は雨水によるものだが、水量が多すぎて、土砂崩れや浸水による被害が出ている。素人考えだが、例えば、川底を整備して深くすることとか、幅を広げることとか、または別に水路を作るとかできないか。
- ・川を直してほしい。
- ・川やため池の改修を早くしてほしい。
- ・廃校利用したヘリポートの建設。物資を輸送する際に僻地は利便性が悪い。できればオスプレイのような大型の運搬能力がある航空機が、各都道府県にあればいいと思う。世間の反対の声は同機体にあるのは承知の上だが、垂直離陸可能な大型の機械として、山間部や海に囲まれた日本にとっては、実に理にかなっていると思う。
- ・今回の件を決して無駄にすることなく頑張っていきたいと思う。
- ・災害に強いまちづくりや人づくり。個性の強いまちづくり。宇和島市、吉田町、津島町、三間町という顔。
- ・町民の絆が大切だ。
- ・吉田町の吉田病院裏、斎場の川の土砂が溜まっており、早急に削除していただきたい。大雨が降ると、災害発生リスクが高いのでお願いしたい。
- ・山からの水路の整備を先に進める。土砂で水路が埋まり機能しなかった。河川の整備、土砂撤去。
- ・被災された方への助成金の拡大。時間が経つにつれ、復興作業が遅れているので、最低限の生活環境が整っただけで、安心して見受けられる。災害直後と同じ位の意識で市に取り組んで欲しい。
- ・一次産業の復興を第一に、市民一丸となって、宇和島の一次産品を世界発信する、グローバル戦略をする。

- ・宇和島商店街を中心としたまちづくり。
- ・自治会長や消防団等の方達は昼夜なく防災活動にあたられ、避難先でも力強い声掛け、優しい対応に、高齢者の私たちは本当に安心して避難できた。復興に向けては、皆さん本当に前向きでがんばっている。ボランティアの方々にも随分助けていただいた。そんな事を思っている今だが、やはり地域がしっかりと手を結んでいくことが大切だなと考えている。小さい地区のつながりを密にして、普段から会話の飛び交う間柄になるような楽しい集いを増やして、地区民が一体になれるようなことを考えていきたい。
- ・早く高速道路をつなげて欲しい。一本の道路だと災害で通れなくなれば、生活ができないし応援もできない。
- ・国民の皆が心を合わせて、日々の生活を送れるシステムを構築していくことができれば、日本中がもちろん、南予地域も素晴らしいと評されるような場所になれると思う。それぞれの地域で考えても、どこかにしわ寄せが来て結局無駄になる。
- ・防災グッズの配布があればいいと思う。
- ・全国からボランティアの方たちがたくさん来られ、大変頭の下がる思いをした。自衛隊の人たちも優しい言葉をかけていただき、大変嬉しく思った。このような方々にも何か、良いことがあったのか気になるところだ。
- ・道路の復旧はまだまだのようで、狭くなった道の土嚢の横を通るのや、片側交互にも慣れてきたが、復旧するまではスクールバスの継続をお願いしたい。
- ・若い方が安心して働ける場所、仕事などがあるといいと思う。
- ・公園や野球場および周辺の環境は、被災時の状況がそのまま残っているところもあり、土砂が山のように積まれたままになっている。人が集まってくるような環境ではなく、荒れ果てている。公共施設等は早期に整備してもらいたい。災害の教訓を活かして、同地区の住民が同じ被害に遭わないよう安心できる対策をとってもらいたい。他地区へ転居する人が増えている。同じ宇和島市でも、被災地区とそうでない地区では、人の感情などの温度差が大きい。安心して住み続けられるまちづくりをお願いしたい。
- ・補助金を最大限利用する。
- ・自助がすべて。
- ・復興とは関係ないかもしれないが意見したい。現在和霊校区に居住している。丸山公園という素晴らしい公園があるが、もっと清掃をして、夜でも明るくして、市民が散歩など運動できるよう改善したらいいと思う。丸山からは、宇和島城とか宇和島湾が一望できて、とても良いと思う。愛媛女子短期大学も来年にはなくなりそうとのことで、いっそう危険な場所になりそうだ。丸山は災害が起きたときの避難場所でもあるので懸念している。
- ・未来のおじいちゃんやおばあちゃんの生きがいや、若い人たちや子供を支えてもらえる何かを考えて欲しい。退職された方、これからそうなる元気な高齢者が、地域に貢献してもらえるような環境づくりをしてほしい。小学生の朝給食作りなど、高齢者の方は病気をもってない人はいないが、時々、医療や介護、転職を繰り返してしまうと思うが、少ない子供や若い人たちに頼るより、自立している高齢者を増やし、自立できない高齢者を作らない地域づくりをお願いしたい。この年齢層にアンケートなどを取ってみるのはどうか。生

きがいや、どのくらいの仕事時間なら良いか、したいことなど。宇和島には元気な高齢者がたくさんいると思う。その方々が生き生きと生活している、未来が見えてくると思う。このようなアンケートをとって、一つでも取り入れてもらえると助かる。被災にあった方々への生きがいにもつながるかと思う。生きがいがないから復興も進まないのでは、と考える。したいけれどできないこと、できない方もたくさんいると思う。そこを地域でサポートしてその人らしく生きる、生きがい、意欲を見つけられる、住民の自立を1人でも多くしていくことが、復興に向けたまちづくりになると思う。私たちが高齢者になっても、生きがいを生かせる場所があれば、未来は明るいと思う。ACP（アドバイス・ケア・プランニング）、若い人も若いうちから自分らしく生きる。生きがい、自立、求められるポジティブなゴールをもっていくことが必要だと思う。宇和島はいいところだ。もったいないと思う。私も頑張ろうと思う。ありがとうと言われるのが多い方より、ありがとうと言う方が多くなる支援を志してほしい。

- ・人が集まらなければ町は廃れる。「子は宝」であるように、若い人たちが増えなければ元気はない。水産大学とか専門学校など学生を増やす方法を考えたらどうか。
- ・災害にあった者をみな平等にして欲しかった。もっと真面目に市民のことを考えて欲しかった。
- ・自分は昭和18年生まれの75才だ。その昭和18年の夏、地区で大変な水害があったという。またその3年後に南海地震が発生した。大変なことだが、早い復旧をお願いしたい。
- ・今回の被災地を見ると、どの地区も、道路よりも住居や店舗の土地の低さを痛感した。道路が川の氾濫になっても、それに対応できるような、住宅の土地を嵩上げする必要があると思う。
- ・みかん山など災害を受けたところへの援助、また収穫などへの協力、住宅や商店など被災を受けた方への援助など。そのための資金を集めるためのアイデアがあるのではないかと考える。また、将来を担う子供たちが、たくさんできて育てやすい地域であればと思う。
- ・復興と言うより再生のために。人に来てもらえる街にするためにもっと早く咲く品種の桜、伊達家の家紋である竹、蛍の生息地になるような小さい川の水、海、高くない山など、自然を観光の売りにしていきたい。山をよくしないと海が死ぬ。宇和島は老人の多い街だ。80歳位まで仕事があるといいと思う。70歳でも50歳の人より元気な場合もある。1日3時間程度でも仕事をすると、元気な老人でいられると思う。
- ・私は吉田在住だが、宇和島市には名城の宇和島城がある。仕事柄タクシーでお客様を送るが、年配者の方は歩行が難しい方もいる。道路拡張は無理なようだが、以前見たテレビで、松山の業者が人を乗せるモノラックをやっていた。そういうものを取り付けて、いろんな人に宇和島城に来てもらって、観光に力を入れて、人を集めて、復興に向けてがんばってほしい。
- ・自然災害に対する安全性の確保、河川、道路、砂防など。
- ・吉田地区のメイン通りを、コンクリートにしないと乳母車などを引いている老人には不向きな街。夜6時ごろには商店街に活気がなく寂れた街。

- ・復興には長時間の時間がかかる。ボランティア募集も、長期になると徐々に少なくなる。ボランティアに参加したい方への、何かメリットがあるような方策を期待する。参加した人へ、時間や日数に対してのポイント付与。ポイント付与に対しての経費として、災害義援金の一部還元。過去、想定内のハード面、ソフト面での災害対策だったのではないか。今回の災害を教訓に想定外の企画、立案も必要だと思う。
- ・ダム放流について。100%たまってから放流するのではなく、数時間後には満タンになる事は分かっているのに、100%になるまで放流できないと聞いている。海が満潮なのに放流し、既に流れている量とか考えず放流されると、朝日町など低い土地にある町は、水が溢れることが何回もある。これからは考えつかないような雨量を想定して、100%になったら放流するというバカでもできることをしないで、賢い選択であったと思われるような放流を希望する。
- ・少子高齢化の時代になっている。今後、若い人たちが働ける場所の確保に努める。吉田町内の保育園の統一化、小学校の統一化。不要になった施設を取り壊し、市営住宅の建設。若い夫婦への税金の免除。幼児の遊具の遊び場の拡充確保。
- ・昨今の自然災害は予想を超えたもので、いつ起きてもおかしくない状態だ。防災のために、ハード面ばかりを整備するのは、財政面からも厳しいと感じる。できるものを、減災のためにおこなっていくことがいいと思う。未来の宝である子供たちの命を守るための施策を、何より優先した順位として、まず取り組んでもらいたい。これまでの常識ではなく、新たな知見によって、時代に応じたまちづくりをお願いしたい。
- ・耕作を諦める土地が発生している。高齢化に加えた災害は厳しいが、「ピンチをチャンスにする」という思いの人もいると思う。行政等のきめ細やかな相談活動を、推進していただきたい。屋外放送設備による放送の内容が届くよう、今一度点検していただきたい。聞き取りにくいエリアを解消してもらいたい。
- ・宇和島旧市街の方が、被災している方が少ない。宇和島全体で考えていくことも大事だが、吉田町の復興に重きを置いたまちづくりを、お願いしたい。それから、復興も大事だが、災害発生時からの対策もしっかりまとめていただきたい。避難所に1ヶ月いたが、避難所間でも格差があった。炊き出しが行き届かない、支援物資も少ないなどがあった。運営においても、あまりにも被災者頼みが多かったと思う。一部の市職員の方の負担もひどかったと思う。そういったことから、災害発生時の避難所の運営や、福祉避難所の設置など、しっかりしたマニュアルを作成していただきたいと思う。
- ・SNSでしか被害地域の情報が入ってこない。宇和島ケーブルテレビや、民放各社で復旧の様子を映してほしい。
- ・税金や健康保険税を安くして、市民に公平に行政サービスをするのが一番。その上で、イベントで交付金を使うもよし、支援するもよし、税金を使うのが上手な人たちばかりに偏らず、税金を払えない人に助ける目を向けて欲しい。自営業者の苦しみを考えて欲しい。みかん農家ばかり、真珠養殖、漁師、商売人はみな苦勞している。貧困によって、子供の可能性を断つことを避けて欲しい。国民年金等で食べていける宇和島市であって欲しい。公共交通の大切さ、土日の運行の便を増やす。生活しやすい街づくりを願う。

- ・グループ補助金のことで頭がいっぱいで、アイデアも何もない。考えることができない。
- ・大都市圏からはどこよりも遠いこの地域に、なんの魅力があるのか。インフラ整備は悪く、観光資源も乏しい。数少ない良いところを生かして、何か特化したものを、行政の方には作っていただきたい。真珠やじゃこ天では、人も企業も来ないと思う。全国の学校給食にみかんを寄贈してみてもどうか。宇和島の良さがアピールでき、宇和島のみかんのイメージアップ消費につながるのではないかと。今回の災害で多くの方々に助けられて、そんな方法で恩返しもありなのではと思う。
- ・70代ではあるが、ボランティア作業に参加できると思う。一般的に重労働であると思込み、おのずから志願していない。作業によっては、軽トラックの運転、ネコ車押し、配達選別等の軽作業ならば、一人前にできると思う。多数の人手が必要な時は、自治会を通じて全市民に声かけ、募集すれば参加者は十分あると思う。また被災しなかった住民間の団結もより深まる効果もあると思う。
- ・道路事情の改善が必要だと思う。
- ・長谷山系は保安林の指定を受け、砂防工事も始まり、災害に幾分強くなった。面谷山系の山も、昨年、保安林の指定を受けようとしたら、地方局で「指定は受けられても予算がない」とのことで、しばらく様子を見るように言われた。今回の災害で、2箇所大きく崩落したところが見られる。代々の地区は、治山事業がしっかりすれば、豪雨には強くなる。木材の自由化より、間伐されていない山林にも多く、保安林など治山事業の充実を望む。
- ・これからの災害に対して、親子で児童交流センターなどにて遊びながら、災害時に役立つ知識や、実用的なことを学べる講座を、毎月実施してみてもどうか。遊びながら何かを作り、体を動かすことや、実用的なロープの結び方や、ほうきや雑巾の使い方、重たいものを動かすときの便利なものなどを学べると良い。高齢者には面倒臭がらずに、挨拶をきちんとしていくことが大事だと思う。
- ・河川の近くに住んでいるので、川の水が気になる。今回の災害でも、あと1時間でも長く降っていたら、家も沈没していただろう。川には何十年もの木や土砂が溜まり、川の流れを塞いでいる。これを改善して水の流れを良くしないといけない。いつまた豪雨になるか、その時が心配なので、よろしくお願ひしたい。それと、山が崩落し、水の通りを塞いだために、家が浸水した。木が折れたため、少し木を切っているのだが、砂防ダムをどうにかしなくてはいけない。次に来る大雨の災害を心配している。この2点をよろしくお願ひしたい。
- ・現在、宇和島市は元気がない。地域企業の活性化を求む。
- ・避難場所と、孤立しないために、避難場所をつなぐ連絡道の整備確保が必要。
- ・河川の改修。心配のない水道水の確保。
- ・地震や水害など、様々な災害に強い場所に、吉田町内5つの小学校と中学校を1つの学校として建設し、もしものときには子供たちも守り、町民も避難できるようにしたらいいと思う。
- ・災害公営住宅の整備。道の駅の防災機能の強化。学校施設を避難所として利用できるための整備。エアコン設備の整備など。これらが必要だと思う。

- ・山林の管理、特に住宅、耕地の近辺の除伐。今回の豪雨による水害について、河川の復旧を再検討してほしい。山林の管理を計画的に進めて欲しい。特に土砂災害特別指定区域の防災工事を早急に実施していただきたい。
- ・旧市街、特に城山より東南、神田川勸進橋周辺より上流は、川より宅地が高いので危険を感じた事はない。したがって、87年住んでいるが、過去の台風、大雨など被害を被ったことがないので、アイデアが浮かばない。誠に申し訳ない。
- ・三間の高速道路から吉田への大きな道路を作って欲しい。大阪や東京から、息子や孫が片付けに駆けつけてくれたが、道路が通れなかったので時間がかかった。暑い中、1日中片付けをし、夕方に宇和島へ食事を取りに行き、お風呂や洗濯などをしに行くのに2時間ほどかかった。知永峠から動けなかった。昼間の疲れから、うとうとして事故になりそうだった。三間から吉田の中心地に、一本の大きな道路をお願いしたい。
- ・停電のため、テレビが使えない中、家の周りは浸水で外にも出ることができず、防災ラジオに情報を求めたが、防災ラジオからは道の情報も町の被害情報も入って来ず、防災ラジオの役割を疑問視した。
- ・吉田町立間の公民館が、これまで2度ほど水につかっているが、そのままリフォームして使うのはどうかと思う。小学校も同じく使っているので、一度、立間の人に聞いてみたらどうだろう。同じく小学校の裏にある、もともと飲み水としてあったタンクも、全く使えなかったのは、水に浸かったからだと聞いた。置き場所も、立間の人意見を聞かず、小学校と市が話して置いたと聞いていたので、その辺もどうかと思う。
- ・住民主導による空き家の整備と再生。丘陵山林の整備と再生。この2つを通して住居の提供と思い切った生活保障を提案する。例えば、ベーシックインカムによる一次産業労働者の確保。福島を中心とした全国の被災者を呼び寄せる。若年低所得者層に呼びかける。都市の退職者の移住を積極的に誘致する。これを通じて人口減の歯止めを図る。
- ・防災放送は雨の音で聞こえづらく、あまり役に立っていなかった。自宅周辺の被害状況等は、TwitterなどのSNSに上げている一般の人の投稿の方が、早くて、写真付きで、参考になった。市役所等でも緊急時にSNSを活用して、スピーディーな情報提供ができるようになって欲しい。
- ・まず四国全体の自動車専用道路で充分だとは思いますが、できたら高速道路か鉄道を円の状態につなげて、四国のどこから入っても、ぐるりと四国を回れるようにしないと発展するわけがない。各地にテコ入れするより、とにかく片方でもいいからループ状にして、手軽に簡易に、ぐるりとまわれないとダメ。その上で、特に宇和島などは山も海も豊富なことから、滞在型のゆるい観光体験、自然体験を主流にするのがいいと思う。お金のかかるリゾート地にするよりも、キャンプなどのように自炊がよいから、ある程度快適な生活ができる場所を作る、どの程度かは難しいと思うか試してみるのがいいと思う。
- ・健康体操などをしてもらいたい。体が硬くなっているため、椅子で行う体操も。地元の野草を使った料理を作って食べたい。我々老人さんたちも楽しみにしている。カラオケで、昔の歌や思い出の歌など、好きな曲を歌ったりすることもいいと思う。
- ・復興のまちづくりを行う際、老人に優しい街づくりを行うことが大事だと思う。今回の災

害時も、吉田の中心部から離れているところに住んでいる老人は、交通手段がなく、救援物資や水さえももらいに行くことができず、独立して我慢していたと聞く。宇和島は、これから若者が増え、若い街になる事はないと思う。老後に不安を感じないような、全国に先駆けての老人のための街を作してほしいと思う。

- ・河川に鉄板をしているところがあるので厳しく取り締まりをしてほしい。用水路の上に車を止めないで欲しい。
- ・支所と本庁との連携を密にしてもらいたい。支所の人員不足を補うのは意識の統一と共通理解が必要。
- ・吉田町の商店街は高齢化等も加え、今回の災害により閉店するところが増加し、シャッターが閉まった暗い通りになっている。色があせ、街を暗くするイメージのシャッターに、地元の中高生に明るい絵を描いてもらい、街全体に明るい活気を取り戻してみてもどうか。閉店している店主も喜んで提供してくれるだろう。絵の具などの経費は公費で。
- ・まず人材を輩出していくこと。それが第一だ。
- ・災害が発生するたびに、あれをやっとけばよかった、これをしておけばよかったということが言われる。やはり地区の住民が、より良いコミュニケーションを取り合うということが大事ではないかと思う。地域が顔なじみとなって過ごしていくことが大切と思う。少しずつになると思うが、復興を着実に前進して欲しい。
- ・山林整備、河川整備など担当行政の積極的な判断。個人所有、市町村、県の縦割りではなく、復興のために必要なことを判断し、ダイナミックに資材を投入し、安全な場所を確保できる場所を作る。住宅地や作業場所を分離する。復興という言葉で被災以前の生活に戻すのではなく、それ以上の安全安心を得るための設計を提案する。例えば、各地区により問題点が異なり、それに対し積極的な地区から重点的に対応する、あるいは支援するなど、行政任せではなく、自主自立の判断も含める。
- ・市のホームページに、災害時に現場の写真や動画をアップしてもらい、誰でも見ることであれば、それが情報として生きてくると思う。
- ・先は長いとは思いますが、復興に向けてよろしく願いしたい。今回のような事は、私自身、全国の友達に、「愛媛の西南暖地ほど災害に遭わないところはないぞ」と言っていたものだが、今回このような大災害に遭うとは。今までの考え方が甘かった自分が恥ずかしく思った。近年、気象状況が変わってきており、いつどこに大災害が起こっても不思議ではない状況だと思う。行政に委ねる事なく、頑張っていかなければならないが、一個人では何の力もない。やはり頼りになるのは、最後は国、県、自治体に委ねることになる。そのうえで個人も頑張りたいと思う。どうか一日も早い復旧に、力を注いでいただきたいと願っている。
- ・今回の災害は、吉田地区を主とするミカン農地に集中しており、復興に向けた対象は、同地区を指すものと理解している。同ミカン産地の立場は極めて厳しい中であって、我慢してきた。しかし、人口減少が進む中にあたっては、次世代を支える者にとって、魅力的な農業環境を整備することが必要。災害を契機に、合理的な営農ができるような農地の改造を推進すべきである。やる気のある若い世代のみを支援すべし。そして行政が指導力を発

揮すべし。

- ・奥地にも目を向けて素早い対応をしてほしい。
- ・災害発生時、転出手続きをすることなく、遠地へ避難することになった者への、復旧手続きを容易に提供できるツールや、仕組みの構築を考えてほしい。今回は地元や宇和島に留まっていなくて何も情報が得られなかった。高齢者は、スマートフォン等から宇和島市のホームページにアクセスすることなど不可能。宇和島市役所、行政側が各家庭の避難先を把握しているのが理想だが。各家庭単位の復興手続きの、完了か未了の調査。松山以南の高速無料化。多くの友人が、遠方から何回も高速を使って、復興ボランティアとして来てくれた。申し訳ないのでガソリン代はお渡ししていたが、高速料金を松山以南で良いので無料化していただくと非常に助かる。
- ・私の地区では屋外放送が聞き取れない。何を言っているのか全くわからないので、無意味な放送になっている。改善を求める。
- ・国道 56 号側の河川の拡幅と堤防の嵩上げ。
- ・「がんばってます！南予」の看板が町の中にたくさんあって、とても元気が出たし、いいと思った。これに便乗して、もっと宇和島のアピールをすべきだと思う。特産品を作って売り出せるのは、一部の人だけ。個人の農家が集まって何かをすとか、活躍できる場があったら、農家の人もやる気が出るし、少しでも若い人に興味を持ってもらえるのではないかな。
- ・今回の災害はとても大変で思いもよらないような出来事だった。私たちが行政に対して問い合わせをしても、一貫した答えが帰らず、戸惑うことが多かった。市のほうも大変だと思うが、不確かなことを伝えていただくと私たちが困ってしまう。次に聞いたときには違う答えが返ってくる。どういう事だろうか。一生懸命して下さるのはよくわかっている。感謝している。
- ・生活排水路の復旧を、といっても未だ手付かず。県、市役所、議会議員は話を聞いただけで手付かずだ。排水路を何とかしてくれなければ、さまざまな地域の生活ができなくなりますよ。
- ・災害のとき、川が蛇行し、小さな川などの水流、水圧調整が重要と感じた。小川がたくさん氾濫していた。下水道のスムーズな排水ポンプの完備。
- ・非利害関係者による科学的な知見、そのためのできるだけの詳細なデータや証言を、PTSD などには配慮しながら、忘れてしまう前に集めなければならない。その後、市としての方針、優先順位を公表し、論理的に感情的に住民を納得させてほしい。今は、被災直後より、わかりにくい。
- ・市が助成し、地域にあった店を開店させる。個人的には無理がある。次に起こる南海トラフなどを考えて、伊達広場の半分を使って避難ビルを建てる。
- ・災害にあった農地に、ブランド化できる作物を植えさせる。できれば短期収穫ができるものがいい。
- ・人口減少の時代には魅力ある街を作っていくないと、街自体が消滅してしまう。大都市に対抗して、箱物をいくら作っても勝ち目はない。都会の人が、なぜ地方に来るのか。それ

は、都会には絶対がない、美しい自然があるから来るのである。安くて美味しい海の幸があるから来るのである。その自然を大切にしているかといえば、否である。まず、この宇和島にあった遠浅のきれいな砂丘の海岸が、今ではどこにあるのか。ほぼ全滅である。産業を優先させてきたために、安心して子供が遊べる海岸はもうない。自転車の練習をする場所で、サッカーボールを蹴って、心から満足してスポーツする場所がなくなった。皆、自宅から遠く離れた場所に行って、遊ぶことが多い。親が子供を車で連れて行って、遊ばせなければならない。子供にやさしい、子育てしやすい街づくりをしないと人が住まないのは、自明の理だと思う。子供を持つ家族に定住してもらわないと、人口が増えない。市の玄関口として、きさいや広場が賑わっている。他府県のナンバーもよく見かける。山海の幸を買われている。しかし、建物は海に背を向けている。賢い人なら海に向けて、海を眺めながらドリンクでも飲める場所を作るであろう。防災のために堤防を作ったりすることは、行政に任せたい。だが、正しい自然とのバランスを考えた方法でしないと、街の魅力もなくなるし、自然からしっぺ返しをされるかもしれない。人も来ない。人口が増えていけば、その街のまちづくりは成功しているとはっきり言える。復興に向けたまちづくりとは、そうだと思う。

- ・雨水排水ポンプ場の作動不能で災害に遭った。ポンプ場の鍵を持っている人の点検作業が遅かったとか、ポンプ場ができてから、管理が悪いのか、前にも床下浸水があった。満潮、高潮になると我が家から離れることができない。雨が降ると、また被害にならないかと心配だ。
- ・災害を経験したことにより、以前に増して、地域のつながりの大切さが理解されているのではないかと。吉田で取り組んでいる「支えあいのまちづくり」を、全市区域に広げたい。
- ・避難場所で受付をしなくてはならないのか。避難場所で指示に従うことはわかるが、受付があるのかなのか、そういうこと、知らせていただければありがたかった。受付しなければ援助がないのか。今回は避難場所で安心して居住させていただいた。感謝している。
- ・今回起きた災害を教訓に、災害に備えることの大切さが実感できた。今後起こりうる大地震に生かしてほしい。今回の災害の資料館を、市庁舎の1室に設けることを提案する。
- ・道路を直すたびに道が上がり、家が低くなったため災害の程度が高くなった。家屋等の影響を考慮した補修をしてほしい。活気ある街づくり。イベントや企業誘致などをしてほしい。川床が浅いのも直してほしい。
- ・崩れたところ、山があり、人の手が入っていない山とか、きれいにしてもらいたい。また台風のシーズンになったら、命の危険があるので対処してほしい。
- ・小中学校を高台移転。煙硝蔵裏山を高さ20メートルほど切り取って、学校と避難施設を設ける。太陽光発電、風力発電など、いざというときに賄える、電力と水を備える。今後、今回のような水害や、南海地震が襲うことが予測される中、安心安全の場を確保することが大切。
- ・ミニ映画館など、商店街の空き店舗の有効活用。人が集まる、集まれる場所。アーケードでのイベント。駐車場の無料化。
- ・城山で放送されている声が場所によっては全く聞こえない。何の役にも立っていない。

- ・テレビなどで災害の様子を見ながらも、実際に自分に何ができるのかわからなかった。被災地の人たちが何を必要としているか、もっと情報があれば協力したかった。若い人たちはスマホで連絡を取り合って、必要物資など発信していたが、高齢者世帯など、情報収集の手段のない人たちは、不便だったのではないかと思った。物資など、どこに持ち込めばいいのかわからなかった。集めた物資を運ぶ道路が通行止めだったので、船をもっと活用すれば良かったと思う。災害がこれまであまりなかったため、対応が遅い気がした。ダムの放流など、もっと切迫した状況を、詳しく具体的に放送しておけば、逃げ遅れる人もいなかったのではないか。自分もそうだが、いつものことだからと思っていたのではないかと思った。今回の災害は、被災地だけでなく、他の産業や地域にも被害がある。復旧のために、被災地に人手も予算も工事も集中してしまい、他の地域の人も、不便な生活面もあった。やはり、地方は、災害の復旧も後回しのような気がした。広島など大都市は、道路も早く直してもらっていた。その後の度重なる災害で、すぐ忘れられたような気もする。地方はやはり、後回しにされる、取り残された感じがした。
- ・災害当日の動きについて、トリアージができる医療関係者。ディテールのみでなくグローバルな視点から、優先順位を判断できる人が少ない。備蓄食料についてだが、拠点備蓄は常に使えるとは限らない。拠点到集めておくのではなく、3箇所ぐらいに分散して備蓄しておく。通信手段についてだが、携帯も基地局がダウンすると使えない。陸上ルートでは、瓦礫は踏み越えることができるが、人間を踏み越えることができない。海上ルートについては、接岸できなければ使えない。空中ルートについては、災害時に確保できるヘリポートが見当たらない、校庭や空き地は避難住民でいっぱい使えない。緊急性が考えると、上空からの医療物資、支援物資があれば、3日程はしのげることができる。韓国のように緊急時、高速道路が滑走路になればよいのだが。災害後の動きについては、豪雨災害後、市場の関係者と話していたら、吉田のミカンがなくなるのではないかと言っていた。段々畑での作業は高齢者にとっては大変で、お金もない、昔のように芋畑にしようか、みかん畑にしようかと、考える力もない。所有者から自治体が土地を借りて、体力自慢の若者や若い女性に、担い手を任せれば良いのではないか、ロックやレゲエで育ったミカンも美味しいと思う。
- ・私たちが住んでいるところに未来はない。山が家の後ろにあるからだ。今にも崩れそうになっている。雨のたびビクビクしている。山のないところに空き家があればと探しているが、資金がない。空き家をリフォームして、若い方々に安く提供したらどうか。子供たちも宇和島を離れようかと言っている。
- ・災害歴史の実態把握。大雨時代の予防策、対処方法など学ぶ。川、トンネル、スーパー堤防など。
- ・若い人たちは仕事を求めて都会へ出てしまう。みんながUターンしてくれるような、働く場所があればと思う。道の駅で買った食材を焼いて食べられる、バーベキューのようなどころや、テントを張れるところを作れば、若い人たちが立ち寄ってくれるのではないか。宇和島の桜祭りや、お城まつり、牛鬼祭りなど祭りで元気になる人も多いと思う。
- ・地域の避難所をさらに確保し増設してほしい。特に市街地では、和霊地区で8,000人余

りの住民がいるが、もし半数でも避難をすれば、今の避難所ではどう考えても収容できる数もなく、和霊小学校などに 2,000 人を超える避難者を収容できるとは考えられない。特に一時避難所ではなく、避難者が食料等を得られる指定避難所を増設すべきである。高齢化が進んでいる我が国では、より避難しやすい避難所は自治会と協力し、緊急に増設すべきである。

- ・豪雨災害の後、観光など情報をいろいろなところへ宇和島を発信していると思うが、宇和島の市内中心部にばかりにスポットが当たっているような気がしている。もっと直接、吉田町へ人やお金が来るように宣伝してもらいたい。
- ・集まる場の創出。我々は個人の集まりでワークショップを重ねている。こういった活動を各地で広めていきたいと考えている。やりたい人が、やりたいことをすればいい。それが大切だと思う。
- ・日々、急に際して常に心がけること。寝るときに、すぐ逃げられるように避難グッズを用意して寝ている。
- ・残された時間を有意義に穏やかに過ごしたい。食べる事の確保がしやすい街。
- ・定期的に川や溝などの掃除を行うことが、必要だと感じた。ゴミがいかにか川の方向をよく変えるか確認できた。消防団、自治会長がよく頑張っていたので、ますます強化できるように整えてほしい。
- ・防災訓練、勉強会をして、安全な高いところに逃げる。それを徹底的に指導する。
- ・複雑な手続きを簡単にしてほしい。申請の書類が多すぎる。スピードを速くして、役所ができる事は被災者に代わって手続きを行う。
- ・復興に向かって町民が頑張っている様子を、できるだけ多くのメディアに度々取り上げていただけるようにする。ピンチをチャンスに変える工夫をする。祭り、イベント事を多くし、他からも人が来てもらえるような、まちづくりを目指す。
- ・夏にできなかったお祭りなど、人が集まるイベントをもっとやったらいいと思う。吉田町民以外の人でも来やすいようにして、楽しんでもらいながら現場を知ってもらい、復興に向けた支援を受け付けるようにすればいいんじゃないかと思う。
- ・商店街に魅力がないのか人通りが少ないのが、赤い羽根共同募金、歳末募金で街頭に立つとよくわかる。商店街と復興対策等について協議はしているのか。市バスの商店街への乗り入れはどうだろう。空き店舗の活用を考えて欲しい。道の駅も良いが商店街も重視してほしい。宇和島発のフェリー復活、南九州、宮崎方面、鹿児島方面も視野に入れる。JRの周回化をお願いしたい。人口流出に歯止め策を。企業誘致、若い人の流出を食い止める。
- ・地元産業を前面に押し出した宣伝や、観光客に来てもらうためのイベントの企画、地元の有名な食材、食品、物産を主としたものを、県外での宣伝イベント等、宇和島への来客を増やすための企画などを、頻繁にしていくべきだと思う。真珠、養殖まだいやハマチなど、有名なものがたくさんあるのだから、もっと売り出すための策を考えるべき。
- ・復興で公共事業が増えている中で、防災の面でも考えながら事業を行ってもらえればいいと思う。安全な街に人が集まってくるものだと思う。
- ・みかん産地の復興のために農地の基盤整備。次世代に向かって、面的整備が必要。河川の

改修整備。

- ・若者が遊べる場所がなさすぎるため、どんどん少なくなっている。家賃が高すぎるので暮らしにくい。まちづくりの前に、市民の生活水準をもっと考えて欲しい。小売店に電子マネーを使える機会を普及させて、スーパーだけじゃなく小売店にもお金をもっと使ってもらえるようにする。
- ・天災に負けない強い環境を作って欲しい。川を広げる、木を植えるなどして。そして宇和島が年々、寂れていているように思う。若い人たちが働ける場所を確保しなければ、今後の宇和島は厳しいのではないかと思う。
- ・今後、宇和島市が良くなるためには、漁業者の担い手、後継者の確保。育成をお願いしたい。
- ・ボランティアは市全体で行うこと。公民館単位で日付、順番を決める。募集、自主参加など、市全体で公助、共助、自助を行うこと。
- ・個々の生活は元に戻ったが、やはり農業の受けたダメージが大きいと思うし、それが元に戻るには時間がまだまだかかると思う。災害後、北海道でも地震があり、そちらも大変だろうと思うが、吉田町の災害も忘れられがちになってしまうのが少し不安に思う。まだ支援が必要だと思うし、今までの支援も、御礼もしていきたいと個人的には考えている。音楽フェスティバルみたいなイベントで、地元にお金を落としてもらいつつ、ありがたいの想いを伝えられるとハッピーだなあとぼんやり思うが、行動力がない。なので、誰か計画してくれたらなと他力本願だから思っている。もらうばかりではなくお返しをしたい。
- ・市外の人に来てもらえるような街にして、お金を落としてもらおう。宇和島市のPRをする。被害者からは電気、水道料金等を何年か無料にしてはどうか。
- ・歴史、文化、昔からの伝統のあるものを大切にしてほしい。観光などもっともっと力を入れて欲しい。
- ・川床の整備。土砂で浅くなっている。草が生えて川の流れが邪魔されている。
- ・現在復興に向けた活動をどのように行っているのかが、知ることができていない。たまたまに帰る実家でなんらかの形で、このような活動していたのだと気づく位だ。市のホームページを調べれば出てくるのかもしれないが、もっとSNSを活用されてはどうかかなと思う。
- ・なんといっても道路を整備することが大切だと思う。道がなければまちづくりは何もできない。
- ・市民への防災教育も大切だと思うが、今回の災害で感じた事は、役所の方々の対応能力が全体的に低い。一人ひとりの意識の違いはあると思うが、全体として対応力をアップしてほしいと思う。それぞれの課が、連携して対応できるのでは、と思うこともあった。役所の指示待ち仕事より個々で調べてしないといけないと言うことを、普段から職員への教育をどんどん進めてみてほしいと思った。意識の共感というか、そうすれば、いざと言うときの対応がもう少し良くなるのではと思った。市民のために働くのが行政の人だと思うが、個人差はあるが低く感じて、これではどんどん廃れていく街になる気がする。他県の災害経験のある行政人のヘルプもたくさん来ていただいて、学習できたことをもっと役所全体に伝え、協力してレベルアップを期待する。

- ・店舗の道具、全部水没で何も使えない。でも借家のため、何の手助けもなく、借家なのに大家さんは何もしてくれない。反対に、水や泥すべてを除けて美しくしてくれと言われ、ボランティアを申し込みしたが、誰一人来てくれず、近所の若い方々が、3ヶ月後に来てくれたのだけれども、辛かった。持ち家ではない人の手の冷たさを思い知らされた。借金の支払いは歳を考えればできない。一文の助けも頂けなかった。
- ・生活基盤の確立、産業経営の長期立案が重要。市の将来像として、繁栄継続のため、総合的に重点となる柱を定め、集中努力が必要。
- ・私にはテーマが大きすぎて、全く思いつかない。
- ・川の氾濫、防止対策の立案実施。各家庭、または数軒単位で発電機械を備える。災害時、コインランドリーの無料化。老人、病人、赤ちゃんへの支援。
- ・復旧作業が、ほとんどボランティアさんのおかげで進めることができた。ボランティアさんが来てくれなければ、ただ、ぼうっと眺めるだけだっただろう。ボランティアさんに頼りっきりでダメだが、今後もボランティア活動が重要だと思う。体力だけでなく、心がポジティブになる気がする。市としてもボランティア活動の受け入れを継続していただきたい。
- ・吉田町で被災した子供4人を持つ親としての意見として申し上げたい。まず避難場所について立間小学校、公民館とともに浸水がひどく、とても避難できる場所ではなかった。避難場所の整備は安心の第一歩だと思う。復興について、主に水道施設などのライフラインの損害は破壊的だった。命に直結する施設の立地や、堅守性については見直しが必要だ。想定外の雨量と言うのは理由にならない。産業や事業において大きな損害を被ったが、県だよりの補助金制度は、その申請の労力が大きく現実的ではない。生活の基盤となる仕事における損害保険、労働環境の現場復帰のためのサポートは、もっとあっても良いと思われる。
- ・洪水、高潮などのリスクが大きい。城壁に囲まれた安全な住宅を作る。円山球場などギリシャやイタリアのポリスに似ている。島の3分の1削って、土で海を埋めて二次産業の加工場などに使う。スローフードも段々畑に導入。宇和島の段々畑は高級な果物ができる。段々畑の地価はぶどうの状態が決まる。南予の高級ミカンも段々畑でできると言っても過言ではない。段々畑の高級果物を。水害や地震津波は怖い、人がいなくなるのはもっと怖い。人を守り増やすのは行政ができる。
- ・地区ごとに病院や学校、大きいコンクリートの建物の屋上の活用、暑さ寒さ対策、備品備蓄品の確保。自然の電気が使える設備を整える。水の確保。
- ・災害時、浸水と断水で苦労した経験より、三間町認定こども園の一時預かりの早期実現を提案します。平時から実現できていないので、難しいとは思いますが、断水だけで大変だった親子がたくさんいた。特に1号認定の子供用に確保して欲しいと思った。子供を預けられる場があったら、吉田に手伝いに行けたのに、と言う声もあった。また家に帰るだけでなく、非常時の子供サポート、ちょっとした託児など預かれる場所を、平時から用意出来るように、広域で市と民で連携したらどうだろう。ミカン作業を小中高と必ず体験するようなプログラム、災害別の地域密着型避難経路と避難場所の確認の葉書送付プロジェクト。

地区担当の保健師、民生委員、消防団等の頼りになる人の名前と連絡先など詳細に。独居の方や、障害のある方、高齢者は特に、このプロジェクトの対象にする。

- ・高齢者社会になり若者が少ないので若者が働ける職場や企業を誘致すること。
- ・歩道のプランターや樹木は、歩道を狭くしているし雑草が多い。歩道から車道に降りるところの斜度がまちまちなので、危険になるし体の重いものはズシンと体を感じるので、速やかにバリアフリー化し、優しい道路にして欲しい。また所々、インターロッキングブロックが沈んでいて、ガタガタなっている。点検整備をしてほしい。歩行者、自転車利用者のため、歩車道境界石を車道と同じレベルにしてもらいたい。
- ・災害があっても住みたい街。そのためには見た目の街の外観が綺麗な街であることが大切である。利便性ではなく、どこよりも美しい街を目指していくべきだと思う。
- ・防災組織とは。台風地震、悪魔の集中豪雨、もっと身近に報道してほしい。中身の乏しい報道は不要。被災後の住民と市町村との情報伝達のあり方。幸い宇和島にはユーキャットもあり、チャンネル111で、市の情報が放映されていたのが偶然見つかった。正午の防災無線放送を約5分減らしていただければ、正午のテレビのニュースが聞きやすくなる。
- ・指揮、監督、担当者は、今回のような災害を経験したものが任務について、陣頭指揮をとってほしい。そうすれば段取りが良く、何事にもスムーズにはかどると思われる。担当者グループを作り、各戸全域に歩いて足を運び、災害を受けた家屋を回る。こういったアンケートもいいが、答えて筆記することがお年寄りには苦痛に感じると思う。
- ・避難勧告、避難指示ではわかりにくいので、避難命令にして欲しい。
- ・難題ですが頑張ってもらいたい。
- ・すべてのことを役人目線で考えないこと。
- ・ミカンの町ではあるが、知らないことが多いことを痛感した。ミカンの事を市民に知ってもらう取り組みを行ってはどうだろう。ミカン作業の講習会等の開催など。新聞で読んだが、被災のあった傾斜のきつい農地を、基盤整備する補助事業があるが、被災していない農地が隣接していると、整備事業に取り組みにくいということがあった。市からも被災していない農地に助成を行えば、県や市からの助成が出て、整備事業が取り組みやすくなるのではないかな。
- ・安倍首相がテレビの記者会見で宇和島に来た時、「復興のための予算措置を講じる」と断定断言している。様々な法令を駆使して、学校始め道路などの社会的資本の整備を急ぐべき。特に避難場所に指定されている学校施設の防災対策を図ってほしい。
- ・いつか来る南海トラフ大地震に向けて、防災意識を育てるイベントをする。今までにあった祭りやイベントは、いつもの通りやって欲しい。
- ・保手の内平川は、今回の豪雨だけでなく、大雨が降るたびに、川が溢れますが、住民が安心できるような対策をお願いしたい。
- ・新しい工場等の設置。家を建てるときの底上げの補助。堤防の強化、上に増設。後10センチ位で氾濫するので。川の底1メートル以上上げる。独居老人などの被災後のケアをお願いしたい。
- ・多くの住民が失望し事業の継続を断念している。新しく起業しようとしているものに対し、

支援をお願いしたい。

- ・宇和島城の周りにもっと賑わいある土産物屋さん、物産品を取り扱うお店、観光の目玉となるような「お城下作り」。駅周辺はインバウンドが見込めないまちづくりとなってしまった。なぜなら新しい建物があるから。きさいやの物販以外に観光となる場所があればいいと思う。あと九島はカジノアイランドになれば世界中から集客が見込めると思う。
- ・小さな自治会単位の食事などを通して、話のできる時間を作る。公民館までは、高齢となってはたどり着けないし、公民館には部屋がない。地域にある井戸の整備。
- ・学校単位でボランティア行く。吉田町内だけではなく市内からいけるようにする。
- ・北灘地区は津波が来るとほとんどの建物がなくなってしまう。避難ができて、一次避難場所で長期滞在することができない。高台に雨露をしのぐことができる二次避難場所が必要だ。防災公園として、南レクの休眠地である国永地区の山々を利用できないだろうか。もしくは、近くにある南レクオートキャンプ場を第2の避難場所として使えないだろうか。北灘の人は、たとえ津波で避難はできたとしても、次にどうしたらいいのかわからず、防災意識はほぼ諦めの人が多いように思う。「あそこに行けば、あの場所に行けば」と言う目標の場所が必要であると考え。
- ・吉田町から矢島、上重に向かう道が1本しかないこと。津島、三間は高速などのおかげで移動が早く、避難、救助に助かると思う。
- ・今回の災害で1番ひどかった吉田地区、特に玉津、立間地区の人たちの中には、もうここには住めないと出て行った人もいると聞く。災害にあわなくても過疎化が進んで、空き家が増えている現在、長年住み慣れた故郷を、後にしなければならぬ人生の心痛はいかほどのものか。心が痛む。宇和島市の復興に向けて全力を尽くしていることと思うが、宇和島の吉田地区は土砂災害が多かったように思う。大雨がいつ襲ってきても大丈夫になるよう、排水や砂防などの対策を早くお願いしたい。そして安心安全な街になることを願う。
- ・補助金等の書類をもっと楽に。大変すぎる。多すぎる。被災をした上に精神的にこたえる。
- ・御幸町に住んでいる。台風のために須賀川の水量が気になる。水が溢れないよう堤防の嵩上げをし、出来た堤防で道路が狭くなるが、一方通行にして交通量を分散させる。7月7日の朝は大雨になると気象庁のレーダーを前日から気にしていて、7月7日の朝は5時30分に目が覚めた。気象情報こまめにテレビ等で周知してほしい。
- ・果樹園の復興に向けては、急傾斜の崩壊農地を整備するのではなく、谷などを埋め立てて、農地の実作を図り、大規模農園を造成し、生産性を上げ、高品質の果汁などを作りブランド化を図る必要がある。生産者などは農園主等で行うことが1番であると思う。今まで市で真剣に農地改良に取り組んできたとは思えない。この機になすべきであると思う。新規の就農者、就漁者の中で、その者たちを受け入れる前に十分な身体検査を行う必要があると思う。第一次産業は体力面がものを言う。
- ・私は農家だ。農道の修理を早急をお願いしたい。いろいろな手続きはなるべく簡単にしてほしい。市民への対応をやさしく丁寧に改善してほしい。
- ・川の中の土砂や流れてきた木がそのままになっているのを見ると、次の水がまた溢れるのではないかと不安が募る。海までの水の流れる道を回復してほしい。

- ・行政の動きや方針が即座に伝達できる方策、浸水すれば停電に。被災したその日の食料確保のための自治区ごとの備蓄。被災したその日の老人世帯の支援のあり方を問う。7月7日の後の真実の検証。
- ・行事、イベントも多く取り入れ、市内の活性化ももっとすればいいと思う。市民が集まりやすい、天候にも左右されない商店街をもっと活用し、いつも人の行き交う場所として、交流の要になるようにして、そこを中心として郊外やその他のアクセスも考えれば、市内全域が活かされるのではないだろうか。立派な商店街、このままではゴーストタウン化し、宇和島市は衰退していくのではないかと思う。宇和島市、前向きに進んでいきたい。
- ・ボランティア活動も数多くしてみたらどうだろう。老人ホームでの食事の助けや、近くの老人ホームで手伝いが欲しいときには、近くの住民にも声をかけ、ボランティアに来て欲しいとか、動ける人が人の役に立ったらいいと思う。
- ・都市計画など明確なビジョンを持って、まちづくりを進めると同時に、リーダーとなるべき若い人材を育てる。
- ・河川について、年々川床が浅くなっている。浚渫をぜひ行ってほしい。葦やヘドロの対策をお願いしたい。堤防の法面を畑などに変え、私物化している違法者がいる。今回のような水害時には大きな影響を及ぼす。善処をしてほしい。堤防法面の草刈りや川床の整備を定期的に行うようにしてほしい。復興に向けた意見とはならなかったが、予防的な手段の1つとして取り上げていただくようお願いしたい。
- ・農業の振興、半農半漁の町なので、もっと楽しく農業漁業ができる町にして欲しい。
- ・老人ばかりが目立つこの街に、何が必要で何があるか。子供たちをUターンに誘おうと思っても難しい。商売をしようとしても、会社に勤めているにしても、やっていく事は難しいことばかりで、私自身も、歳を重ねて老いていく中で、アイデアが浮かばない。
- ・豪雨により浄水場が被災し、浄水給水機能がストップし、命の水が行き渡らず、市民生活に大変困った。浄水施設が被災したときに、生活用水として一時使用できるよう、地下水などの水源のバックアップ整備と、連絡手段の整備が望まれる。豪雨により、国道56号線が被災し全面通行止め、まさに陸の孤島だ。県道宇和島吉田線の道路を迂回しパニックになった。今後も充分起こりうる事が想定される。100年の計に立って将来のため、知永から大浦間のトンネルを貫通してはどうだろう。一時避難所としてもシェルターとしても使用可能と思われる。豪雨により、御殿内地区は遊水池状態となり、多くの家屋や車両、田畑に浸水被害をもたらした。天災とは言え、減災は充分可能だ。今回の災害を教訓に、原因を検証して復興に生かさなければならぬと思う。土手の嵩上げ、橋の嵩上げ、溜池の補強整備、河川改修で水門の改良、避難所の整備やライフライン強化が必要と思われる。災害の多い日本では、いつ自分が被災者になってもおかしくない。だからこそ、いざと言う時のために、知恵を多くの方が身に付けておくことが望ましい。防災教育の推進をお願いしたい。
- ・吉田公園の早期整備。
- ・避難勧告は、「避難してくれ」と言う事かと思っているが、吉田は、「避難は勧告が出たら避難しないでくれ」と言う意味で聞いた。言葉の理解が違うのか。復興関係のタウンミー

ティングに参加したが、参加者が少ないのには驚いた。自分の生活で手がいっぱい。道路や山、河川などの修理は自治体に要望を上げて、すぐに取り組んでくれないし、壊れてから直すという印象だ。

- ・今年吉田町でサンマ(三間さんま)を配った。三間町で開催しているコスモス祭では、みかん(三間みかん)を大々的にアピールしてみてもどうか。
- ・被災地、特に山林を復旧した後で、また同じような豪雨が発生したときに、また同じような被災をすると十分に想像できるのであれば、その土地は使ってはいけない場所なのではないか。宇和島全体を見たときに、悲惨な被害に遭われたところよりも、より安全で使いやすいところで空いている家や、使われていない家があるはずだ。それが宇和島市全体を見た復興事業ではないか。壊れた場所はすぐに直してほしいと、ほとんどの人は思うだろう。でもそこを安易に直すのではなく、将来を考えた復興をお願いしたい。
- ・中学校の敷地内への小学校建設の予定があるが、今回、学校が被災したので高台への建設を検討していただきたい。学校が被災して、そのために生徒が大会に出られなかったのがとてもかわいそうだった。また今回は土曜日の早朝だったため、学校や保育園に人がいないため犠牲者が少なかった。
- ・国としては災害復興法を制定すべきである。国民は平等であるから、今回のような大震災だけではなく、1戸や2戸など少数の災害を受けることもある。それぞれの家庭や企業に義援金を支給すべきである。
- ・海を活用して、若い人が流れない街を作ること。魅力ある企業の開発、それにより若い人たちが帰ってくる。海を活用して観光客を呼ぶこと。市民と市政、国それぞれ知恵を出すこと。養殖業のブランド化。全国の釣り人を呼び寄せる方法を考えること。
- ・災害の少ない、ないに等しい宇和島に住んでいる、と安心してた。今回の災害は、台風でも地震でもなく「雨」だった。地震の時はどうなるのだろうと不安だ。高知で被害が少なかったのは、住民の意識と、長い年数をかけて災害に強いまちづくりを行った結果だと聞いた。まず一人ひとりの意識を高める。防災訓練を地区や町内と言う、小さなコミュニティからコツコツと続ける。市役所職員、社協の方々も机上の空論ではなく、自分の足で歩き、目で確かめる。予算や庁内の空気などよりも、命が第一の行政になって、官民一体にならなければ、自然に流されてしまう。たくさんの力、知恵がある。活用してほしい。NPO 法人の方々の意見も聞いてほしい。たくさんの課題等がわかってくると思う。
- ・今後、学校や公民館などの建て替えや、改築等の際に、地域の防災に有効な設備を盛り込んでいただけたらと思う。例えば、手動の井戸や、食料等備蓄施設、津波避難施設など特に大規模災害時には、そういう場所が地域内に複数、点在していることが有効だと思う。
- ・豪雨になると、吉田町喜佐方地区の田んぼの水が吉田町御殿地区から流れ出て、浸水被害となるので、下記の2点を行えば、被害はもっと少ないと思う。1、吉田図書館前の水門を雨降り前からより早く全開にする。2、吉田中学校前の貯水池の排水ポンプを雨降り前から稼働する。2、を稼働する前に1、を行っていないと後に有効利用できない。今回は2、を稼働しなかったのではと推測する。
- ・使われていない学校跡地を住居にする。

- ・水道が 1 ヶ月止まったけど、自衛隊や他のボランティアの方が対応して下さって助かった。
- ・名産、名物、地域産業の活性。
- ・今回の災害により、吉田の人口減に拍車がかかると思う。人口を少しでも留めるには働くところが欲しい。今の吉田町では、収入を得ることがあまりないので、吉田町以外、全国に対して情報発信して、収入を得る方法を考えなければならない。そのためには、個人には限りがあり、市も協力してほしい。
- ・常時の施設機能は当然で、災害時に利用できる対応が大切で、利用が多目的にできる形が必要ではないか。仮設住宅は、大型船などを利用して、1000人、2000人の収納ができる集落やアパートとして利用する。宇和島のリアス式海岸を利用することが可能ではないか。災害救助のための大型船を、国や県と共同で作る事はできないか。陸路はダメでも海路は近くまではいける。インフラも最低限、確保できる。
- ・市民に安心感を届ける広報活動を願う。市民に復興の途中経過が丁寧に満遍なく伝えることができる広報活動が必要。行政が何をどうしようとし、それはどこまで進んでいるかを、きめ細かく伝えることが市民の安心につながる。行政は情報弱者の存在を意識するべし。情報発信の内容と方法について、権限を与えられている市長公室は、それぞれの情報が満遍なく公平に、過不足なく伝わっているか常に意識すべき。情報内容によって、市や関連団体の HP、防災ラジオ、CATV、新聞・ラジオ・テレビなどのメディアなどが選択されているが、この情報を受ける市民の条件は、時間帯によって、契約によって、設備・機器の有無などによって、個々に異なる。自治会の回覧版などの連絡網も、活用できるのではないか。有事の場合の人手不足の備えを。被害が大きい地域にはそれだけ派遣する人員も多くなり、相対的にその他の地域で、は住民サービスの質が低下することになる。いまこそ市が雇用する職員の構成を見直す必要がある。正規職員、嘱託職員、臨時職員という区分を、フルタイムかパートかの分類にとどめ、ワークシェアリングの考え方で待遇格差を解消し、有事にも対応できる人員の確保を図るべきだ。日頃からの行政と一般市民との連帯に注力を。「豪雨災害復興関連タウンミーティング」の事前提出意見を見ると、市民が多くの実問題や悩みを抱えているのが分かる。同時に、これらの意見は氷山の一角であり、多くの市民は行政に物言えぬまま、疎外感を味わっているのではないか。市は、要望をもって市庁舎に向く市民に対して、その市民に寄り添った対応を心掛けているだろうか。担当課が違うとあって、市民をたらい回しにしていないだろうか。一緒に解決しようという寄り添い方ができないものか。行政と市民の連帯感は、日常の関わりの中で醸成されるものだと思うのだが。既存地場産業の充実と新規開発・育成を。一部のグループや企業だけが潤うのではなく、広く市民に門戸を開放した取り組みを期待したい。多くの雇用が生まれ、市全体が活気に満ちた街になるように願う。
- ・災害により格差があったと思う。行政のきめ細かいサポートがあればと思う。
- ・避難所の改革をお願いしたい。特に津波による場合の避難所は、どこにどのようにして避難するかよくわかっていないので、東日本大震災のようにならないようにするには、どうすればいいか、もっと地区ごとに話し合い、自治体もなんとかするべきだ。何にも変わっ

ていない。とてもとても残念だ。

- ・自分の力でも、家の強化とかができる方法を学ぶ。イベントで客が集まる面白いアイデアを、一般人から募集する。
- ・年間の収入財源には決まった限度がある以上、優先順位をつけて行う。1、宇和島市の農業やほかの基幹産業の復興を行う。2、既に決定している補助金の見直しを図る。例えば地場づくり助成金を2倍にしたが、残り4年間は元の金額に戻すなど。少しずつ支出を削除して、宇和島の基幹産業に回す。
- ・新規農業従事者のための生活しやすい環境づくり。住宅、子育て、農地確保等を助成する。
- ・住宅街を流れる小さな側溝も調査して、整備をしてもらいたい。大雨の際に、水が溜まる場所の調査と解決を専門業者に委託可能ならしてもらいたい。
- ・災害地域の河川等の、スピーディーな復旧対策をお願いしたい。
- ・宇和島の地形は、海から鬼ヶ城山系までの距離が非常に短く、特異なものである。それゆえに集中豪雨による災害の発生が危惧されるが、普段は水清き流れがそこにはある。その流れを活かすために、薬師谷川、辰野川、神田川などに京都にあるような川床を作り、南予料理を提供してはどうか。このようなことをすることによって、市民により美しい河川を作らねばならないという意識が芽生え、災害の減少と、引いては美しい海をも守ることにつながると思う。
- ・スプリンクラーの修繕ができない。義援金や国からの復興予算があるのではないかと思うが、農家には入らない。誰も行かない避難所に職員を毎回配置するのなら、農道を直すとか、スプリンクラーの修繕費を負担するとかできないのか。国の予算や義援金の使用をきちんと報告すべき。
- ・車いすの方々が速やかに避難できるスロープを増やすべき。
- ・所有者不明や、手入れされていない空き家を取り除き、市有地化するなど活用できるスペースを増やす。
- ・避難する場所や介護人が逃げられる場所の確保。介護人はベッドやトイレなど不自由だ。また車椅子が必要だ。健康な人と同じではダメだ。今回はどうしても施設に入所しなければならなかった人、とても大変苦勞されていた。弱者のことも考えた避難場所の確保を充実して欲しい。
- ・市役所や公民館の人間がもっともっと動かなければ復興ができないのではないか。机の上だけの話ではダメだと思う。動かない人間、特に公民館の人間が多いと思う。動かなければ復興は望めないと思う。今の倍以上動いて欲しい。なぜなら早く復興して欲しいから。
- ・避難所の整備。トイレ、食べ物、ベッド、冷暖房、畳のある所。
- ・対応が遅い。現場確認、住民等への聞き取りの調査等で今後の参考にしてほしい。復興工事が遅すぎる。
- ・雨水、上下水道の拡大。雨水ポンプ場の設置拡大。公共下水道100%。道路整備。
- ・少子高齢化のもと、何十年も取り組んでいるが、特に少子化対策が重要である。農業、商業の跡継ぎ問題を解決しないといけない。
- ・陸屋根式の2階建に住んでいる。屋上の手すりの上に高さ26センチ、直径11センチの

ガラスの筒を置いている。先日の大雨の時、雨の降り方に注意していた。市役所にガラスの筒を適当なところに置いて、雨の振り方を捉えてはどうか。測候所が発表する前にとらえることができる。

- ・近い将来、起こるだろう南海地震についての対策をしっかりと考えて実施するべきだと思う。できることから備えないといけない。
- ・災害時の避難のための雑誌を各家庭へ配布。避難所での過ごし方など。
- ・伊方原発を停止する。事故が起きれば二度と元には戻らない。ミカン産業、他産業に先駆けて、環境保全型に移行する。食糧、農薬漬け、添加物づけの食べ物では健康は確保されない。世界では、除草剤（グリホサート）の使用制限をやっているのを知っているのだろうか。日本だけは使用基準が緩くなっている。きちっとした食糧生産を目指す町になってはどうか。
- ・今でも役所の方々の尽力で復興が進んでいるようだが、なお一層、力を入れていただき、特に街の片隅にいる人々の手助けを忘れぬように欲しい。
- ・吉田の特産みかんを使ったみかんの練り餡を作って、タルトにする。ギネスにチャレンジして、世界一長いタルトを住民で巻いて作るイベントをする。
- ・鳥首池の土手決壊により被災した。故にダムの利用で、バルブで田畑に給水できるように、宇和町を参考にし、復興する。
- ・各地区の公民館や集会所等での、コミュニケーションの場の充実を提案する。
- ・1回ごとに備蓄品の食料品、飲料水などを確保する。愛媛県出身の、水樹奈々さん、スーパーフライさん、友近さんなど有名人、四国出身の米津玄師さんなど有名人を呼んで、大きな復興イベントする。声優イベントをする。コラボカフェを作ってください。例えばヒプノシスマイクなど。
- ・結婚する人を増やさないと子供も増えない。宇和島には人が足りない。

## 2 意見・要望

○復興に向けたまちづくり等について、ご意見・ご要望等があればご記入ください。

(回答数：277件)

- ・みんなが忘れないこと。何をしても資金が必要だと思うので途中で切らないこと。家を新築する場合、ここなら大丈夫と言う土地を無償提供して、新しい自治会ができたらいいと思う。
- ・同じ市内でも、災害の有無で温度差がある。復興とは何だろう？
- ・復興、復興と騒ぐほどではない。東北や熊本に比べたらたいしたことない、騒ぎ過ぎ。
- ・持ち家の方について。今現在、まだ大工さん待ちで修理が始まっていないご家庭もあると聞きました。汚水が流れ、土砂が入り、いまだに修理もできず、不便な生活をされている方もいるかもしれないと思うと、他人事とは思いません。11月27日火曜日、やっと修理が始まった家を見て、ショックを受けました。そういった人たちの引き続きの支援をお願いしたいと思います。
- ・ボランティアの希望者が多数いたのに、受け入れがうまくいかず。需要が多くあったのに、そのあたりもうまくできないものか。
- ・自分の身近な人より、他人の方が優しかった。職場でも、仲間で助け合っていこうというより、自分たちが困ることばかり主張し、周りの心配などなかったように思った。時代の流れがそうさせているのか。今後災害があった時、どのような援助を皆がお互いに行えるのか不安である。
- ・災害の対象が住宅だけになっている。車は水に浸かり廃車、外のクーラー室外機や倉庫が水に浸かり、保険会社からもお金が出ず、市役所からも、補償や税金関係もだめだった。住宅以外も考えて欲しいです。
- ・最近テレビや情報機関等の被災地の話題がなく、もっと良い意味でアピールした方が良いのでは。災害当時はボランティア活動をしていて、ある程度の情報が入ったが、現在は知人を通してしか情報が入ってこない。災害後、山林の復旧、補助などは目にしますが、海、養殖や真珠の復興については情報がない。赤潮とも重なり、ダムの放流により水害の被害も出ているのになぜなのでしょう？
- ・何をしても、もっともっと若者が働ける街にしてください。企業を呼び込んで、安心して仕事ができる街、大都会の企業のような月給をもらえる会社を増やすこと。あまりにも給料が違いすぎます。若い人がかわいそうです。
- ・吉田公園のあるところで住んでいる者ですが、今までは公園には子供たちやその親たちがいっぱいいて、賑やかな声が聞こえていたのが、今では公園にはロープを張られ、その前はダンプが毎日行き交う、殺伐とした場所となっております。せめて公園だけでも整備をし、1日でも早く良い賑やかな場所としてほしい。公園は我々地区住民だけのものではなく、宇和島市全体で近隣市町村の子供たちのものでもあることを知って欲しい。1日でも早い復興を願うものである。
- ・市からの伝達がなく不安の日々でした。水門の事、ポンプを使用しているので心配しない

でとか何の放送もなく、辛かったです。消防からの声かけもありませんでした。

- ・明るく強いまちづくり。
- ・人口減少が進む中、コンパクトシティーを目指すのも1つの手段ではないでしょうか。
- ・来たる南海トラフを震源とする大地震及びそれに伴う津波により、宇和島市は今回の豪雨災害以上の災害に見舞われると思われます。今回の災害を教訓に、被災後の復興計画を立案しておく必要があると思われます。被災後、幸いにも生き残った方々が、その後の復旧が思うように進まないために、「あの時自分も死んでしまった方が良かった」、そう思わせないような準備をしておく必要があるのではないかと。当然災害に備えることも大事ですが、南海トラフ地震では確実に被災します。その後どうするのかというビジョンが必要です。
- ・災害後の復興には、時間と資金がずいぶん必要かと思ひます。崩れたみかん山、農地など、これから先被害に耐えられるように、先人の知恵や最近の知識などを使って、尊い人命が失われることのないよう、新しい宇和島を築いてください。また、近くの川は大雨の時に危険なので特に気をつけてもらいたい。来川を通ったとき、すごい状態に驚きました。
- ・81歳の独居老人です。泥水に浸った布団、タンス、畳等々私の手に負えないものを、廃棄したくても外に出すことができなくて、ボランティアを依頼しましたが1ヵ月後にやっと来ていただきました。もっと早く出せたら、タンスや水屋など廃棄しなくても使えたかもしれないのにと、残念に思ひました。子供や友人達の親切で、この難局を乗り越えることができました。また大金も必要でした。義援金、支援金は助けとなりました。市役所の人たちが親切で心が温まりました。
- ・排水路の整備と確保が遅れているように思ひます。今度の災害を教訓にして、問題点を迅速に改善してほしい。喉元過ぎれば、にならないように息の長い対策、対応を願ひます。安心して暮らせる街であって欲しいですね。
- ・危険な場所がまだまだたくさんあるので早く直してほしい。
- ・宇和島市や、私の裏山も含め早く復興復旧に向けて早く願ひします。
- ・とりあえず復興するために、元どおりにしてほしい。
- ・独居老人、少子高齢化問題が、町内会活動にも大きく影響を及ぼしています。
- ・宇和島市長さんありがとうございました。
- ・都市との交流を促し、自由平等の意志づくり。
- ・土木系建設等についてはまったくの素人で、有効な意見やアイデアは何も出ません。しかし、当市に限らず、各地に頻発する災害は、我々の常識を超えた規模のものが多くなっていると思ひます。私の居住地（妙典寺前4区）の実情から言うならば、そんな規模のものは起こり難いと考えられますが、それでも、山のすぐ近くに家があるケースや、妙典寺前1区のように、小さい川でも谷川が山裾の奥まで続き、両岸に大雨による崖崩れ等発生すると、たちまち流れが堰止められ、流木が橋のところで詰まって、表流水が下流まで流出して、床下、床上浸水が考えられます。土砂災害警戒区域の指定は、すでになされていると思ひますが、また、この地区に限らず、警戒すべきところは多々あるでしょうが、今後とも監視と適切な方策を推進してください。誠にご苦勞様で、感謝しておりますが。
- ・災害が起き、その後岡原市長がすぐに行動を起こしていただき、皆大変ですが、心の支え

にもなり、とても助かっています。もちろん全ての皆様が100%満足と言わないかもしれませんが、その時その時の最善策で、動き、働きかけてもらっていますので、私どもは充分だと思えます。まだまだ災害前に戻ったとは言えない部分もあると思えますが、今の市長のお考え、行動にお任せしたのでいいと思えます。

- ・ボランティアの方々にとても助けていただきました。ありがとうございました。ボランティアの方に、何をどのように対応してもらうことが安全で効率が良いのか、わかりませんでした。多分無駄になった作業も出てしまったと思えます。復興作業を指示できる人（ボランティアの人）がいたらいいと思えました。
- ・道路の消えかかっている白線などを何とかしてほしい。そのうちに事故が起きるだろう。各戸に配布された防災ラジオが、「FMがいや」しか聴けない。他の市町では同じ形式で数局を受信できるものがあるので、それに變更して欲しい。災害発生時には「FMがいや」は何も放送していなかった。宇和島安心ナビなどに登録しなくても大丈夫な「エリアメール」を活用する。旅行者などにも有効である。道路、特に歩道部分に土砂が残っており、雨天時にはそれが全て危険。
- ・道路の整備、河川の復旧を早くお願いします。
- ・要望している水路の土砂除けを早急にして欲しい。どのような予定で組んでいるのかも教えて欲しい。河内川の土砂、流木、植物の除去。溝掃除、地元住民では対応できにくくなっている。公費での対応をお願いしたい。
- ・復興という言葉だけがひとりりで歩いている感じがする。皆さんの話を聞くと、橋はまだ架けられてない。道路が崩れたまま。市の方も大変でしょうが、もっと大きく広く見てください。
- ・人口が減少していく小さな街を助けていただき、働く場所を作って活性化してほしい。各市町村の連絡網を整え、災害時の情報共有を密にしてほしい。高齢率が高いので、高齢者にわかりやすいようにしてほしい。字も読めなくなり、回覧板を回し忘れる人が多いなどたくさん難しいことがあると思うのですが。
- ・農道の復旧を早急に進めてもらいたい。ボランティアの方に今後も応援してもらいたい。
- ・若者が笑って子育てできる街になってほしい。今の宇和島にはエネルギーが感じられない。
- ・一人暮らしや高齢世帯の方々は、後片付けや水の確保に苦勞された様子で、何度か手伝いをさせてもらったが、皆さん我慢・辛抱。1日も早いライフラインの復旧を切望した。避難所でのペットは気になります。呼びかけがあれば、一時預かりも考えていました。
- ・復興に向けた将来のまちづくりの元となる農業面、商業面の助成金の比率割合が、農業では82%、商業では67%で非常に不公平さを感じます。消費税を除いた助成金ですが、復興に向けた助成金は、全業界一律にできないものでしょうか。内容はみかん産業が一番なのは理解できますが、復興に向けての助成は、全部の業界を対象とすべきだと思えます。
- ・被災して4ヶ月以上が過ぎたが、何ができて何ができない、補助が受けられる、受けられないなど、広報などで周知をしているのだろうが、複雑でわかりにくい。身近な支所に相談員や窓口を設置してもらいたい。
- ・現場復興ではなく、改良復興にしてほしい。

- ・街路灯を今以上に増やしてほしい。街が暗い。特に警察署の裏通りで学生の通学路など。
- ・土砂崩れや倒壊した家屋、国道 56 号沿いの片側通行で、山が崩れたままの状態が全く手付かずの状態であるのが気になります。また、住めなくなった家の解体が進まず、壊れた家を見るたびに、気持ちがどんどん落ち込んでいく人も大勢いるそうです。また、子供たちが遊んでいた吉田公園も、立入禁止状態のままなので、埋め立てられて新興住宅化した御殿内地区にある吉田公園を同じ場所に留めるのであれば、早急に嵩上げするべきだと思います。そして 1 日も早く、子供たちの遊び場所を復旧させてあげてほしいです。当初は家屋が倒壊し、泥出し作業、家の中の清掃、しかも車が流された人たちが、支所まであの猛暑の中を行き来する事は、不可能に近い状況であったにもかかわらず、すべての手続きを支所まで被災者が申請に行かなければならなかった事は、あまりにもむごいことだったと思っています。
- ・復興予算の有効活用に尽きると思います。当然、復興計画を十分に練って、早期実行し、被災者の復旧、復興を完了してほしい。ライフラインに関する事は、中途半端なものにせず、先のことを考えてよく施行してほしいです。今までは、「ことあるごとに追加工事」をよく見ることがあります。
- ・災害に強い街、私はこう思います。子供たちに、土砂崩れや地震、津波、色々と災害がありますが、ビデオ他で実際にあった災害を見せて、こういう時はどう逃げるか、どういう行動するかなどを教えて、頭で覚えさせ、時々学校で訓練をしたりする危機管理が必要だと思います。
- ・問 30 の全て。
- ・過疎化が進み、小中学校が廃校になっている今、避難するのに適した広さの場所がなくなりつつあるので、例えば郵便局や JA、漁業組合、公民館や診療所や駐在所などを集約し、複合型施設のような大きな場所、広い場所があれば、そこを拠点にして災害時も活動できると思う。
- ・今回の災害で引っ越す家もあると聞いています。できたら、今までのように帰っていただいて、一軒でも多く暮らしていただけると良いと思っています。隣がいないと寂しいものです。宇和町や三間町へ引っ越す方もいるそうです。ますます吉田の戸数、人口が少なくなります。どうにかならないものでしょうか。家や人口が少なくなるという事は非常に寂しく感じます。
- ・今回の豪雨の件で、私には大変なご尽力をいただきましたこと、ありがたく思っております。私たち被害にあったものとしましては、大変嬉しく思っております。本当にありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。
- ・川が近く狭い川は、大雨になると石がゴロゴロと流れて、山の砂の匂いとか音が変わったら避難といっても、全然聞こえません。住んでいる者にしかわかりません。山から水がたくさん流れ出て、道が川のようにになるので、道の途中に広めの溝をと、いくら依頼しても、直してもらえず、結果こんなことになったと思っています。大きな望みではないので真剣に検討してみてください。
- ・どちらにしても皆強く生きて行くことが大事。頑張ろうとする支援の施策などをおこなっ

ていく。もうこんな市や町が嫌だと思わせないような支援をお願いしたい。最後に全国から来ていただいたボランティアのみなさん、市や町の役場関係の皆さん、国からの支援、本当にありがとうございました。本当に助かりました。日本は良い国です。人々が寄り添う国だと思いました。アリガトウ。

- ・災害復旧道路、後で川や橋など工事を早急をお願いします。補助金の支払いを早急をお願いします。借りて支払いをしているため、早く返済したいので。なにごとにもお金がかかります。農道に関してはいまだに通行できません。農産物の搬出も大変です。早く工事をお願いします。
- ・次は南海地震が来ます。万全の準備をお願いします。
- ・防災無線の、市や支所からの放送が聞き取りにくい。わかりやすくゆっくりとお願いしたい。早口のため何を言っているのか、わからない。支所の方に何回もお願いしていたが、全く改善されず、何をしているのか。住民の意見を聞き入れて欲しい。
- ・来村川はあと 30 分雨が続けば氾濫する状況でした。川底の石や場所の状況確認を早急をお願いできればと思います。
- ・年々と豪雨・台風など、巨大化にあり、市内パトロールなど、危険な箇所をチェックされ、順次、補修工事等の予算を出されますよう、希望します。
- ・命を守るために青水を広く整備してほしい。
- ・避難場所が明確にわからない。
- ・この災害で、支援物資等の配布について温度差があったように思う。どこにもらいにいったらいいのかわからず、近所の方に教えていただいたが、もっと防災ラジオなどで情報を配信してほしいと思う。仕事があったのでボランティアができず、少し肩身の狭い思いをした。
- ・避難するにも安全な避難場所がありません。安心安全な場所を作ってください。
- ・災害後、早く元の生活に戻るため、自分たちで修理等、必死で頑張りましたが、自分で再建したら費用の支援はできないと言われました。何ヶ月待ってでも工務店さんをお願いするべきだったのか、暑い中家族で頑張ったためショックでした。義援金、支援金はありがたかった。炊き出しと支援物資等は出向かなければいけなかったので利用できなかった。特に独居の方は情報が入りにくく、大変みたいでした。
- ・我が家は被災状況が半壊です。半壊なら、床を掃除して少し修理すれば使用できるのではと思われがちですが、実際は泥水が家全体に入っており、少々の修理では住むことができません。新聞によると、国会などで半壊住宅の被災見舞金の増額が議論されているとの事なので、期待しています。県や市もよろしくお願いします。
- ・今後の災害に備え、湖水化したときの水難救助の方策と、国道 56 号線の復旧はもとより、これに代わる幹線国道の開通及び主要道路のさらなる整備が望まれる。風水害に対するライフライン、特に水道の整備の必要性を痛感しました。
- ・「奪い合えば足らぬ、分け合えば余るの」心を大切に。
- ・避難訓練の徹底をしてほしいと思います。
- ・災害後の行政側の対応は最悪。ボランティアに任せて、宇和島、吉田の地元の人がいなか

- った。大洲市にはホームページに災害時のマニュアルがあるが、宇和島市にはない。
- ・私たちは今年金暮らして何もしてあげられないけれど、若い人たちも頑張っているのだけれど、1人ではできないことも多いので、できる事は市民の皆様と少しなりともお手伝いできると良いのですが。答えになってなくてすみません。
  - ・復興活動をしながら、今後、くるであろう南海トラフ地震の対策についても、今回の豪雨災害の経験を活かしていただきたい。
  - ・安心安全を求めて、近隣の市町へ住民が流出することがないように、スピード感をもって、復旧・復興・環境整備を行ってほしい。今後も自然災害があることを想定し、被災地区が再び同じ被害を受けないよう、優先的に有効対策をとるよう、取り組んでいてほしい。
  - ・一般の災害に平等に援助してはどうか。義援金の出納の明細を明確に報告し、市民にもわかるように。
  - ・土砂崩れになったところを1日も早く、安全に工事をしていただくこと。ダムなど水を流すとき、住民に必ず早く伝えること。川や溝、水が多く溢れていました。小さい川と溝を広くしてほしいです。
  - ・地震の後の津波について、実際には車で避難するつもりの方がかなりいると思う。意識調査や移動のシミュレーションが必要だと思う。
  - ・地域によって支援の差が大きかった。隣までとか差がありすぎて、もう少し地区ごととか広い範囲で支援して欲しかった。
  - ・吉田駅の裏にある小さな川が、大雨のたびに増水し被害が出る。数年に1度は水が出て非常に困っている。浅い川なのに底がコンクリートで固めてあり、小さな橋に流木などが引っかかり、線路の向こう側の道路などが水没している。今回の被害は大きいので、優先順位はあるのですが、川沿いに家、ガレージがあるので、安心できるよう改善して欲しい。
  - ・公共の道路が悪い。狭くてカーブが多い。防災活動が遅れる心配がある。
  - ・行政の方たちも懸命に頑張っていてはいますが、もうひと踏ん張りしていただき、被災地区の土砂の撤去、砂防ダムの建設などをお願いして、安心して生活ができる地区、地域にしていきたいと思えます。
  - ・諦めと成り行き。
  - ・市役所の方々、消防の方々、他皆さん大変お世話になりありがとうございました。大勢の方々のおかげで、今、生きておられるのに、何故か、生きていくことにとても疲れています。でも、がんばり、希望を失わず、この地で生きていきたいです。
  - ・低所得者でも入所できる老人施設を増やして欲しい。
  - ・海岸で生活しています。大雨の後、多くの缶やプラスチック、ペットボトルなど流れてきました。普段から流れない、飛ばさない工夫をしてほしいです。
  - ・今回の災害の経験を生かし、水害対策や土砂災害対策を優先したインフラ整備にまず着手してほしいので、全国的に専門家のアイデアを集め実施してほしい。高知県の高潮対策の避難施設などを参考にしてほしい。

- ・個人の再建が大事だと思う。まだまだなのだからまちづくりまで手がつけられない。
- ・自分は家にいなかったのですが、近所の人に聞いたのですが、水はあったけど、車が水に浸かって動かないので食物を買いに行けず、食事に困ったそうです。
- ・人も少なくなり、空き家だらけの状態。部屋も荒れ放題。住む人もなく、今の状態、このような地区が多いと思う。産業、農業などに力を入れて、都会に出て行った人たちが帰ってきてくれて、安心して生活できるように。他にももっとたくさんあるが。このままだと宇和島の街はなくなってしまう。心配です。
- ・積極的な企業誘致を行い地域の活性化を行う。
- ・少子対策を積極的に進めていただきたい。地場産業の育成に力を入れていただきたい。空家対策を進め、住居を割安で購入できるようにしてもらいたい。
- ・大変な被害を受け、宇和島市全体が元気がなく、独特な雰囲気の中でのこの半年の生活でした。いつまでも暗い気持ちの中ではダメだと思う。もう気持ちが切り替え前向きな気持ちになれるよう、楽しいイベントの企画か、長期的な明るい具体的なビジョンを示してもらいたい。他の市町村の良いところを見習って取り入れて、まちづくりに活かしてほしい。この町を支える良い人材育成が急務ではないでしょうか。
- ・街の中心に何かみんなが楽しく集う場所があれば良いかと思います。町中が寂しい感じがします。他の街と比べるわけでは無いのですが、寂しい限りです。宇和島の街が置き去りにされたみたいです。
- ・寄付やボランティアを募るのをやめない。南海トラフで被害を受けたらこんなものでは済まないで、官民一体で協力できる体制づくりをしてほしい。
- ・地場産業の発展によって町が潤う。しかし今は、買い物はネット通販、松山へと流れている。その弱みを逆に宇和島の良さとして SNS でもっと全力で取り組み発信することが大切である。高齢者の住みやすい街であって欲しい。そのためには国民年金で生活しやすいことが一番。買い物に行って、イベントに行く足のために交通機関の充実を避けて通ることができない。街の明かりも必要。事故防止の対策、行政サービスのあり方も必要。子育てしやすい街でなければ若者が出ていってしまう。仕事をしながら子育てしやすい街を充実。
- ・グループ補助金の難しさ。もう少し簡単にしてもらえないだろうか。
- ・現在、指定されている避難所は災害時に避難所として機能するか疑問である。今回の災害でも公民館などが水に浸かってしまい、目的が果たせなかったように思う。大地震により津波が発生したら、海岸部の避難所はほぼアウト。ぜひ見直しを求める。ただ地域の中に、それに代わる施設は、ほぼ皆無だと思われる。
- ・河川の堤防の嵩上げも良いが、平時から川の土砂を常に撤去しておく。ヨシなど大型雑草は毎年刈り取り、台風時の水流を確保すること。どこの河川もこれができていない。各漁港も台風の後にはヨシの撤去作業で、人手と多くの予算(県負担ではある)を使っている。予防に言えば経費もトントンでは。
- ・防災士を増やす。
- ・宇和島市の一部の人や市民団体だけが必死に支援するのではなく、市民全体の非常事態と

して、宇和島市役所や社会福祉協議会の上層部の方々も、もっと関心を持ってほしい。「予算がないできない」などマイナスの意見ではなく、「でもこれならできる。可能性はある。この制度なら農家さんも助かる」というプラスの意見を持って今はできることを考えて欲しい。ボランティアさんや他県からの職員さん達、管理職以外の市民の窓口になってくれている市の職員さん達はそういう姿勢で支えてくださっています。

- ・今回の災害は、身近なこととして受け止めることができ、普段から防災避難の知識とマニュアルを確認すべきと改めて痛感しました。吉田町を中心に、災害に遭われた方々の、1日も早い復興を願っています。
- ・栄えている商業地区、国道沿いのところばかり復興が早く、行政も山間地に関しては確認不足になっているように感じる。街や住宅街と同じように、復興に力を入れて欲しい。例えば街灯が少ない上に、道路も整備されていないところが多いので危険だと思う。
- ・河川に堆積した土砂、自生した葦の除去をしてほしい。
- ・中規模の自治会単位で発電機やチェーンソー、スコップ、簡易テントの確保が必要。
- ・新ヶ鼻から宮野下町に通じる道路の通行が多く、しかし車幅は狭い。事故の発生を待たず、その政策を要望する。
- ・今回の災害で人口減少のペースが早まることが懸念されます。いかに人口減少のペースを緩くするかが復興の鍵となります。特に被害の大きかった吉田、三間地区は空き家が増えるなど、人口減少に伴う影響が出始めています。早急な対応をお願いします。復興計画は5～10年にわたる長期的な事業になります。社会の変化に応じて柔軟に対応できるようにすべきだと思います。
- ・災害発生前に、色々とメンテナンス、点検を、前もってしておくことが大切ではないかと思う。
- ・保育園、小学校、集会所などの吉田町の中心に集約してコンパクトな、中実のある街にしてほしいと思います。空き地と空き家ばかりの街は寂しいです。
- ・早めの支援情報を流す。生活再建資金を早めに出してほしい。工務店や大工さんの情報。高齢者世帯への配慮。
- ・子供を大切にすまじづくりが重要である。
- ・現在みかん採取の時期であるが、災害で運搬する機械が壊れてしまい困っているようです。早く直してあげてください。また、運搬の手伝いボランティアを世話してあげてください。今が一番大切な時期です。
- ・河川、道路で直接日常生活に関係しているところは、できるだけ早く直してほしい。そうでないところは、ある程度時間をかけて、一番良いやり方で直してほしい。
- ・災害見舞金、大事に使わせていただきます。ありがとうございました。
- ・まだまだ生活道路の整備が追いついていないと思います。国道や県道はもちろんなのですが、市道で応急処置のままになっているところなどは、車の通行などできないところもあったため早期に工事着工していただきたい。
- ・みかん産業についてしかわからないが、この災害を機会に、大幅な改革が必要だと思う。特に排水と農地を充実させることがもちろんだが、昔ながらの先祖代々の土地を守ること

は大事だと思うが、後はできるだけ改良の上、集約化を図るなどしないと、これから激減していく後継者では手が回らないのは目に見えている。Iターンなどで補えばいいが。しかし農家の意識を変えるのは難しいと思う。

- ・衣服のタンスに眠っているものを出し、リフォームして野良着や普段着られるエプロンなどを作る。家具類とか、不要物を大工して日常に使えるものを作る。家の整理、古いものを処分したり、その手伝いをしたり、リサイクルに出したり、リフォームしたりすることをやって欲しい。
- ・消防団員の安全を図ってほしい。活動中に山崩れなどが発生していて、もし、巻き込まれていたらと思うと心配だ。避難勧告をしても避難しない人は、以後は自己責任にして、消防団員も避難させて欲しい。家族が心配だ。安全が確認されてからの活動にしてもらいたい。何か事故があってからではいけないと思う。
- ・復興事業は予算の関係もあるだろうが、時間がかかりすぎないようにしてほしい。
- ・被災された方々への不安を取り除く助力をするなどの力の結集が、地元民(被災していない、日常生活を同じように営んでいる)には少ないと思えた。復興は並大抵ではありません。危機管理の組織代表を各自治会から選出するにしても、高齢化が進む現在、もっと大枠で代表者を選出するなどして、協力を求めたほうがいいと思います。
- ・被災された地域は大変だったと思うが、災害が少なかった地域(旧町)も高齢者が多いので目を向けて欲しかった。
- ・現在、住宅の応急修理制度を申請し、一部工事に入っています。しかし、改修内容に制限が多く、規定の予算内でも修理できない箇所を指摘され、不便で困っています。また市の指定の工務店に限定され、工務店も多忙でなかなか工事が入れず、今も生活できない状態にあります。もっと工務店を増やし対応してほしい。被災後、隣町のうちに避難生活を送らせてもらっています。その後、休暇の全てを家の片付け等に充てて生きています。各種申請で避難先、電話などを伝えていますが、日用品の配分連絡は地元の人のみに伝えられ、避難者には全く連絡なしです。各家の電話は無理でも、郵便受けにチラシでも入れてもらえれば、週末には見ることができるのですが。町外避難者への配慮をお願いいたします。
- ・復興とは少し違いますが、来村川の氾濫について対策をとってもらいたい。市ではなく県になると思いますが。今回は豪雨災害で援助が出たが、3年前などは全く援助が出なかった。次は数年間の被害など把握しているのでしょうか?今回の豪雨以外にも、川が氾濫して危険な思いをしているので、できれば川の整備を県にしてもらいたいです。
- ・被災箇所があれば、地区が陳情書を出すまで何もしないのではなく、早く工事などをしてほしいものです。このようなアンケートを書かす前に被災箇所、要望、陳情したところは早く直してほしい。
- ・国や県よりの支援をばらまき復興支援に使わず、被災者の方の衣食住を確保(行政支援)しつつ、市町村が整備計画を提案し実行してほしい。災害の根本対策をせず小手先の復興では同じ事ことを繰り返す。
- ・河川の土砂がまだ取り除かれてなく、河川に土砂が堆積しているところがある。
- ・雨が降るたびに7月7日を思い出し、山崩れがないか、水路は大丈夫か、などと心配

- でいっぱいになる。1日も早い復旧を願い、災害のない日が来ることを祈ります。
- ・今回の大雨の中に停電で天気予報等の情報が全く入らなかったのも、これからまだ雨が降り続くのか？止むのか？などがわからなく、避難すべきか、自宅にいるべきかが、わからなかった。特に思ったのが、ラジオで流れていたのが、普通の放送しかしていなくて、災害時には全く役立たなかったことだ。
  - ・何か起きてから動くのではなく、起きる前にきちんと整備し対処してほしい。
  - ・吉田町の者の多くは、今回の被災時における行政側の動きが悪いと感じており、市町村合併が裏目になったとも思っている。ボランティアの派遣にしてもそうである。緊急時は過去の町役場を拠点に動ける組織体制にでもしておけばいかがか。また、復興のための各種手続きについて、市役所本庁の方が早く終わると思いき、向かって、何回も本庁と吉田支所を往復することになり、難しい話になることが多く、そのたびに子供が松山からわざわざ付き添ってくれた。もう少し回数を減らせなかったのだろうか。工事が必要な主要な部分、せめて橋位から、そろそろ目に見える形で再建してほしい。近くの橋も仮設のもので、4トン車以上は通れず、大型ダンプカーは通れない。今回の豪雨で被災の様子が初めて判明したのが、新聞社が飛ばしたヘリからのYouTube動画でした。気象庁やNHKなどで入手できる仕組みをお願いしたい。
  - ・災害なんて他人事と思っていました。当地は一番安全な地域だと。ところが、この度の豪雨災害。信じられないことでした。私方では床下浸水が2ヶ月後に判明するという思いがけない事態となりました。シロアリ駆除から床フロアの張り替え、大変なことでした。業者さんの好意で、短時間で工事は終わりましたが、3週間かかり、大きな出費で痛手でした。私の方でもこのような大変な事でしたが、吉田方面の方々のあの被災された状態を思うと心が痛む思いです。友達にも2カ月間、避難所で生活をした人がいます。前に行ったのですが、涙々で想像を絶する光景は忘れることができません。被災された方々へのいろいろな面のフォローをしてあげていただきたく思います。
  - ・災害発生より既に6ヶ月が経つが、未だ復旧復興の計画等の、住民への説明がなく、要望の出しようのない状態で、行政への不信感になっている。さらには災証明書も、個人の手元に届いていない。
  - ・他県、他の地域にないものを活かす。
  - ・南海トラフが来ればまた家は終わります。低い場所にある避難所もダメです。何も無い高台に避難したところでどうしようもない。高台の避難所を充実したものにしてほしいし、自分たちでしていくべきだと思う。税金ばかりも使えないので、地域でもっと話し合っ、改善するほうが良いと思う。
  - ・1市3町の合併後、周辺3町の衰退は著しく、中でもバイパスから外れた吉田町は、他の2町と比べても、取り残された感が強いように思われる。吉田地域独自の文化継承に熱心に取り組んでいる住民も多く、みかん農家の支援は言うに及ばず、目に見えずとも、復興に向けた熱い思いを持つ人々を支えて欲しい。
  - ・街ばかり優先してはだめだ。
  - ・自身の安全を優先するのが第一であるが、家族や近所に病人や寝たきりの人がいる時、ど

う対応するのか、マニュアル作成が必要だと思う。吉田町の御殿内の災害で感じた事は、水はけの設備が必要だということだ。

- ・10年後20年後の人口減少、年齢構成を想定したコンパクトなまちづくりのフレームを検討していただきたい。今回の洪水や土砂災害に対する復興計画を考えるのではなく、将来の南海トラフ大地震の被害想定にも配慮した復興まちづくりのための前準備を包含したまちづくり計画を策定し、実現に向けた施策を段階的に検討していただきたい。
- ・今回のことで、人と人とのつながりの大切さを痛感しました。今、現在、ひとりている時、天気予報を見ている時、救急車のサイレンを聞いたとき、とても苦しく怖くなります。人と触れ合い、心も身体も暖かく、ほっと癒される場所があれば嬉しいです。吉田公民館のカフェをのぞいたこともありましたが、いっぱいで入れませんでした。人と触れ合える場所の提供があれば嬉しいです。土曜日限定など、日にちを指定されると、どうしても行けなかったりするので、もう少し幅広い日時と時間で再開していただけるものがあればうれしいです。
- ・ボランティア等に貸し出す車を何台か確保する。
- ・私がこの地域に住んで82年になります。今回の豪雨災害は前代未聞でした。山海の自然豊かなこの地域が大好きです。特に太陽が沈む、あの瞬間の日は oh.ワンダフルですね。この国土・世間をなんとしてでも復旧していくのは、人間一人一人の力だと思います。ぜひ宇和島市吉田町の地域を団結して発展させたいものですね。今こそ住民の力が発揮できるチャンスだと感じております。
- ・吉田町では災害以降、多くの人々が町を出て行った。空家や更地が多く、皆が帰ってこられる、または別の方が住めるように、市政が頑張ってください。
- ・他町、他市、他県でも避難場所であれば援助が受けられるのでしょうか。手続きが必要なののでしょうか。何らかの形で知りたいです。今回の災害に対し、ご支援いただきましたこと、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
- ・ボランティアを要望していたが、間にあわず、知人を通じて、自宅の復旧をしていただきました。市が窓口になるのも必要でしたが、早急に復旧したい場合、SNS などを利用して、ボランティアの団体の情報、例えば、今までにボランティア経験があるなどを通知してもらい、個人で依頼できるようにしてもらいたい。
- ・復興に向けたまちづくりとは少し違うかもしれませんが、津島町はあまり被害がなかったようですが、我が家は一部損壊とはいえ被災しました。エアコンやボイラーの買い替え、倉庫の荷物処分など、費用も労力も大変な負担でした。被害の大きい地域はもっともっと大変で、これくらいで済んで良かったと言わなければなりません、やり切れない思いです。今後、危険箇所の点検や補修など、続けてほしいと思います。被害が起きる前に、住民からも声を上げていくべきだと、今回強く思いました。
- ・安全な山にして欲しいです。またあのような怖い思いは二度としたくないです。あの時期、雨が降るたびに避難をしないように安全に生活できるようにお願いします。
- ・農業ボランティアは継続して受け入れて欲しい。1年だけではなく数年は続けてもらいたい。県道小名トンネル下の道路が狭くなっており、高校生の通学路となっているため危険

である。

- ・大雨が降っても、水がスムーズに流れるように、川や排水溝がつかまらないようにして欲しい。排水路の整備をお願いします。いつでも川がきれいに流れる街にして欲しいです。
- ・今回の豪雨災害で多くの事柄が、どれも全て重要であると思われ知らせました。まず、県、市、自治体との連絡網の確立。それと合わせて、地域に根ざした消防団の協力体制。小さな人数でのコミュニケーション力。ダム管理室との細やかなやりとり。個人の日頃からの意識の持ち方。この先、何が起こるかわからない地球規模での災害に向けて、恐怖をあおらないような注意事項や、現在の調査結果等の伝達。まずは、自分の生命第一、それがあれば助け合う心が大切と感じます。災害に遭われた方への心のケアを重視していただき、寄り添い優しい街になることを願います。
- ・ボランティアの方々には大変お世話になりました。お金の件も大変ありがたかったです。
- ・まだまだ通れない道もあります。でも旧道 56 号線の道をアスファルトにして通しているところがあります。どうしてなのか。
- ・大規模土砂崩れのほとんどはみかん農園。みかん農園復興にあたって、傾斜地での栽培のやり方を根本から見直していくこと。
- ・被災者の早期復興を望みます。
- ・大企業に入っていただき仕事の確保。今回の植林、竹林などの崩壊がかなり見受けられた。間伐が必要だし、根ばりのある災害に強い樹木の植え替えなどを行っていくなど、気の長い活動や取り組みも必要では。
- ・被災された方々の雇用の確保、精神的金銭的支援を行って欲しい。イベント的なことも多いが、今回の災害だけではなく、今後の自然災害を考えながら、安心安全に暮らせるように、個人では行えないインフラの整備に力を入れて欲しい。今回、市職員の方々が、災害直後より復興復旧に向けてご尽力いただきましたこと、感謝しております。お体大切にしてください。
- ・復興に向けて日々尽力していただけることに感謝しております。しかし、一方で市外へ避難せざるをえない者にとって、情報の少ないことが非常に残念です。各種手続きの多様さ、煩雑さはもちろんですが、こういった手続き等が必要なのか、部署ごとではなく、一括して提示していただくことができれば、と離れた地から何度となく思いました。対応していただいた係の方の、親身になって丁寧に対応していただく姿にはありがたく思うことが度々ございましたが、制度、申請等については、今後の改善をお願いします。自治体のみで実施できないのであれば、国への要求の声を、行政側からも届けていただきたいと思えます。
- ・国の補助金を活用した防災工事(10 年計画)。産業、スタートアップ、育成。ジョイントする企業と行政が連携。外国人観光を促すレベルの復興。
- ・水が断水している間、公民館に支援物資が置かれていたことは知りませんでした。後で聞きました。情報をみんなにわかるようにして欲しいです。知らない人もたくさんいました。「断水」で一番困るのは、弱い立場にある高齢者や障害者です。留守中にポストに、市役所の人からの手紙が届いてありました。今は、私たちが元気で見られているから良いので

すが。できれば紙1枚で片付けないで欲しい。本人に会って、どうか確認してほしい。自分から困ったことを発信できずにいるのです。これから先、どんなことがあるかわかりません。よろしくお願いします。断水の間、無料の温泉とても助かりました。ありがとうございました。

- ・水害の原因をはっきりさせ、災害前に戻すという復旧ではなく、同じような災害が起きないような計画を立てて、地元住民に協力相談するような復興にして欲しい。農業従事者の立場から、農地、道具の被害等と後継者不在から、農業をやめようかと迷う高齢者も、少なからずいるのではないのでしょうか。我が家も、小規模で老人2人で農業しております。後は工夫があれば、地元で暮らしていけると思います。
- ・大浦湾埋立地の有効活用。樺崎との橋の設置。例えば、復興日曜市の開催。宇和島特産のみかん、水産物、三間米などを安く販売するなど。外国観光客船の積極招致。若者が地元に残れるような産業の育成。第一次産業では残らない。短期大学の公立化移行断念の再検討。高齢者が安心して暮らせるまちづくり。買い物難民を減らす。移動販売を増やすなど。サービス付き高齢者向け住宅の増加など。
- ・一番必要な時に、支所は指揮命令等の権限がなく、対応があまりにも遅いと感じた。災害拠点施設が欲しい。河川改修、とりわけ定期的な浚渫が必要。山が荒れている。雑木など植林の奨励と補助制度の充実。
- ・人と人との絆を育むまちづくり。お互いの考え方や意見を話し合う場づくり。公民館などを利用して、年代別の会合や年代を超越した会合を開く。
- ・実家が吉田町玉津地区で、災害が起きた時、高齢の親との連絡がなかなかとれず心配しました。また、通行止めの区間の把握がしにくく、地元住民ならわかる山周りの迂回路とか、大変な時に細かい事のようにですが、情報提供していただければ助かりました。近所の付き合いが、日ごろからできているところなので、災害時には協力して行動していただき、高齢の親のことも助けていただきました。東京の方や高齢者の方は手続き等が大変だと思いました。証明書等の手続き支所に行くのはとても大変でした。
- ・今回の豪雨災害で町内多数の場所の浸水や道路の寸断等の被害が出た。どこにも動くことができず、不安であった。このような状況で、もし原発の事故を起こしていたらと思うともっと不安になった。復興もしなければならぬが、次の災害、「南海トラフ」が起きる前に、原発を止めて欲しいと思っています。今回の災害で被災がこれだけのことになったのだから、次の地震の時もっと大変なことになると思います。
- ・被災をされた方の1日でも早い復興を政府などをお願いをして、災害前に少しでも近づけるようお願い申し上げます。
- ・住民が自主的におこなっている活動を、丁寧に把握した上で支援をお願いしたい。規制の緩和。最後に残った少数の被災者が、光熱費の負担など他の住民の意向で、集会場に居続けることができなくなった。本当に弱い人、助力の必要な人は誰であるかを考えなければならぬ。少数者の支援をお願いしたい。被災を理由に過剰な投資は考えるべきだと思った。控えていただきたい。
- ・家の周りに崖崩れ等が3箇所できてしまっています。

- ・今回被害にあった場所は、今後被害に遭わないように、きちっと直していただきたい。
- ・河川の整備をしてほしい。
- ・三間地区の恒久的な浄水場のビジョンを早く決めて安心させてください。
- ・公共の施設において中途半端に使いにくい施設が多いように思います。場所や施設の規模、駐車場、その周りの整備等、せっかくの新しい施設が有効に使用されるように、工夫をしていただきたいと思います。点から線へ線から面へ、人の流れが賑わうよう拡大していくことの重要性を持っていただきたい。人口減少時代に突入している中、経済の発展と生命の安全保障の両面に、調和のとれた取り組みをお願いいたします。安心安全のみかん産業の発展と、危険な場所で住み続けるリスクと、難しい課題ではありますが、先延ばしは問題を大きくする気がいたします。
- ・山崩れから家を守る。
- ・南海トラフ沖地震が起きたときの避難路を変えてください。今回、山崩れがあったため難しいです。避難場所への誘導をお願いいたします。水が長期間、使えなかったときのための、井戸水を飲料水に使えるようにして欲しい。居住地の嵩上げをお願いしたい。
- ・行政の皆様、この度は大変お疲れ様です。70年近く生きてきて、今回のような災害は初めてです。今後もこのような災害はあると思わなければなりません、人間の力は微々たるものだと思います。しかし1日も早い復興を望みます。予算等諸々の問題があると思いますが、今回の災害の原因は河川や排水等の問題であり、少しでもそれを取り除きつつ、基本はやはり現場復帰ではないかと思っております。お願いいたします。本当にお疲れ様です。
- ・復興補助金等一元化してわかりやすくまとめる。細分化しても、最後は1つにまとめて素早く支給する。
- ・雨が降るたびに、山腹の崩れが気になり落ち着きません。大規模な災害のところが多いので、大変なのはわかっているのですが、崩れは家のすぐ上の方になるので、1日でも早く修復していただけるよう、要望を記入した次第です。よろしく願い申し上げます。
- ・自然の力には勝てない。防災減災も大切だと思いますが、災害が発生することを想定した避難場所を作り、避難する道を整備することも大切なのかなと思います。
- ・被災された方々に支援を続けられるよう、市の職員が街頭に立って募金活動する。
- ・活気のある動きのあるまちづくりをお願いします。
- ・当市の主要産業は、海や山が中心で、今回の豪雨ではみかん産業が被害を受けた。海の関係では、東南海地震が懸念されている。養殖施設はどうなっているか、東北の教訓を受けて、早めの対策をお願いしたい。
- ・国や県の方々に、実際に被災地を自分の目で見てもらうべき。見ると聞くではかなり違います。「百聞は一見にしかず」です。
- ・道路または河川の早期整備をお願いします。
- ・市が管理している林道が、災害を受け作業に支障をきたしている。災害発生後、市にお願い済み。
- ・今回の災害を通して、地区によって浮き彫りになった問題がある。なかには災害前から整

備してほしいと要望あげていたものもある。この際、過去の要望をもう一度、精査していただきたい。また私の地区では砂防ダムを作る話が出ているが、ダム水路を接続する既存の水路に問題があり、改善をお願いしたら管轄が違うとのことで、返事をいただかず困っております。縦割りの組織なのはわかりますが、話し合いや説明会では総合的に話し合いができるようなシステムをお願いしたいです。

- ・被災者向けの集合住宅の整備。若者の就労の場の確保。
- ・災害が起きたときの各地域の避難場所をもっとよく検討していただきたいです。避難場所の環境を改善していただきたい。
- ・別当に家を買ったのですが、近くの川が狭く、川の氾濫が強かったです。川が氾濫しないよう、広げるなり何らかの対応をして、安心して住めるようにして欲しい。
- ・防災ラジオを聴き逃すので、Twitterとかで文章として同じ内容を掲示してほしい。お年寄りも耳が遠かったりすると聞こえないのではないかな。しかしネットを使うのも難しそうではあるので、情報弱者の方は近隣の方とコミュニケーションを密にとるべき、伝達すべきと感じた。ホームページをまめに見ていたが、更新に手間がかかりそうなので、やはり簡単な SNS なので、タイムリーな情報を流して欲しかった。ほとんど友人等の Facebook が頼りになっていた。
- ・番城地区には避難場所が少ない、徒歩で行けるところがない。高齢者が石丸公園まで歩いていけるとは思えない。河川の整備をしてほしい。来年の台風シーズンが怖い。
- ・無理せず、自分のできる範囲で。
- ・若者が働ける会社が少ない、農業はコストがかかりすぎるので、農薬や肥料など、政府の援助が最も必要だと思います。
- ・強いて言えばボランティアのあり方について。今回困ったことは、はっきりしているので、それを書かせていただきます。災害ゴミが大量に出てまとめることができても、それを排出する手段がなく、立ち止まることが何度となくあり、落ち込みました。車を持ったボランティアはまずないと言われたと思います。家族が帰ってくる日に合わせて車を探しながら片付けし続けていました。畳を苦勞して外に出しても相談すれば、「いつか必ず行く」と言われただけで、結局は何の連絡もなかった。自分であちこち探して、運良くすべて前へ進むことができました。数少ない知人たちに助けられました。「じゃあどうすればいいのか？」明確な答えをもらえる場所もなく自分で解決してきたという思いが強い。運がほんとはよかったと私は思っています。自分でよくがんばったと思っています。
- ・自主防災組織は名前だけの組織であり、実際は災害発生時には役に立たなかった。行政主導で、年一回は行動することが必要ではないか。それにより安心、安全なまちづくりにもなると思う
- ・タウンミーティングなどで、市民の声を聞く試みはとても良いと思います。それだけでは吸い上げ切れない部分を、支所でも受け付けていると耳に入りましたが、それを地区全体に公募すると言う事はしていません。もう少し支所の人材のレベルをアップしてほしいです。過疎地域はインフラなどなかなか良くなりません。今回の災害で治水が全くなっていないことに驚きでした。またこの溝は国のものだから触れない。なら本当に国が日頃より

管理しているか?この災害で土砂を取り除いてくれたのか?結局、自分たちで土砂を掻き、行政は何もその後の対処もありません。その辺、一般市民で把握しきれない部分は、行政がなんらかの動きをしてくれる期待をしてはダメなのでしょうか?支所で吸い上げる→本所で共有する→対応していく位のことが可能だと思うのですが。家の解体、周りの溝、これは個人のものではないのですよね?しかし個人で調べて個人で動かしてしか事が進まなかったのもので、これを機に行政の連携、レベルアップを要望します。

- ・大雨による生活污水が流れてきました。下水道管の設備がないこの街は遅れている。将来的にはどこの家庭も水洗トイレになっていることを望みます。
- ・主となる道路を早く直してほしいです。片側通行ではなく。
- ・治水に関してもっと考えるべきだと思う。川や池、砂防このままでいいのか。
- ・被災された方に寄り添い、早期の復興に取り組んでいただきたい。
- ・私は外航船に乗っていて、ほとんど宇和島にいないのですが、遅滞なく復興に努められ、以前以上の笑顔あふれるまちづくりを切に願います。
- ・災害を受けた後はどの程度の修復されているのか分からないし、実感がない。国道の倒れた信号いつ直すのだろうか。目にするとところが良くなっていない。復興は進んでいますか。
- ・夜中の防災計画を立案し、周知させる。早期の避難。防災グッズを配布する。募金の有効活用と平等な分配。大津波や大地震、大火事の予防対策と情報の共有。市や町、市民にも協力してもらって復興に尽力したため、早期に元の生活に戻りました。しかし未だ家が破壊され浸水し、自宅外で生活されている方がいらっしゃるの、手厚い援助、支援がなされますようお願いいたします。今回の災害を教訓として次にくるであろう大津波や大地震に備えていただきたいと思います。
- ・水対策が無いと町から出て行く人が増えると思われる。
- ・今回、停電は思ったより早く復旧しましたが、断水に見舞われました。飲料水は、ペットボトルを配布してもらい不便さは感じませんでした。困ったのは風呂とトイレでした。人の噂によると復旧までには1年くらいかかると言うこと。がっかりしたことを思い出します。断水生活1ヶ月と10日位でしたが、非常に長く感じたものです。出来る限り早い復旧をお願いしたい。
- ・介護保険料を2か月に1回引き落とされているのに、今回の災害によって住宅の片付けなどをお願いしても断られた事は納得できません。家の中の掃除、風呂の掃除など足が悪いため、社協や役場をお願いしても、役場は社協へ、社協は役場へ言ってくれ、というふうにたらい回しにされました。
- ・今後の長期的展望で考えるならば、労働環境の改善により、産業が活性化する必要があると思います。吉田町では特にみかん生産地の被害が大きく、人口減少も多いと聞きます。市全体で見ても、災害に関係なく人口は減少していますし、若い世代、子供を持つ世代にとっても収入の安定化、公園等の整備、娯楽施設の誘致により、魅力あるまちづくり進めてほしいと思います。
- ・できるだけゆとりのある経済的支援。
- ・好きなものを作ることは一生やりたいが、70歳になってくる故郷が住みかねる状態にな

り、今更、家を建てることも難しいし、仏壇をどこに移そうかと考えあぐねている。松山の借家か内子の子供の方。さてさてみかんの収穫に忙しい。「貧乏暇なし」に慣れているが、早かれ遅かれ南予は猿の惑星になるのかもしれない。楽しい余生を送りたいものである。

- ・将来、過疎化して街が寂れていくのではないかと心配しています。
- ・とにかく被災が起きたときの安全な場所の確保、コンクリートの建物の屋上とかの整備。テント等準備する。
- ・危険箇所の確認、補強、安全確保、全体の把握、情報の共有。水害にあったときに、地震が来るかと思うと、とても怖かったです。南海トラフの同時多発も視野に入れて動いていたのか？今一度見直してほしい。また伊方原発事故発生時に、市がどのように動くつもりなのか、前もって示してほしい。吉田のみかんを一つの物語として復興のシンボルとする。山の保全。長い目で見た投資。どこが一番市内で安全と言える場所なのか。
- ・ボランティアの活用。困った時は助け合う思いやりのある国民でありたいと願う。
- ・今回貯水場が土砂崩れにより 2 ヶ月という長い期間、断水が続き生活も仕事も何もできず、日々給水作業に追われ、体力が疲れ果てました。本当に水のありがたさが身に染み、生活の上で必要なライフラインの水が使えないのは、困難極まりました。何とか三間町、吉田町それぞれの浄水場を、安全な場所に設置していただきたいと思います。二度と災害が起こって欲しくないですが、自然はわかりません。これからの未来の子供たちのためにも、住み良い地域をお願いします。また給水、お風呂など協力してもらった人たち、場所の提供には感謝の気持ちでいっぱいでした。
- ・まだまだ元のようにはありません。幾重にも被害を受けて、いつ安らぐ時が来るのか見当も持てずにいましたが、ボランティアの方々、周囲の方々の励ましや、力を借りることができ、本当に感謝の連続です。まだボランティアの方々が気にかけてくださり、訪問してくださったとき、時々お手伝いしてもらっています。時期的にミカンの採取が始まり、後から後から仕事に追われて、いつ安堵の日が来るのかと思っています。でもくじけてはいられません。がんばらなければなりません。答えにならなくてごめんなさい。
- ・災害当時、私は吉田図書館に避難しました。ですが図書館は避難場所に指定されておらず、館長は宇和島在住の方のため、鍵がなくて中に入ることができませんでした。雨に濡れ寒さで震える中、小さい子供もお年寄りも不安な時間を過ごしました。トイレに行くこともできず。あの時、吉田町の方が鍵を持っていたらと思うと宇和島市役所の方の対応に今でも悔しい気持ちが思い出されます。今でも図書館は復旧されておらず、これからの災害避難場所にはならないのですが、年配の方も多いので、いざという時もっと近い場所に避難できる場所があったら心強いです。地震で避難するようにと指定された場所は、今回の災害で崩れてしまいました。避難場所の見直しをお願いしたいです。
- ・水道管の設備がいびつになっていて、毎年、水道漏れをおこします。国道 378 号から汐入橋、吉高グランドから吉中正門、2 トン車が通行すると、直に水漏れを起こします。
- ・土砂災害避難対象地区でない所の被災。ダム放流の問題点などいろいろ教訓にできると思います。

- ・資金調達の簡素化。被災の程度で支援金の格差ありすぎる。町内放送で平穩時においては、完全に内容が把握できるが、実際の時は災害時では聞き取れない。一家に1台の防災ラジオは、町内放送が入電しない時がある。周波数の違うときがあるのか。家の中でも受信が悪く、良いところはほとんどない。今回の災害において各地域からのボランティアの方々には心から感謝です。それらの対応を担当した職員の方々にも感謝です。
- ・地域における放送が、特に冬に聞き取りにくいです。
- ・今回の豪雨災害を教訓にして、南海大地震の対応策を官民、併せて考えなければいけないと思った。
- ・水道が出ない日々など、洗濯や食事、入浴、すべてのものがいつも以上にお金のかかる生活だったのに、水道料金は2ヶ月無料では割に合わない。家に被害がないと補助金もない人たちがいる。もっと市民の生活はどうだったのか、よく考えてからなどを出してほしい。
- ・危険予測して、夜勤者や早出のスタッフはもっと迅速に業務遂行すべきではなかったでしょうか？市役所の当直者を増やしておく必要もあったのでは？
- ・私は72歳の年金生活者ですが、新しいものには興味があります。それなりに挑戦しているつもりです。このところどこを向いても横文字が多く、意味を理解するのに時間がかかります。勉強不足とは思いますが。老人にも、すぐ体が動けるような街を考えて欲しい。
- ・問39にも言えることですが、西日本豪雨災害でメディアなどでは、避難の呼びかけが不十分だったと言われているが、そうは思わない。消防団員を呼びかけたが、応じなかった人も多かったように思う。特に西予市など。問題なのは、危機感の薄い住民側。それと避難勧告を出して、仮に住民全員が逃げたら、全員入れる場所は本当にあるのだろうか？現実的じゃないので、それだったら家にいる方が安全だろう、と考えるから危機感が薄れたのではないかと思う。避難が必要な時を住民が認識できるためには防災の課題だと考える。
- ・今回の被災をきっかけに、人口流出が一番進むのではないかと懸念している。逆に若者呼び込む、水産大学部、研究所の誘致をのぞむ。
- ・治山治水が大切だが、地域は高齢化し、財力、人手とも不足。
- ・今年の災害は何十年に起きたことです。なるべく早く復興していただき、また裏山が崩れてきて不安です。年齢も行っているのが不安な生活をしています。早くできるのを待っております。お願いいたします。
- ・災害で子供が遊べる公園や図書館が使えなくなってしまい、遊びに行ける場所が吉田町にはないので、子供だけでも集まって遊べる場所が欲しいです。
- ・今回の災害を経験し、水の大切さや地域、ボランティアさんの助け合いを痛感させられました。特に、様々な方からの支援、また自衛隊様、本当に助かりました。災害後、泥まみれの家の中や職場を見て本当にガクっときました。どこから手をつけていいのかわかりませんでした。できることをやりました。泥出し、家財の撤去。本当に体力と気力の勝負で怒涛の1週間でした。その時に、土嚢袋やゴミ袋、家用の消毒液が必要でしたが、役場にはないと言われました。それから2~4週間位したら配布するようになっていましたが、被災して失う物が多いので、そういった必要な物質の確保と、全町民への通知をして欲し

- かったです。そしてボランティアの受け入れも、マニュアル通りではなく、被災を経験したことのある人に、手伝い求めることで、もっと効率よく復興が進むと思いました。
- ・復興に向けたまちづくりの前に、被災者の立場をよく考えて欲しい。大規模半壊、半壊の線引きが政府の方針で決められている事についてひとこと言っておきたい。1メートル以上大規模、1メートル以下半壊、しかし普通の住民は、日常使用するものは1メートル以下のところに放置、または置かれている。50センチや80センチでも、家具や家電は全部倒れて水没している状態であって、使い物にはならない。水害の際、建物には外から見てもあまり被害がないように見える。それでも半壊では不平等ではないか。検討していただきたい。
  - ・災害に強い上水道施設の早期建設。
  - ・吉田の中心部は高齢率が高く再生が難しい。お金をばらまくのではなく、コミュニティの再生ができれば良い。自治会へ入会していない人が増えた。避難など消防団が普段から地域に密着していないのに、消防団に頼りすぎている。
  - ・市民のみなが災害に強い安全な場所に住めることができれば、いろいろなリスクが解消されます。「近くて便利」が当たり前の時代ですが、これだけ自然災害が多くなると「少し遠くても安全」と言う考えが増えてくるように思います。市として、安全な場所に誘致することもありだと思います。津島で言えば、アクセスの道路は別として、「御槇地区」はとても適した場所だと思います。津波は当然来ない、川も下側が流れている、山からも少し離れている。宿毛へ通じる道もある。たとえ道が寸断されても少しの間であれば、食料の自給できるように思います。過疎化対策にもひと役買うかもしれません。安全な街としてPRできないでしょうか。
  - ・今回の土砂崩れ、山の斜面への安全性に配慮し、今一度、査定を急ぎで、早急に防護壁の設置、そして道路の整備、避難場所の確保と設置が急務であると思う。いつどこで何が生じるか解らぬ自然現象に対し、予算を安全確保充実に当て、作業して欲しく願う。
  - ・働く環境がないため、子供たちが学校卒業すれば都会に出て行ってしまふ。働きに出て行っても就職先があれば帰ってきたい子供もいます。農家を継ぐにしても漁業を継ぐにしても、食べていける収入が少ないため、親も帰って来いとは言えない環境があるのではないのでしょうか。せっかくおいしいみかんや魚がある街なのに、それでは食べていけないのは寂しい限りです。どうにかならないものでしょうか。
  - ・土砂災害が起こりそうな所の土留めの対策が必要。小さい河川の拡張。
  - ・タウンミーティングなどで提案していますが、私の住む場所は、時代とともに埋め立てがあり、排水路の広さは戦前のままで許可しているため、人生70年で4回水没しています。今回は多くの方が被災されたので、いろいろ手厚かったのですが、今では3軒とか2軒だったので完全無視でした。5回目の水没の前に、私の希望することを実現してください。保育園、公民館、公園、みかん選果場の間の水路を現在の河内川と同じ幅に整備されることを望みます。
  - ・今まで台風で雨が降っても大きな被害がなかったので、安心していた。地震で津波が怖いと思っていたら、雨でも災害だったので川の堤防の嵩上げをしてほしいと思う。

- ・2ヶ月の避難所生活に対して、三度三度の食事、入浴、支援物資など本当に至れり尽くせり感謝の気持ちでいっぱいです。助成金とか、義援金などもいただき、本当に助かりました。しかし、未だ被害の大きい方々は今も苦しんでおられます。新聞等でいろいろな方からの多くの義援金が報じられておりますが、最終的に私たちの手元にどのように配分されるのか知りたい気持ちがあります。
- ・新しい道路。例えば三間につながる道、災害時、病人やお年寄りを助けるルートを確立する。
- ・非常食品のわずかな蓄えはしているが、本当の緊急災害時、高齢の私たちは持って避難できるか自信がないので、市で十分な対応をして頂いているとは思っているが、重ねてお願いしたい。
- ・我が家は市内ですが、大きな被害がありませんでしたが。妹が吉田町立間におりますので、土砂崩れがあり、家は半壊、みかんは流されどう対処すべきか呆然としましたが、いろいろな助成金のおかげでどうにか生活ができるようになり感謝いたしております。これから何が起きるかわかりませんが人の優しさ、お互い励まし合って頑張っていけると言う思いでがんばります。
- ・アンケートだけでなく、被災地へ出向き住民の意見を根こそぎ拾っていただくことが先決なのは。
- ・今回、流木や汚水、瓦礫等が集められた場所、グランドなどの施設にやむなく置かれたところもあったけれども、市で回収場所をあらかじめ準備し、場所を設けておいたら、仮置き場で使用する場所があっても、すぐ決定した場所に置き回収することができるのでは。すぐ公共の施設または学校などの行事に使用できると考えます。
- ・再建するための補助金を充実させてもらいたい。
- ・高齢です。床下浸水でしたが、ボランティアは床下の泥、畳と床板は取り除いてくださいとの事でした。力が出ないので畳もあげて欲しかったです。孫が来てくれて、畳も床板も干して泥除けをしてくれましたが、床下は昔の家なので、土があり完全には取れなく、洋間などはそのままなので不安ですが、仕方ないと思っております。
- ・災害が起きた原因を突き止め、災害を忘れず地道でいいので改良を行う。そして防災意識を持った人材を身近に育て配置する。
- ・独居老人や後期高齢者などが、街の中央近くの利便性の高いところで余生を過ごすことができれば、街の活性化や運転免許証の早期返納に役立つと思われます。空き家対策や防犯灯の充実を提案します。水門や排水ポンプ等保安設備の確実な点検定期点検を実施する。山等の利用は安全対策を今一度再考願います。
- ・被災された方が高齢者の場合、自力で生活を取り戻す事は非常に困難と思われます。被災者用住宅の整備や、復興のための補助金を交付するなどの支援をお願いいたします。
- ・みかん農家の後継者確保。みかんのブランド化。
- ・近隣の住宅の裏山に、崩れそうになっているところがあります。早く安全にして欲しいと思います。
- ・人口の高齢化、減少が予測できる範囲で、先祖代々の土地とかの思いはあっても、インフ

ラ整備など考えると集約していく方向に考えた方が良いのではないかと思います。特に災害が起こる確率の高い地域は、長い目で見た計画を希望します。

- ・今回の災害は、除草剤による土質の悪化、保水力の低下、地中への水の浸透の速さなどが原因の一つと考えられる。除草剤の使用法や急傾斜地での禁止、梅雨前の禁止等について工夫してもらいたい。
- ・防犯対策、安心安全な生活、各自責任を持った生活、潜在意識の強化を提案します。
- ・今後に予想される災害、南海トラフの地震、それによる津波や伊方原発の事故などに対してのインフラ整備と、その時に対応できる防災組織や防災教育を実施して、各自が災害の時に避難所までは自分で行けるように、また高齢者など自分でいけない人たちは、近所や町内会等で避難できるような体制が必要だと思う。
- ・来年の大雨や台風の季節が来るまでに、来村川(保田川)の土手が2、3カ所崩れているので早く治してほしい。
- ・災害前よりも安全に、安心して暮らせることのできる宇和島であって欲しい。何年かかっても実現できるよう、しっかり計画を立てて、住民にわかるように説明してほしい。それと高齢者や子供、障害を持った方々も、安心して災害時に避難できるように考えてほしいと思います。
- ・避難所に行くにも、私たちの集落の対岸にあり、海岸沿いの道路を通るので土砂や津波によるリスクが高く、他の地域へ個人的に行こうと思っても、その時通る道路さえも小雨でも土砂崩れするレベルの道路で、災害のことを考えたとき本当に八方塞がりといった状態で心配です。
- ・御殿内のグラウンドの整備をしていただくようお願いいたします。
- ・水害の際に毎回、住民が不安に思っているのですが、地域の防波堤の高さが低く、水害の危険を毎回感じています。津波などがもし来たとしたら、多分最大の被害が出るであろうと考えられます。防災を考えていただけるなら、大きくそこを注意点として見ていただき、地域最大の危険を持つ場所であることを報告しておきます。
- ・とにかく避難所の整備をお願いします。特にベッドとトイレとキッチンをお願いします。
- ・大震災のところだけではなく、小さな災害、中規模の災害地もこまめに見てもらいたい。
- ・今回の災害に遭った地域の河川の土砂除け、山などの整備を早急に要望いたします。
- ・市役所の位置が、津波が来たり、液状化現象が起こると予測される場所にあるが心配です。
- ・災害の後、高齢などの理由から、家を壊し更地にしたり、修理をしないまま、市外へ移転する人や、みかんの放棄や離農が目立つ。これといった産業のない南予で、高齢化した人たちが、再度、農業や漁業を続けていくのは難しい。地球温暖化などもあり、再び災害に見舞われ見舞われる可能性が高い。また南海地震などの可能性もあり、将来に対する不安が常にある。予算も限られている中で、多くを実行するのは難しい。生活できる基盤のみかんや漁業等も、防災インフラ、つまり安心安全は守られるようにして欲しい。もちろん、食べていくことや社会福祉は大切だが、今まで何とかなっているので大丈夫。
- ・地域の自主的な防災や避難訓練、話し合いなど緊密に連絡しあう必要性を感じた。各家庭の状況を把握してほしい。外出できない人など取り残される人にも気を配っていただきたい

い。発災後、区によって差があったような気がします。台風、水害時の声かけなど。空き家等の確認。災害水害を受けた地区は、空家は潰したままの状態になっているのでは？衛生的にも良くないと思う。

- ・市町村同士並びに、県同士での情報交換、共有あるいは交流も重要なのではないかと考えます。
- ・今回の豪雨ほどの床下浸水では無いですが、普通の大雨で妻の家の横の水路に向かって山からなのか、水が家の方へ流れ込んできます。水路自体も古く、コンクリートが割れて底の脇から水が家の下へと流れ込んでいる気がします。常に殿生家の米と水が流れ込んでいる小路のところに置いて備えています。家の横の水路(側溝)と、大雨の日に流れ込んでくる大量の水をなんとか整備してもらえれば安心して暮らすことができます。
- ・いざと言う時に、最も大切なインフラは、道路だと思います。海と山の迫った、宇和島市の海岸線は特に気になります。車1台がやっと通れる位の道幅に、対向車の姿もギリギリまで見られない半円形のカーブ、もしここで山でも崩れたらとんでもないことになるのでは!と思う場所が多々あります。復旧するにも、もともとの道幅が狭すぎては時間がかかることでしょう。もしもの事態に応じ得る道幅の拡張を、急ぐべきだと思います。
- ・今回の集中豪雨では、橋桁に流木などが引っかかり、そこからの増水が多くあったと思う。それらの河川の上流を定期的に見回る組織をつくり、倒木や崖崩れ等の危険箇所をいち早く発見し、整備していく必要があると思う。そのために市役所のように「すぐやる課」などを設置し、失業者やボランティアやシルバー人材センターの協力を得る方策を考える。
- ・フリーWi-Fiの設備をお願いいたします。どこにいてもインターネットが繋がる環境。山家から、道路の整備を一刻も早くしてほしい。
- ・市役所や公民館の人間が上からの指示のみで動いている。その都度考えて行動してほしい。地区民のことをもっと真剣に考えて欲しい。避難に際して、つくづく人の気持ちを考えない人間の多さに寂しい思いをした。公の人間はもっともっと勉強して知識を高めて欲しい。市民の質問に的確に答えられるようにすべきではないか。
- ・みかん園の豪雨対策。乱開発しない。石垣や水路の確保。ため池については適正な管理を行うこと。
- ・復興を早くしてもらいたいのですが、被災していない人との隔たりが時間とともに感じていきます。なるべく早くに元の生活に戻りたいと思っています。被災に遭っていても、被害が少ないと思われて、なかなかわかってもらえなくて、悲しい思いをしました。被害にあってはじめて、いろいろわかることがあると、なってみて思いました。これからも頑張っていこうと思っています。行政の方も、これからもいろいろと、よろしく願いいたします。
- ・河川洪水への県や市の対応が遅い。現場確認、住民等への聞き取り調査等今後の参考にして欲しい。復興工事が遅すぎる。
- ・会社勤めの人のために、日曜日でもクリーンセンターを開けて欲しい。
- ・公共下水道、雨水ポンプ場ができて、朝日町等は大変よくなりました。今回の豪雨で、保田地区は大変な思いをしています。ぜひ公共下水、ポンプ場を拡大してください。吉田町

は陸の孤島となり大変でした。道路の整備が必要かと思えます。救援物資の運搬は二輪車(小型、中型バイク)が最良です。二輪車の協会等と協定していれば安心かと思えます。

- ・鬼北町に住所を置き、家屋、田畑の維持に当たっている。このたびの災害における市当局一丸となつての迅速かつ親切な対応深く感謝している。当方は、古型防災無線機であったため、緊急事態への意識が薄かった。(後日、防災ラジオを三間支所で購入した)

家屋横手の土砂崩れ、山水での床下浸水、やっとの連絡できた消防団であったが、「優先順位がある」とすぐさま帰宅され、また隣家からの土砂現場の確認もなく、孤独を禁じ得なかった。

土砂を自力で運んでいると、近くの水道工事の帰りのユンボでの手助けを受ける。こんな時はお互い様とのことうれしかった。相手を思いやる温かい心の持ちようが復興の鍵だと思ふ。

- ・私たちのところは、今回は大きな災害はなかったのですが、高齢者が多く自主避難もできない状態です。移住者の方が少しずつ増えてきていますが、過疎地のため、若い人が少なく老老介護をされている方も多く、寝たきりの方も5~8人ぐらいいます。一人暮らしの方もいます。台風など予知をできるものは何とか助けてもらいながら避難できるかもしれませんが、地震は予知が難しいと思うので、避難所まで行くことすら難しいと思えます。何とか良い方法があればみんな助かると思えます。
- ・宇和島市が今回受けた災害は、しっかりと、次に来る災害に対策していくようにとのチャンスをもたらたのではないかと思います。一度、宇和島市の地層をしっかりと調べて安全な街、災害に強い街を目指していただきたいと思えます。子供たちの為にも努力していただきたいと思えます。
- ・弱者も希望が持てる街にして欲しい。何とか近隣で働ける場所があれば助かります。そこそこの収入が欲しいです。
- ・住宅、田畑などが浸水しないように、河川の土砂を取り除き、川幅を広げるなどの工事をする。住宅の裏に山やミカン畑が迫っているところ、安全でない場所をきちんと確認し、豪雨が発生しても安全に避難できるように工事を行う。
- ・住居以外の被災者にもある程度支援が必要。被災後、防災ラジオでの情報伝達ができていないことが多々あった。放送がうっすら聞こえてくるが、ラジオからは聞こえなかったので、毎回、市役所に電話して内容を聞いていた。夏!冬ともに窓を締め切っているので、ラジオでの伝達は重要である。
- ・私は老人で何もできないが、復興は人が少なくならないことが一番良いと思えます。我が家の土砂崩れは、私が子供の時に危険でいちど村役場へ避難したところで、ずっと早くに工事をしておればと思いました。
- ・早急な河川の整備。
- ・ヒプノシスマイクのイベントをしてほしい。
- ・人が必要だ。子供が少なすぎる。定年後に入れる街を作って欲しい。帰りたと思える教育をお願いしたい。
- ・私たちのところは山留もしてもらっていないので、地震があるたびに山留を早くしてほし

いと切望している。子供たちの登下校の道にも、大小様々な石が道に転がっている。川には葦がずっと生えていて、これを早く除いて欲しい。

### Ⅲ 調査票

#### あなたご自身についてお伺いします。

問 1. あなたの性別について教えてください。[○は1つ]

- 1 男性                      2 女性

問 2. あなたの年齢について教えてください。[○は1つ]

- 1 29歳以下                      2 30歳代                      3 40歳代  
4 50歳代                      5 60歳代                      6 70歳以上

問 3. あなたの世帯構成について教えてください。[○は1つ]

- 1 単身（65歳以上）                      2 単身（選択肢1以外）  
3 夫婦のみ（共に65歳以上）                      4 夫婦のみ（選択肢3以外）  
5 夫婦と子ども                      6 夫婦と親  
7 3世代以上                      8 その他（                      ）

問 4. 災害発生時に居住していた地区（校区）を教えてください。[○は1つ]

宇和島地区	1 明倫	2 三浦	3 番城	4 宇和津	5 鶴島
	6 天神	7 九島	8 石応	9 小池	10 和霊
	11 住吉	12 高光	13 下波	14 遊子	15 蔣渕
	16 戸島	17 日振島			
吉田地区	18 吉田	19 奥南	20 喜佐方	21 立間	22 玉津
三間地区	23 三間	24 成妙	25 二名		
津島地区	26 岩松	27 御楨	28 清満	29 畑地	30 下灘
	31 北灘				

#### 当日（7月7日）の様子についてお伺いします。

問 5. 今回の豪雨で、あなたご自身、またはご家族は、避難しましたか。[○は1つ]

ここで「避難」とは、自宅から安全な他の場所へ移動することのほか、自宅の上階などに移動した場合も含まれます。

- 1 自分も家族も避難した（単身世帯で避難した場合も含まれます）  
2 自分は避難していないが、家族の中に避難した者がいる  
3 自分は避難したが、家族の中に避難していない者がいる  
4 自分も家族も避難していない ⇒問10へ  
5 自分も家族も当日は自宅にいなかった ⇒問11へ  
6 覚えていない ⇒問11へ

**問6. 問5で「1」・「2」・「3」を選んだ方へお聞きします。**

どこへ避難しましたか。次の中から、該当するものを教えてください。複数の場所に避難された場合は、全て選択してください。[あてはまるものすべてに○]

- 1 (自宅以外の) 指定された避難場所 (小学校、公民館等)
- 2 (自宅以外の) 指定された避難場所以外の避難場所
- 3 (自宅以外の) 親戚、知人の自宅
- 4 (自宅以外の) その他の建物内
- 5 自宅の上階など

**問7. 避難した方にお聞きします。**

最初に避難を始めた時刻は、いつ頃でしたか。[○は1つ]

- 1 7月5日午後6時まで
- 2 7月5日午後6時過ぎ～翌午前6時まで
- 3 7月6日午前6時過ぎ～午後6時まで
- 4 7月6日午後6時過ぎ～午後12時まで
- 5 7月7日午前0時過ぎ～午前7時まで
- 6 7月7日午前7時過ぎ～午前9時まで
- 7 7月7日午前9時以降
- 8 覚えていない

**問8. 避難した方にお聞きします。**

避難を始めた理由は何ですか。(あなたとご家族で異なる場合は、一番初めに避難した人について教えてください。)[あてはまるものすべてに○]

- 1 自宅が浸水したり、土砂が入り始めたから
- 2 自宅の周辺が浸水したり、土砂が流れたりしていたから
- 3 自宅付近の雨の降り方や川の水位を見て
- 4 テレビやインターネットで雨量や水位などの情報を見て
- 5 ゴーという地鳴りなど土砂災害の前兆現象があったから
- 6 近所の人や避難を始めたから
- 7 安全に避難することができるようになったから
- 8 市からの災害に関する注意喚起や自主避難の呼びかけから
- 9 避難勧告が出たから
- 10 近所の人や消防団員などに避難を勧められたから
- 11 生命の危険を感じたから
- 12 その他 ( )
- 13 覚えていない

問9. 避難した方にお聞きします。

避難したときの主な交通手段は何ですか。[○は1つ]

- 1 徒歩                      2 自転車                      3 バイク（原付き含む）  
4 自家用車                  5 その他（                      ）

⇒問11へ

問10. 避難しなかった方にお聞きします。

避難しなかった理由はなんですか。[あてはまるものすべてに○]

- 1 自宅が土砂災害計画区域等の避難対象地区に立地していないから  
2 自宅が浸水したり、土砂が入ったりしなかったから  
3 自宅周辺が浸水したり、土砂が流れたりしていなかったから  
4 自宅付近の雨の降り方や川の水位から安全と判断したから  
5 テレビやインターネットの雨量や水位などの情報から安全と判断したから  
6 近所の人誰も避難していなかったから  
7 市からの災害に関する注意喚起や自主避難の呼びかけを知らなかったから  
8 避難勧告が出たことを知らなかったから  
9 誰からも避難を勧められなかったから  
10 避難する方がかえって危険だと思ったから  
11 浸水しても2階などに逃げればよいと思ったから  
12 動きのとれない家族がいたから  
13 その他（                      ）  
14 覚えていない

問11. 災害に対して、あなたが日頃から知っているもの、準備しているものはなんですか。

[あてはまるものすべてに○]

- 1 自分の住んでいる地区の災害種別に応じた避難場所を知っている  
2 自分の住んでいる地区の災害に関するハザードマップを知っている  
3 家庭での非常食品（飲料水を含む）などを備蓄している  
4 市の安心安全情報メールサービスや伊達なうわじま安心ナビに登録している  
5 自宅が土砂災害警戒区域等の指定を受けている区域であるか知っている  
6 災害時・非常時の緊急避難袋等（非常持ち出し品）の備えをしている  
7 防災訓練に参加している  
8 家族と連絡方法を確認している  
9 特に何もしていない  
10 その他（                      ）

問 1 2. 今回の災害で、避難する・避難しないを決める際、お住まいの地域の現在の雨量や  
 気象情報等に関する情報を入手し、参考にしましたか。情報の入手先は、テレビ、イ  
 ンターネット、安心安全情報メール、防災ラジオなど全てを含みます。[○は1つ]

- 1 情報を入手し、参考にした
- 2 参考にしなかったが、どこに情報があるかわからなかった ⇒問 1 4 へ
- 3 参考にしようとは思わなかった
- 4 覚えていない ⇒問 1 4 へ

問 1 3. 問 1 2 で「1 情報を入手し、参考にした」又は「3 参考にしようとは思わな  
 かった」を選んだ方へお聞きします。

**「1 情報を入手し、参考にした」を選んだ方にお聞きします。**

その情報はどこ（何）から入手しましたか。[あてはまるものすべてに○]

- 1 テレビ
- 2 ラジオ
- 3 スマートフォンアプリ
- 4 安心安全情報メール
- 5 防災ラジオ
- 6 伊達なうわじま安心ナビ
- 7 家族・友人・知人等からの連絡
- 8 市のホームページ
- 9 県のホームページ
- 10 気象庁等の国のホームページ
- 11 Twitter・Facebook 等の SNS
- 12 その他（ ）

**「3 参考にしようとは思わなかった」を選んだ方にお聞きします。**

それはなぜですか（ ）

問 1 4. 今後、災害が発生した際に、適切な避難行動をとるためにはどのようなことが必要  
 と思いますか。それぞれお答えください。[項目ごとに○は1つ]

	そう 思う	う や や そう 思	思 わ な い あ ま り そ う	思 わ な い
気象警報等の予報の精度を向上させる	1	2	3	4
避難勧告や避難指示が外れても危険水準に達したら発令する	1	2	3	4
避難命令などより緊急性がわかる（伝わる）用語を使用する	1	2	3	4
自宅の災害に対する危険性を理解する	1	2	3	4
地域の近隣住民同士で日常から災害に備える	1	2	3	4
緊急時は近隣住民に声かけをしあって避難する	1	2	3	4
Twitter や Facebook など SNS のツールを有効活用する	1	2	3	4
避難場所・避難所の環境を改善する	1	2	3	4

問15～問21は、住宅が被災した方への質問です。それ以外の方は問22へお進みください。

すまいと暮らしの再建についてお伺いします。

問15. 災害発生時のお住まいの形態を教えてください。[〇は1つ]

- 1 持ち家（戸建、マンション等） 2 借家（戸建） 3 借家（アパート等共同住宅）  
4 社宅 5 公営（市営・県営）住宅 6 その他（ ）

問16. お住まいの被災状況（り災証明の内容）を教えてください。[〇は1つ]

- 1 全壊 2 大規模半壊 3 半壊 4 一部損壊、床下浸水  
5 被害無し、り災証明を申請していない 6 現在調査中

問17. 災害発生時のお住まいと違う所にお住まいの方にお聞きします。

あなたの現在のお住まいを教えてください。[〇は1つ]

- 1 持ち家（戸建、マンション等） 2 借家（戸建） 3 借家（アパート等共同住宅）  
4 社宅 5 公営（市営・県営）住宅 6 仮設住宅（建設型）  
7 仮設住宅（借上げ型、みなし仮設住宅） 8 親類・知人宅  
9 その他（ ）

問18. 豪雨災害からのお住まいの再建等について教えてください。[〇は1つ]

- 1 （親族宅などに住むので）自らの住まいの確保は不要  
2 借家・アパート等に入居 3 再建した・再建中（修理・建替え・購入）  
4 修理を考えている 5 建替えを考えている  
6 購入を考えている 7 再建は難しく、自らの住まいの確保のめどがたっていない  
8 その他（ ）

問19. 豪雨災害を踏まえ、今後のお住まいをどうお考えですか。[〇は1つ]

- 1 被災前の元の場所に住み続ける、住み続けたい  
2 同じ地区（コミュニティ）内の別の場所に転居を考えている  
3 市内の別の地区（コミュニティ）に転居を考えている  
4 市外に転居を考えている 5 現時点では判断できない  
6 その他（ ）

問20. 同じ地区（コミュニティ）に戻る（残る）ために必要なこと、すまいの再建にあたってのご意見等についてご記入ください。

同じ地区（コミュニティ）に戻る（残る）ために必要なこと	
すまいの再建にあたってのご意見等	

問2 1. 暮らしを再建する上で重視することを教えてください。[〇は3つまで]

- 1 自然災害に対する安全性の確保（河川・道路等の復旧、砂防・治山事業など）
- 2 電気・水道等のライフラインの復旧
- 3 日常生活（買い物、通院、通勤・通学など）の利便性の確保
- 4 医療・福祉環境の充実
- 5 教育環境の充実
- 6 近所づきあい・コミュニティの充実
- 7 働く場所の確保（農地・事業所等の復旧）
- 8 生活再建資金の確保
- 9 その他（ ）

**安全な地域づくりについてお伺いします。**

問2 2. 安全な地域づくりのために必要と考える施策(ハード対策)についてお聞きします。

[〇は3つまで]

- 1 居住地、農地等の嵩上げ
- 2 地区内の安全な場所への移転
- 3 地区外の安全な場所への移転
- 4 河川の拡幅、浚渫、堤防の嵩上げ
- 5 蛇行河川の対策、解消
- 6 放水路、遊水池等の整備
- 7 ため池の改修
- 8 砂防ダム設置等の砂防事業
- 9 山腹工等の治山事業
- 10 植林や間伐など適切な森林の整備・保全
- 11 その他（ ）

問2 3. 安全な地域づくりのために必要と考える施策(ソフト対策)についてお聞きします。

[〇は3つまで]

- 1 自主防災組織など地域での防災体制の構築、強化
- 2 消防団の強化（消防団への加入促進や消防団員の処遇改善など）
- 3 防災教育（講座）や防災訓練、防災図上訓練等の実施
- 4 身近な避難所の確認・確保
- 5 避難所等における防災備蓄品等の準備
- 6 災害時における情報伝達手段の確保・整備
- 7 地域での声掛け・助け合い
- 8 その他（ ）

**産業・経済復興についてお伺いします。**

問24. 災害発生前のお仕事（複数ある場合は主なもの）を教えてください。[○は1つ]

- 1 勤め人（会社、官公庁など） ⇒問25へ  
※アルバイト、契約社員・派遣社員含む
- 2   }
- 3   } ⇒問26へ  
  }
- 4 無職 ⇒問30へ

問25. 問24で、「1」を選んだ方へお聞きします。

災害発生前・後のお仕事の変化を教えてください。[○は1つ]

- 1 失業した（勤め先が被災したため）      2 失業した（自身が被災したため）
- 3 休職している（勤め先が被災したため）    4 休職している（自身が被災したため）
- 5 転職した（勤め先が被災したため）      6 転職した（自身が被災したため）
- 7 変化無し                                      8 その他（                                      ）

問26. 問24で、「2」・「3」を選んだ方へお聞きします。

災害発生前・後のお仕事の変化を教えてください。[○は1つ]

- 1 休業している ⇒問27へ
- 2 変化無し ⇒問29へ
- 3 その他（                                      ） ⇒問29へ

問27. 問26で「1」を選んだ方へお聞きします。

お仕事の再開の目処を教えてください。

- 1 再開に向けて目処が立った（市内で再開）
- 2 再開に向けて目処が立った（市外で再開）
- 3 再開の目処は立っておらず、市の今後の取組・事業を期待している
- 4 わからない
- 5 その他（                                      ）

問28. お仕事を再開する上で重視することを教えてください。[○は3つまで]

- 1 自然災害に対する安全性の確保（河川・道路等の復旧、砂防・治山事業など）
- 2 用地の確保（農地や事業所の復旧・再建、仮での用地確保）
- 3 電気や水道、設備、営農利水の復旧
- 4 雇用・後継者の確保
- 5 顧客・取引先の確保
- 6 その他（                                      ）







